

令和 7 年度使用

中学校・義務教育学校後期課程用 教科用図書調査研究資料

種目		ページ	
国語・・・	1	音楽一般・・・	8 1
書写・・・	9	音楽器楽・・・	8 5
社会地理・・・	1 7	美術・・・	8 9
社会地図・・・	2 5	保健体育・・・	9 5
社会歴史・・・	2 9	技術・・・	1 0 3
社会公民・・・	4 5	家庭・・・	1 0 9
数 学・・・	5 7	英 語・・・	1 1 5
理 科・・・	7 1	道 徳・・・	1 2 7

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	国 語
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称			発 行 者 名	
1 年		2 年	3 年	
国語 002-72 新編 新しい国語 1		国語 002-82 新編 新しい国語 2	国語 002-92 新編 新しい国語 3 東京書籍株式会社	
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 理解力と表現力の育成	① 「読むこと」の単位において、テーマを確認して見通しをもつことで、各単元で身に付けたい資質・能力を確認しながら学習を進めることができるように配慮されている。また、テーマを意識して文章の構成や展開を確認することで、筆者の考え方やものの見方を理解する力を育むことができるよう工夫されている。		① 1年「オオカミを見る目」(pp. 58－65) 2年「黄金の扇風機」(pp. 102－105)、 「サハラ砂漠の茶会」(pp. 106－109) 3年「絶滅の意味」(pp. 50－61)
	② 伝え合う力の育成	② 発達の段階に応じて、相手の考えを整理しながら聞き、自分の考えを明確に伝える学習を通して、多様な意見や考えを正確に理解し、適切に表現する力を身に付けることができるよう配慮されている。		② 1年「互いの発言を結び付けて話し合おう」 (pp. 210－214) 2年「話し合いで問題を検討しよう」 (pp. 207－211) 3年「話し合いで意見をまとめよう」 (pp. 204－208)
	③ 思考力や想像力の育成	③ 説明的文章では、異なる作品を読み比べて吟味する学習を通して、ものの見方や論の展開の工夫を考えることで、思考力や想像力を育成することができるよう配慮されている。また、文学的文章では、登場人物同士が関わる中で様々な価値観に触れる作品を取り上げ、登場人物の思いを想像したり、自分なりのものの見方や考え方を形成するために自己を見つめたりする力を育てることができるよう配慮されている。		③ 1年「私たちの未来」(pp. 40－47) 2年「足跡」(pp. 32－45) 3年「受け取る『利他』」(pp. 106－111)、 「『利己』と『利他』」(pp. 112－113)
	④ 言葉がもつ価値についての理解及び言語感覚を豊かにすること	④ 「読むこと」の単位では、作品中の表現と関連する言葉を学ぶことを通して、生徒の語感を磨き、豊かな語彙を身に付けることができるよう配慮されている。また、言葉に関する教材や文法に関する教材では、日常的な場面における会話や言葉に関する課題について考える活動が設定されており、言葉がもつ価値に気付くとともに、相手や状況に応じて適切な言葉を選択することができるよう配慮されている。		④ 1年「日本語探検 2 接続する語句・指示する語 無重力空間を楽しもう」(pp. 54－56) 2年「文法の窓 1 活用のない自立語 単語の区別 で絵を塗ろう」(p. 30) 3年「文法解説 表現に生きる文法」 (pp. 224－225)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・言葉に着目して文学的文章を読み深めるための具体的な手立てが示されており、生徒が登場人物の行動や物語の展開の意味を考えたり、登場人物と自分との考え方の違いを確認したりすることができるよう配慮されている。 ・社会生活における問題をテーマとした複数の文章や関連資料から必要な情報を集め、整理することで、生徒が考えを広げたり深めたりすることができるよう配慮されている。		(2)・1年「場面と描写」(pp. 110－111) 2年「人物像」(pp. 94－95) 3年「対比と象徴」(pp. 100－101) ・1年「共生社会について明文化した条例」(p. 224) 2年「無理なくできることから」(pp. 220－221) 3年「好きの地平線を探して―宇宙からウクライナへ」(pp. 215－218)
	(3) 読書習慣の形成に配慮されているか。	(3) 各学年において「読書への招待」で生徒の興味・関心を高めるような作品を取り上げることで、読書に親しむ態度を育むことができるよう工夫されている。また、1、2年では「読書と情報」が設けられており、本以外の資料からも自分の考えを広げたり深めたりする態度を養うことができるよう配慮されている。		(3) 各学年「読書案内」 1年、2年「読書と情報」 1年(pp. 76－77) 2年(pp. 76－77) 1年「お試し読書のすすめ」(pp. 180－185) 2年「メディアの垣根を越えて」(pp. 174－179) 3年「本との付き合い方」(pp. 178－183)
	(4) 我が国の言語文化に親しめるよう配慮されているか。	(4) 教材とは異なる発展的な古典作品や、古典作品に関連する文章が資料として掲載されており、多角的な視点から古典作品を読み、古典の世界に親しむことができるよう配慮されている。		(4) 1年「さまざまな古典作品」(pp. 265－267) 2年「書き手の肖像―清少納言と兼好法師」 (pp. 270－272) 3年「恋歌をよむ」(pp. 266－268)、

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1)・ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のそれぞれの単元において、生徒が自分の学習状況を振り返って自己調整しながら学習を進めることができる題材が取り上げられている。 ・ 「多様性」や「地球環境」、「平和・国際理解」などの社会課題に向き合い、考えを深めることができる教材が示されており、生徒の興味・関心が高まるよう配慮されている。	(1)・ 1年「グループディスカッション」 (pp. 210－214) 、 「日常生活から生まれる随筆」 (pp. 206－209) 、 「朗読の世界」 (pp. 16－25) ・ 各学年「未来への扉」 1年「多様性と共生社会」 (pp. 220－229) 2年「地球環境と人間社会」 (pp. 216－225) 3年「国際社会と私たち」 (pp. 214－223)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2)・ 巻末の資料編「読む」では、幅広い作品が示されており、本編の作品と読み比べたり、読み広げたりすることができるよう配慮されている。 ・ 各学年の「思考のヒント」では、思考ツールの使い方が掲載されており、「読むこと」、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の教材と関連付けて活用することで、生徒が思考を深めたり広げたり、整理することができるよう工夫されている。	(2)・ 各学年「資料編 読む」 1年 (pp. 246－267) 2年 (pp. 246－275) 3年 (pp. 232－271) ・ 各学年「思考のヒント」 1年 (pp. 280－281) 2年 (pp. 284－285) 3年 (pp. 280－282)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1)・ 「学びを支える言葉の力」として、全学年を通して「情報と論理の学び」、「文学の学び」、「対話の学び」の三つが設定されており、学年の発達の段階に応じて、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の学習を支える基礎的な力を習得することができるよう工夫されている。 ・ 教材の配列について、「読むこと」の教材で習得したことを、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の教材で活用・定着することができるよう領域間の関連が図られており、3年間を通して系統的・段階的な指導ができるよう工夫されている。	(1)・ 各学年「対話の学び」 1年「話の聞き方・質問の仕方」 (pp. 48－49) 2年「異なる考えの聞き方」 (pp. 46－47) 3年「合意形成の仕方」 (pp. 202－203) ・ 1年「私のタンポポ研究」 (pp. 118－127) 、 「意見と根拠」 (pp. 128－129) 、 「『写真』の意見文」 (pp. 130－133)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) 他教科との関連がマークで示されており、国語で学んだことを他教科の学習に生かしたり他教科で学んだりを、国語の学習に生かしたりすることができるよう配慮されている。	(2) 1年「平和のバトン」 (pp. 78－87) 2年「枕草子・徒然草」、「平家物語」 (pp. 124－145) 3年「絶滅の意味」 (pp. 50－61) 「いつものように新聞が届いたーメディアと東日本大震災」 (pp. 188－197)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	国 語
1 年		2 年	3 年	発行 者 名
国語 015-72 現代の国語 1	国語 015-82 現代の国語 2	国語 015-92 現代の国語 3		
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。 ① 理解力と表現力の育成	(1) ① 「読むこと」の単位では、現代的な課題が設定され、図表、グラフなどを結び付けて解釈したり、論理の展開について学んだりする活動を通して、正確に理解する力を身に付けることができるよう配慮されている。また、理解したことを基に、自分の考えが伝わりやすい文章の構成を意識しながら、自分の考えを表現することができるよう工夫されている。		(1) ① 1 年「ペンギンの防寒着」(pp. 44－47)、「クジラの飲み水」(pp. 48－55) 2 年「人間は他の星に住むことができるのか」(pp. 48－55)、「小さな手袋」(pp. 170－181) 3 年「フロン規制の物語―〈杞憂〉と〈転ばぬ先の杖〉のはざまで」(pp. 100－109)
	② 伝え合う力の育成	② 「話すこと・聞くこと」の単位では、発達の段階に応じて系統的に内容が精選され、聞き手に分かりやすく伝わる話し方や話の展開に注意しながら聞き取る方法を学ぶ活動などを通して、話題や展開を捉えた話し合い活動を行うことで、相互の意見や考えを伝え合う力を身に付けることができるよう配慮されている。		② 1 年「話題や展開にそって話し合いをつなげる」(pp. 36－39) 2 年「互いの考えを尊重しながら話し合いを深める」(pp. 38－41) 3 年「合意形成に向けて話し合いを計画的に進める」(pp. 46－49)
	③ 思考力や想像力の育成	③ 説明的文章の単位では、論理の展開や表現の工夫を捉える活動を通して、筆者の主張を的確に把握したり自分の考えを形成したりすることができるよう配慮されている。また、文学的文章の単位では、語り手の視点や着目すべき内容を示すことによって、直接書かれていない思いや価値を読み解き、思考力や想像力を育むことができるよう配慮されている。		③ 1 年「少年の日の思い出」(pp. 206－219) 2 年「小さな手袋」(pp. 170－181) 3 年「間の文化」(pp. 56－63)
	④ 言葉がもつ価値についての理解及び言語感覚を豊かにすること	④ 「語彙を豊かに」では、教材に関連する語彙を取り上げて語句の量を増やす活動を通して、巻末の「語彙の広がり」を参照しながら、語句同士の関係やつながり方を理解し、語感を磨き、語彙を豊かにすることができるよう配慮されている。		④ 1 年「竜」(p. 35)、「語彙の広がり」(pp. 324－327) 2 年「人間は他の星に住むことができるのか」(p. 55)、「語彙の広がり」(pp. 330－331) 3 年「握手」(p. 41)、「語彙の広がり」(pp. 328－331)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 「読むこと」の単位では、生徒が見通しをもって文章を読み、自分の考えを深め、学びを振り返るまでの過程が「学びの道しるべ」で示されており、主体的に学習を進めることができるよう配慮されている。 ・ 人間、社会、自然などをテーマとした文章とともに情報の扱い方に関する資料が示されており、情報を取り出して整理したり、情報と情報との関係を捉えたりすることで、生徒が考えを広げたり深めたりすることができるよう配慮されている。 ・ 巻末に「話し合いの形式を選ぶ」という資料が掲載されており、様々な形態の話し合い方が紹介されている。それぞれの話し合いに適したテーマ例も挙げられており、諸活動に取り入れやすくなっている。		(2)・ 各学年「学びの道しるべ」1 年 (pp. 24－25)、2 年 (pp. 24－25)、3 年 (pp. 24－25) ・ 各学年「情報を関係づける」1 年 (pp. 146－157)、2 年 (pp. 146－160)、3 年 (pp. 150－160) ・ 各学年「話し合いの形式を選ぶ」1 年 (pp. 308－309)、2 年 (pp. 314－315)、3 年 (pp. 312－313)
	(3) 読書習慣の形成に配慮されているか。	(3) 各学年において、作家が語る「私の読書体験」を設け、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を育成することができるよう工夫されている。また、具体的な読書活動の例を示したり、巻末において、様々な種類の作品を紹介したりすることで、幅広く興味や関心をもつことができるよう配慮されている。		(3) 各学年「私の読書体験」1 年 (pp. 94－95)、「読書の広場」1 年 (pp. 244－301) 1 年「私が選ぶこの一文」(pp. 186－187) 2 年「ビブリオバトル」(p. 187) 3 年「ブックトーク」(p. 191)
	(4) 我が国の言語文化に親しめるよう配慮されているか。	(4) 我が国の伝統芸能を紹介する資料や作品が掲載されており、古典への興味・関心を高めることができるよう配慮されている。		(4) 1 年「落語 桃太郎」(pp. 288－291) 2 年「歌舞伎 外郎売」(pp. 294－297) 3 年「狂言 柿山伏」(pp. 290－295)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1) 教材の挿絵に使用されるイラストや写真は、色の濃淡や配色の工夫により、読み手の理解を助けるとともに興味や関心を高めることができるよう工夫されている。 ・ 「歌の言葉」として、生徒が親しみやすい楽曲の歌詞が掲載され、言葉のリズムを楽しむ詩の学習との関連が図られている。	(1) 1年 (pp. 118－127) など ・ 各学年「歌の言葉」 1年 (pp. 228－229) 2年 (pp. 236－237) 3年 (pp. 224－225)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2) 各学年の「社会生活に生かす」や「学習用語辞典」では、情報活用についての資料や学習活動に役立つ用語がまとめられており、3年間を通して繰り返し学習することで、社会生活や学習で必要な知識を身に付けることができるよう配慮されている。 ・ 巻頭の「思考の方法」では、3年間で身に付ける思考の方法を一覧として提示し、各教材と関連付けることで言葉による見方・考え方を働かせ、情報と情報との関係を捉えたり、考えを整理したり深めたりすることができるよう工夫されている。	(2) 各学年「社会生活に生かす」、「学習用語辞典」 1年 (pp. 302－323) 2年 (pp. 308－329) 3年 (pp. 306－327) ・ 各学年「思考の方法」 1年 (pp. 16－20) 2年 (pp. 16－20) 3年 (pp. 16－20)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1) 全学年で共通した単元名を用い、学年の発達の段階に応じた教材を系統的に配列することにより、国語科で目指す資質・能力の育成につなげることができるよう工夫されている。 ・ 日本語と英語の語順の違いなど、英語との比較について示すことで、日本語の特質を考え、日本語をより深く理解することができるよう工夫されている。 ・ 「読むこと」の単元においては、生徒が身につけるべき力を明確に意識することができるように、文章の初めまたは終わりに「読み方を学ぼう」で示されており、生徒が何を狙いとして文章を読んでいるかがわかりやすいようになっている。図解が豊富で直感的にわかりやすい構成となっている。	(1) 各学年「わかりやすく伝える」 1年「説明文の基本構造」 (pp. 44－46) 2年「説明文の論理展開」 (pp. 44－46) 3年「批判的な読み」 (pp. 52－55) ・ 1年「五十音図とローマ字」 (pp. 328－329) 2年「文法のまとめ 日本語と英語の語順」 (p. 247) 3年「慣用句・ことわざ・故事成語 日本語と英語の慣用表現」 (p. 163) ・ 各学年「読み方を学ぼう」
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) 幅広い題材を扱うことにより、ものの見方や考え方を広げながら、国語で習得した論理的思考力や批判的思考力を他教科の学習や日常の言語生活に生かすことができるよう関連が図られている。 ・ 各学年の「情報を関係づける」(情報単元)では、現代社会における課題を取り上げて、対話を通して考えたり、問題解決したりする学習を位置づけている。	(2) 1年「クジラの飲み水」 (pp. 48－55) 2年「金継ぎの美と心」 (pp. 281－285) 3年「海を越えた故郷の味」 (pp. 88－95) ・ 1年「防災」 (pp. 147－153) ・ 2年「水問題」 (pp. 147－157) ・ 3年「メディアリテラシー」 (pp. 150－159)

令和 7 (2025) 年度使用中学校用教科用図書調査研究資料

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	国 語
1 年			2 年	3 年
国語 017-72 伝え合う言葉 中学国語 1			国語 017-82 伝え合う言葉 中学国語 2	国語 017-92 伝え合う言葉 中学国語 3
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか ① 理解力と表現力の育成 ② 伝え合う力の育成 ③ 思考力や想像力の育成 ④ 言葉がもつ価値についての理解及び言語感覚を豊かにすること	(1) ① 各単元の「学びナビ」で事前に学ぶポイントを確認し、見通しをもって学習することで、文章の論理や展開の仕方などを意識して理解することができるよう工夫されている。また、学ぶポイントを事前に訓練した上で教材に入ることができ、心身の準備性が伴っていない生徒が学習しやすいように配慮されている。 ② 各教材で自分の考えを伝え合う活動が設けられ、相手の立場や意見を尊重した話の聞き方や根拠を踏まえた意見の伝え方が例示されていることで、多様な意見を引き出して合意形成を図り、協働的に学ぶことができるよう配慮されている。その際、教材名や目標でも言語活動を明示しており、学びの関連性が理解しやすいように工夫されている。 ③ 「読むこと」の単元では、現代的な話題や多様な立場からの文章を読み比べ、観点を立てて自分の考えを深めさせることで、論理的思考力を高めることができるよう配慮されている。 ④ 巻末の「理解に役立つ言葉」では、設定したテーマに関わる言葉を提示し、言葉による様々な表現を知ることで、豊かな言語感覚を育成することができるよう配慮されている。また、「表現に役立つ言葉」では、考えを表現するときに使用する言葉の例をテーマ別に提示し、場面や意図に応じた表現を知ることで、考えを論理的に相手に伝えるための適切な言葉を学習することができるよう配慮されている。		(1) ① 1年「オツベルと象」 (pp. 152－170) 2年「夏の葬列」 (pp. 174－186) 3年「私」 (pp. 32－46) ② 1年「発言を結びつけて話し合う」 (pp. 229－231) 2年「さまざまな考えを踏まえ討論をする」 (pp. 235－237) 3年「自己 P R 文を書く」 (pp.199－201)、「意見を共有しながら話し合う」 (pp. 237－239) ③ 1年「桜蝶」 (pp. 24－29) 2年「日本の花火の楽しみ／水の山 富士山」 (pp. 48－62) 3年「asynce—同調しないこと／問いかける言葉」 (pp. 92－104) ④ 各学年「理解に役立つ言葉」 1年 (pp. 318－319) 各学年「理解に役立つ言葉」 1年 (pp. 320－321)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 「書くこと」の単元では、各教材の中心となる学習活動が明示されており、「意見文の例」など、モデルを示すことで、自分の考えが読み手に分かりやすく伝わる文章を書くことができるよう配慮されている。 ・ 「読むこと」の単元では、人間、社会、自然などをテーマとした文章が掲載されており、生徒が文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう配慮されている。		(2)・ 1年「資料をもとに紹介文を書く」 (pp. 45－47) 2年「確かな根拠をもとに意見文を書く」 (pp. 209－211) 3年「説得力のある批評文を書く」 (pp. 105－107) ・ 1年「言葉がつなぐ世界遺産」 (pp. 206－217) 2年「ガイアの知性」 (pp. 196－207) 3年「青春の歌—無名性の光」 (pp. 264－267)
	(3) 読書習慣の形成に配慮されているか。	(3) 各学年の「広がる本の世界」では、各単元の内容に関連した作品を提示することで、読書を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう工夫されている。また、「言葉の自習室」では、多岐にわたったジャンルから作品を提示することで、生徒の読書への意欲を喚起し、自ら進んで読書をし、読書を通じて人生を豊かにしようとする態度を育成することができるよう配慮されている。		(3) 各学年「広がる本の世界」 1年 (p. 32) 「言葉の自習室」 1年 (pp. 292－310) 1年「ベンチ」 (pp. 56－62) 2年「夢を跳ぶ」 (pp. 74－78) 3年「薔薇のボタン」 (pp. 50－55)
	(4) 我が国の言語文化に親しめるよう配慮されているか。	(4) 古典教材では、古典の世界に親しむことができるよう、作品の特徴や現代語訳、あらすじが古典の原文とともに簡潔に取り上げられている。また、作品の歴史的背景にふれるような解説や映像教材を掲載することで学びが深化していくように配慮されている。		(4) 1年「物語の始まり—竹取物語—」 (pp. 118－123) 2年「敦盛の最期—平家物語—」 (pp. 124－132) 3年「旅への思い—芭蕉と『おくのほそ道』—」 (pp. 118－127)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) 各学年のSDGs教材「持続可能な未来を作るために」では、生徒が日常的に向き合っている社会生活における課題を取り上げながら、文章を読んだり表現活動を行うことで、自分の考えを広げたり深めたりすることとの関連が図られている。 (2) ・ 各学年の「理解に役立つ言葉」、「表現に役立つ言葉」、「話すこと・書くことテーマ例集」、「学習に必要な用語（索引）」では、思考や表現のための語彙集やテーマ、主な学習用語がまとめられており、主体的に言葉の学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 各学年の「学びのチャレンジ」では、自らの力で初見となる多様なテキストを読む問題が設定されており、考える力、目的に応じて判断する力を養い、学力調査問題等に対応したり、活用力を高めたりすることができるよう工夫されている。	(1) 1年「人の暮らし方を考える」（pp. 80－89） 2年「不平等のない社会を考える」（pp. 96－105） 3年「人間の生命・存在を考える」（pp. 222－231） (2) ・ 1年（pp. 318－324） 2年（p. 330、pp. 334－339） 3年（pp. 320－326） ・ 各学年「学びのチャレンジ」 1年（pp. 192－204） 2年（pp. 212－224） 3年（pp. 210－220）
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 「目標」や「学びナビ」が教材文の前に示されており、学習する内容や学習過程を知ることで、目的意識をもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。また、その教材で取り組む言語活動の中で、どのような思考力をはたらかせると効果的かを解説と図解で示し、教材と自覚的に向かいあえるように配慮されている。 ・ 巻末に「『学びナビ』一覧」が設けられており、3年間で学習する内容を領域ごとに見通し、系統立てて学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 中学校の三年間だけでなく、小学校での学習内容を踏まえた教材や、高等学校の学習指導要領の内容を見据えた論理的思考力の育成をねらいとした教材を掲載することで、系統的な学習を円滑に展開できるよう配慮されている。 (2) 平和、環境、人権、産業など、生徒が日常的に向き合っている課題や現代社会の様々な課題を取り上げた題材を扱うことで、他教科の学習や日常生活における言語活動との関連が図られている。	(1) ・ 1年「自分の脳を知っていますか」 「目標」、「学びナビ」（pp. 36－37）など ・ 各学年「『学びナビ』一覧」 1年（pp. 315－317） 2年（pp. 331－333） 3年（pp. 317－319） (2) 1年「日本語の音声」（p. 50、pp. 266－269） 2年「水の山 富士山」（pp. 56－62） 3年「自分の意見を述べるとき一言の力と裁判―」（p. 236）

種 目			国 語
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称			発 行 者 名
1 年		2 年	3 年
国語 038-72 国語 1		国語 038-82 国語 2	国語 038-92 国語 3
光村図書出版株式会社			
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。 ① 理解力と表現力の育成	(1) ① 「読むこと」の単位では、情報の扱い方について、事実と意見の関係に着目して根拠を確認したり、文章の構成に着目して論理の展開を捉えたりすることで、文章を正確に理解する力を育むことができるように配慮されている。また、他者との立場や考え方、述べ方の違いを捉えるために、複数の文章を比較して評価する活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりして表現することができるよう配慮されている。 ② 「話すこと・聞くこと」の単位では、自分の視野や考え方を広げ、課題を解決する話し合いを通して、効果的な「話し合いのこつ」や具体例が示され、互いの考えを伝え合ったり、生かし合ったりする力を身に付けることができるよう配慮されている。 ③ 説明的文章では、複数の立場からの意見を読む活動を通して、文章を批判的に読むことで、自分の考えを形成する力を身に付けることができるよう配慮されている。また、文学的文章では、言葉から読み味わったことや表現の効果を考えたり、多様な解釈を交わし合ったりする学習活動を通して、豊かに想像する力や思考力を身に付けることができるよう配慮されている。 ④ 語彙に関する教材では、言葉を集めたり吟味したりする学習活動を通して、言葉がもつ価値について理解し、話や文章の中で使いこなすことができる語句を増やすことができるよう配慮されている。また、各学年 4 か所設けられた「季節のしおり」や各章の扉の言葉、各領域の「言の葉ポケット」において、様々な言葉や表現が紹介されており、語彙を増やす工夫がなされている。	(1) ① 1 年「『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」 (pp. 128－137) 2 年「モアイは語る―地球の未来」 (pp. 122－129) 3 年「複数の意見を読んで、考えよう―正解が一つに決まらない課題と向き合う」 (pp. 130－135) ② 1 年「話題や展開を捉えて話し合おう」 (pp. 192－195) 2 年「適切な根拠を選んで書こう」 (pp. 132－135) 3 年「合意形成に向けて話し合おう」 (pp. 186－189) ③ 1 年「空の詩 三編」 (pp. 62－66)、「詩の創作教室」 (p. 67) 2 年「君は『最後の晩餐』を知っているか」 (pp. 166－175)、「『最後の晩餐』の新しさ」 (pp. 176－179) 3 年「握手」 (pp. 16－27) ④ 1 年「動きを表す言葉」 (p. 21) 2 年「季節のしおり」 (p. 40) 3 年「時を表す言葉」 (p. 15)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 「読むこと」の単位では、教材文の冒頭に学習目標と言語活動が明示されており、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」を生徒が把握し、見通しをもって主体的に学習を進めることができるよう工夫されている。 ・ 生徒が自ら課題を発見し、解決を目指して主体的に取り組めるよう、各教材が個→集団(ペア・グループ)で進める構成になっており、学習活動全体を見通し、自らの学習を調整しながら、対話を通して学びが深められるように工夫されている。	(2)・ 1 年「二十歳になった日」 (pp. 224－227) 2 年「アイスプラネット」 (pp. 16－27) 3 年「作られた『物語』を超えて」 (pp. 44－51) ・ 1 年「はじまりの風」 (p. 28) 2 年「クマゼミ増加の原因を探る」 (p. 50) 3 年「握手」 (p. 26)
	(3) 読書習慣の形成に配慮されているか。	(3) 各学年において二つの読書単元が設けられ、様々な作品や読書活動を紹介し、読書に対して関心を高めることができるよう工夫されている。また、読書単元や「読むこと」教材末尾のコラムにおいて、教科書全体で 4 4 7 冊の図書を紹介しており、生徒を読書にいきなう工夫がなされている。	(3) 各学年「読書活動」 1 年「研究の現場にようこそ」 (pp. 196－201) 2 年「『自分らしさ』を認め合う社会へ」 (pp. 192－199) 3 年「本は世界への扉」 (pp. 190－197)
	(4) 我が国の言語文化に親しめるよう配慮されているか。	(4) 古典教材には、作品の詳細な解説とともに、現在にまで至る年表が掲載されており、それまでに学習した各古典作品の成立の流れが明確に分かるようになっている。	(4) 1 年「古典の世界」 (pp. 152－167) 2 年「平家物語」 (pp. 140－152) 3 年「和歌の世界」 (pp. 146－154)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 「読むこと」の文学的な文章の作品では、定番の作品だけでなく人気の高い現代作家の書き下ろし作品などをバランスよく取り上げるにより、生徒が興味・関心を高めることができるよう配慮されている。 ・ 系統別に整理された豊富な語彙例と用例が示された巻末の「語彙ブック」では、生徒がたくさんの言葉に出会うことで、自分の思考や感情を言語化することができるよう配慮されている。 (2) ・ 各教材の後に続く「言の葉ポケット」では、本文の言葉に注目するだけでなく、関連する表現にも目を向けることで、自分の思考力や表現力などに活用することができるよう配慮されている。 ・ 「国語の力試し」のページでは、学習した内容を活用する問題が位置付けられており、身に付けた力を確かめたり、資質・能力を活用したりしながら、学習を通して身に付けた力の定着を図ることができるよう工夫されている。	(1) ・ 1年「はじまりの風」 (pp. 22－29) 2年「ヒューマノイド」 (pp. 92－103) ・ 各学年「語彙ブック」 1年 (pp. 267－274) 2年 (pp. 267－274) 3年 (pp. 247－254) (2) ・ 各学年「言の葉ポケット」 1年 (p. 29) など 2年 (p. 27) など 3年 (p. 27) など ・ 各学年「国語の力試し」 1年 (pp. 262－266) 2年 (pp. 262－266) 3年 (pp. 242－246)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 各学年で単元のテーマを八つに整理し、学習内容を段階的・系統的に構成することで、学年の発達の段階に応じて学びを深めることができるよう工夫されている。 ・ 各教材の最後には、学びの見通し、課題やその解決の仕方、学習指導要領の指導事項に基づいた振り返りまでの一連の流れが示された「学びへの扉」と、学習の要点が示された「学びのカギ」を見開きで設置することで、その教材で育成を目指す資質・能力とその学習過程を把握しやすいよう工夫されている。 (2) 自然科学、情報、平和など、多岐にわたる題材を扱うことにより、他教科の学習や日常生活、社会の課題に目を向けることができるよう配慮されている。	(1) ・ 単元5「論理」 1年「筋道を立てて」 (pp. 128－145) 2年「論理を捉えて」 (pp. 122－135) 3年「自らの考えを」 (pp. 130－139) ・ 1年「文章の構成」 (pp. 50－51) 2年「文章と図表」 (pp. 50－51) 3年「論理の展開」 (pp. 50－51) (2) 1年「ダイコンは大きな根？」 (pp. 42－45) 2年「デジタル市民として生きる」 (pp. 80－81) 3年「天、共に在り」 (pp. 190－195)

教科用図書の記号・番号・名称		種 目	書 写
1 年・2 年・3 年			発 行 者 名
書写 002-72 新編 新しい書写 一・二・三年			東京書籍株式会社
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1) 書写の指導事項を効果的に学習できるよう、学習内容を精選し、主体的にねらいを達成できるよう系統的に単元を配列している。	(1) 全学年
	〔1 年〕 「楷書の字形」 「楷書の文字の大きさ」 「楷書の配列」 「行書の基礎的な書き方」 〔2 年〕 「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方」 〔3 年〕 「身の回りの多様な表現と文字文化」 (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。 (3) 挿絵や写真などは、内容に対応した適切なものであるか。	〔1 年〕 ・ 文字の外形を図形で囲んだり、部分の形や大きさを色で示したりすることで、字形や配列の仕方を意識し、生徒が文字の外形に気を付けながら文字を整えて書くことができるよう工夫されている。 ・ 行書の特徴的な「動き」のパターンの中から、使用頻度の高い四つの「動き」を示すことで、点画と点画のつながりである「筆脈」を意識し、例以外のさまざまな文字を行書で書くことができるよう配慮されている。 〔2 年〕 ・ 平仮名の「筆圧の変化」がある部分を色で示したり、「筆脈」を点線でつないで示したりすることで、行書に調和する仮名の書き方のポイントを学習し、行書と平仮名の調和について理解できるよう配慮されている。 ・ 内容を効果的に伝える書体や文字の配列の具体例を示すことで、楷書と行書を使い分けるために必要な観点を考えることができるよう工夫されている。 〔3 年〕 ・ 手書き文字が使われている身近な場면을掲載することで、生活場面で見られる手書き文字の良さを捉え直し、手書き文字の特徴や効果について主体的に考えることができるよう配慮されている。 (2) 手紙など具体的な生活場面や国語の学習場面を想定した課題について学習の手順を示すことで、様々な場面で扱う書式やその内容にふさわしい書き方を学び、学習した内容を生かして書くことができるよう工夫されている。 (3) 「文字といっしょに」では、手書き文字と活字の特徴、用具や文字文化に関するコラムを活用例と共に掲載することで、文字や用具の特徴について考え、文字文化について尊重する態度を養うことができるよう工夫されている。	〔1 年〕 ・ 「字形と配列を整える書き方」 (pp. 12－13) ・ 「行書の動きのパターン」 (pp. 26－27) 〔2 年〕 ・ 「行書と仮名の調和」 (pp. 50－51) ・ 「楷書と行書の使い分け」 (pp. 62－63) 〔3 年〕 ・ 「手書き文字の特徴」 (pp. 76－77) (2) 「生活に広げよう」 1 年「手紙を書こうーお礼状」 (pp. 22－23) 2 年「本のポップを書こう」 (pp. 60－61) 3 年「思いを文字で表そう」 (pp. 83－85) (3) 「文字といっしょに」 1 年「手書き文字と活字」 (pp. 16－17) 2 年「伝統的な用具・用材」 (pp. 58－59)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1) ・ 学年ごとのテーマを「身に付ける」、「使い分ける」、「使いこなす」と設定し、学年内においてもテーマに基づいた教材を配置することで、生徒が各学年で身に付けることが明確化され、段階的に学習を進めることで資質・能力を育成することができるよう配慮されている。 ・ 各単元では、「見つけよう」、「確かめよう」、「生かそう」の三段階の学習過程を示すことで、生徒が基本的な学習の進め方を確認することができ、見通しをもって課題に取り組むことができるよう工夫されている。	(1) ・ 「目次」 (pp. 2－3) ・ 1年「点画の書き方と字形の整え方」 (pp. 14－15) 2年「点画の省略」 (pp. 46－47)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2) ・ 学習や生活場面で想定される「さまざまな書式」が掲載されており、場面に応じた様々な事例を知ること、書写の授業で身に付けた資質・能力を日常生活で活用することができるよう配慮されている。 ・ 「硬筆字典」として、常用漢字表や人名用漢字表に掲載されている漢字の楷書体と行書体が掲載されており、生徒が自分で書きたい文字の手本として参照することができ、生徒の興味・関心や能力に応じて学習することができるよう工夫されている。	(2) ・ 「さまざまな書式」「書写活用ブック」 (pp. 1－14) ・ 「硬筆字典」「書写活用ブック」 (pp. 15－39)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1) ・ 「書写のかぎ」としてポイントを示し、学習する内容を焦点化することで、生徒が資質・能力を身に付けられるよう配慮されている。 ・ 1・2年で「まとめ」や「書写テスト」を設定することで、授業を通して学習した知識・技能を振り返ることにより、書写で必要とされる知識及び技能を定着することができるよう配慮されている。	(1) ・ 「書写のかぎ」 1年「文字の大きさと配列」 (pp. 20－21) 2年「点画の省略」 (pp. 46－47) 3年「現代につながる文字の役割」 (pp. 78－79) ・ 1年「行書のまとめ①」 (pp. 32－33) 2年「行書のまとめ②」 (pp. 56－57) 「書写テストに挑戦！」 (p. 44, p. 70, p. 88)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) ・ 国語科や理科のノート例、職場訪問のポスターやレポート、防災パンフレットなど、他教科や特別活動で扱われる言語活動や題材を取り上げることで、生徒が書写の学習内容が他教科の場面で生かされることを知ることにより、書写の学習内容の重要性を理解することができるよう工夫されている。 ・ S G D sを踏まえた社会課題を題材に取り上げることで、社会生活において書写の学びが生かされている場面を示すことにより、書写の学びを生活に生かそうとする態度を養うことができるよう配慮されている。	(2) ・ 1年「文字といっしょに 文字の移り変わり」 (pp. 34－35) 2年「生活に広げよう 職場訪問をしよう」 (pp. 39－41) ・ 「新聞・リーフレット」 (「書写活用ブック」 pp. 10－11)

教科用図書の記号・番号・名称		種 目	書 写
1 年・2 年・3 年		発 行 者 名	
書写 015-72 現代の書写 一・二・三		株式会社三省堂	
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。 〔1 年〕 「楷書の字形」 「楷書の文字の大きさ」 「楷書の配列」 「行書の基礎的な書き方」 〔2 年〕 「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方」 〔3 年〕 「身の回りの多様な表現と文字文化」	(1) 基礎的・基本的な知識および技能の習得と、それらを活用しての思考力・判断力・表現力等の育成への工夫が見られる。 〔1 年〕 ・ 「基本点画の組み立て」や、「部分の組み立て」、「文字の外形」を複数の色で示すことで、文字の組立てを視覚的に確認することができ、字形を整え、相手に読みやすい文字を書くことにつなげることができるよう配慮されている。 ・ 楷書と行書の文字を並べて具体的にそれぞれの特徴を提示することで、生徒がそれぞれの違いを理解し、行書を書くときに学んだ特徴を生かして文字を書くことができるよう工夫されている。 〔2 年〕 ・ 楷書と行書で書かれた文を並べて配置するとともに、行書に調和する仮名の特徴を視覚的に理解し、筆脈を意識して行書に調和する仮名を書くことができるよう配慮されている。 ・ 楷書と行書の使い分けについて三つの具体的な場面を設定し、生徒が主体的に読み手や目的、状況を踏まえた上で書体を選択することを考えることで、場面にふさわしい書体で文字を書くことができるよう工夫されている。 〔3 年〕 ・ 手書き文字や活字の変遷について、文字に関わる仕事に就いている「達人」の話を掲載することで、生活で用いられている手書き文字や活字の魅力を見いだし、効果的に文字を書くことの必要性について考えることができるよう工夫されている。	(1)全学年 〔1 年〕 ・ 「字形の整え方と筆使い」 (pp. 12－13) ・ 「行書の特徴」 (pp. 32－33) 〔2 年〕 ・ 「行書と仮名の調和」 (pp. 54－55) ・ 「楷書と行書の使い分け」 (pp. 62－63) 〔3 年〕 ・ 「身のまわりの文字」 (pp. 68－71)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) 「書き方を学ぼう 一覧」には、教科書で学習する楷書と行書の特徴や書き方のポイントがまとめて記載されており、生徒が学習を振り返ったり、今後学習する内容を確認したりすることを通して、生徒が学んだことを生かして実践に取り組むことができるよう配慮されている。	(2) 「書き方を学ぼう 一覧」 (pp. 117－120)
	(3) 挿絵や写真などは、内容に対応した適切なものであるか。	(3) 「点画の組み立て」や「部分の組み立て」について、アイコンを設定することで、注意すべき内容を示すとともに、色や形を用いてその具体を示して視覚的な理解を促すことにより、整った文字を書くことができるよう工夫されている。	(3) 1 年「字形の整え方と筆使い」 (pp. 12－13) 「字形の整え方」 (pp. 18－21)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 学年ごとのテーマを「身に付ける」、「使い分ける」、「使いこなす」と設定し、学年内においてもテーマに基づいた教材を配置することで、生徒が各学年で身に付けることが明確化され、段階的に学習を進めることで資質・能力を育成することができるよう配慮されている。 ・ 各単元では、「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」の三段階の学習過程を示すことで、生徒が基本的な学習の進め方を確認することができ、見通しをもって課題に取り組むことができるよう工夫されている。 (2) ・ 学習や生活場面で想定される「さまざまな書式」が掲載されており、場面に応じた様々な事例を知ること、書写の授業で身に付けた資質・能力を日常生活で活用することができるよう配慮されている。 ・ 「硬筆字典」として、常用漢字表や人名用漢字表に掲載されている漢字の楷書体と行書体が掲載されており、生徒が自分で書きたい文字の手本として参照することができ、生徒の興味・関心や能力に応じて学習することができるよう工夫されている。	(1) ・ 1年「字形の整え方と筆使い」(pp. 18－19) 2年「点画の省略／筆順の変化」(pp. 50－53) 3年「身のまわりの文字」(pp. 72－73) ・ 「書いて身につけよう」 1年「仮名の字形／文字の大きさと配列」(pp. 28－29) 2年「点画の省略／筆順の変化」(pp. 50－53) など 3年「身のまわりの文字」(pp. 72－73) (2) ・ 「楷書・行書一覧表」(pp. 90－102) ・ 「資料編」(pp. 77－120)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 「書写のかぎ」としてポイントを示し、学習する内容を焦点化することで、生徒が資質・能力を身に付けられるよう配慮されている。 ・ 1・2年で「まとめ」や「書写テスト」を設定することで、授業を通して学習した知識・技能を振り返ることにより、書写で必要とされる知識及び技能を定着することができるよう配慮されている。 (2) ・ 国語科や理科のノート例、職場訪問のポスターやレポート、防災パンフレットなど、他教科や特別活動で扱われる言語活動や題材を取り上げることで、生徒が書写の学習内容が他教科の場面で生かされることを知ることにより、書写の学習内容の重要性を理解することができるよう工夫されている。 ・ S G D s を踏まえた社会課題を題材に取り上げることで、社会生活において書写の学びが生かされている場面を示すことにより、書写の学びを生活に生かそうとする態度を養うことができるよう配慮されている。	(1) ・ 1年「字形の整え方と筆使い」(pp. 12－13) 「文字の変遷」(pp. 30－31) 3年「篆刻について知ろう」(p. 74) ・ 「書き方を学ぼう」 1年「点画の丸み」(pp. 34－35) 2年「行書と仮名の調和」(pp. 54－55) (2) ・ 「やってみよう」 1年「グループ新聞を作ろう」(pp. 44－45) 2年「情報誌を作ろう」(pp. 64－65) 3年「名言集を作ろう」(pp. 74－75) ・ 「書の古典」(p. 86)

教科用図書の記号・番号・名称		種 目	書 写
1 年・2 年・3 年			発 行 者 名
書写 017-72 中学書写			教育出版株式会社
大観点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。 〔1 年〕 「楷書の字形」 「楷書の文字の大きさ」 「楷書の配列」 「行書の基礎的な書き方」 〔2 年〕 「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方」 〔3 年〕 「身の回りの多様な表現と文字文化」	(1) 基礎・基本となる書写の知識・技能を習得するために、幅広い知識と教養を身につけることができるよう配慮されている。 〔1 年〕 ・仮名の学習において、ひらがなの横に元の漢字を並べて配置したり、平仮名及び片仮名の「五十音表」掲載して筆順を示したりすることで、字源となる漢字の字形を意識して仮名を書くことができるよう工夫されている。 ・楷書と行書の文字を見開きで並べ、それぞれの特徴や点画の筆使いの違いを明確に示すことで、楷書と行書の違いを理解できるよう配慮されている。 〔2 年〕 ・文字の外形を図形で囲んだり、中心線を示したりすることで、漢字と仮名の大きさ、配列を意識しながら、行書と平仮名を調和させて書くことができるよう工夫されている。 ・「新聞を書く」では、文字の大きさ・割付の留意点や筆記具の特徴を提示することで、目的や必要に応じて書くことができるよう配慮されている。 〔3 年〕 ・身の回りで見られる文字の表現例を掲載することで、文字の果たす役割について考えることができるよう工夫されている。	(1) 全般 〔1 年〕 ・「楷書に調和する仮名『いろは歌』」 (pp. 26－27) ・「楷書と行書の違い『和』」 (pp. 40－41) 〔2 年〕 ・「行書と仮名の調和『広がる夢』」 (pp. 72－73) ・「学習を生かして書く」 (pp. 90－91) 〔3 年〕 ・「多様な表現による文字」 (pp. 100－103)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) 学習の進め方について、硬筆で文字の試し書きをしながら自分の書いた文字から課題を見つけ、毛筆で書いたり毛筆の特徴を話し合ったりした後、改めて再度硬筆で書くという手順を明確にすることで、生徒が主体的に学ぶことができるよう配慮されている。	(2) 「試し書き」「考えよう」「まとめ書き」 1 年「学習を生かして書く－配列－」 (pp. 30－31) 2 年「筆順の変化『深緑』」 (pp. 68－69) 3 年「行書と仮名の調和『美しい自然』」 (pp. 96－97)
	(3) 挿絵や写真などは、内容に対応した適切なものであるか。	(3) 毛筆教材では、筆の穂先の位置を朱墨で示したり、行書の筆脈を点線で示したりすることで、筆使いを意識しながら書くことができるよう工夫されている。	(3) 1 年「点画の連続と変化『大洋』」 (pp. 44－45) 2 年「行書と仮名の調和『広がる夢』」 (pp. 72－73) 3 年「行書と仮名の調和『美しい自然』」 (pp. 96－97)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 楷書、行書の学習の導入の部分では、基本的な筆使いを確認してから毛筆に取り組む構成にすることで、既習事項を確認したり、新しく学習する内容の基本事項を踏まえて課題に取り組んだりすることができるよう工夫されている。 ・ 文字に関する多種多様なコラムを掲載することで、文字に対する興味・関心を高め、書写の学習を日常生活の中で生かすことができるよう配慮されている。 (2) ・ 各教材で「生かそう」が設定され、学習したことが他の文字や硬筆で活用されている内容を例示することで、学習した内容を様々な文字を書くときに活用することができるよう工夫されている。 ・ 「小学校で学習した漢字の行書一覧表」では、楷書と行書を並べて提示するとともに、共通する点画や似通った部分を基に分類することで、日常生活で活用することができるよう配慮されている。	(1) ・ 1年「筆使いー基本点画ー」 (pp. 16ー17) ・ 1年「行書の筆使い『大』」 (pp. 42ー43) ・ 2年「短冊と色紙」 (p. 79) (2) ・ 「生かそう」 1年「筆使いと字形『天地』」 (pp. 18ー21) 2年「点画の省略『白雲』」 (pp. 66ー67) 3年「行書と仮名の調和『美しい自然』」 (pp. 96ー97) ・ 「小学校で学習した漢字一覧表」 (pp. 121ー133)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 「学習の進め方」で学習ステップがわかるアイコンを提示して学習活動の流れを説明するとともに、毛筆の学習でも「目標」、「考えよう」、「生かそう」、「振り返ろう」のマークを提示することで、生徒が学習過程を意識して学習を進めることができるよう工夫されている。 ・ 小学校の既習内容や高等学校で学習する発展的な内容が取り上げられ、学年間や校種における学習のつながりを意識させることで、主体的な学びを喚起することができるよう配慮されている。 (2) ・ 横書きの書き方の例を具体的に提示することで、他教科の学習や日常生活の場面での生かし方を学び、生徒が書写の学習で学んだことを生かすことができるよう工夫されている。 ・ 他教科のノートの書き方例を掲載することで、書写で学習したことを踏まえ、読みやすく速く書くための要点を示し、書写の学習を生かして効果的に学習に取り組めるよう配慮されている。	(1) ・ 「学習の進め方」 (pp. 10ー11) 各学年毛筆題材 1年「筆使いと字形『天地』」 (pp. 18ー21) 2年「点画の省略『白雲』」 (pp. 66ー67) 3年「行書と仮名の調和『美しい自然』」 (pp. 96ー97) ・ [小学校との関連] 1年「基本点画の種類」 (pp. 16ー17) [高等学校との関連] 2年「日本建築と『書』」 (pp. 88ー89) 3年「芸術としての書道」 (p. ②) (2) ・ 1年「学校生活に生かして書く」 (pp. 32ー35) 「横書きノートの例」 (p. 15) 2年「学習を生かして書く」 (pp. 90ー93) 3年「三年間の学習の成果を生かそう」 (pp. 104ー107) ・ 「学習内容を効果的にノートに書こう」 (pp. 14ー15)

令和 7 (2025) 年度 使用 中学校 用 教科 用 図書 調査 研究 資料

教科用図書の記号・番号・名称		種 目	書 写
1 年・2 年・3 年		発 行 者 名	
書写 038-72 中学書写一・二・三年		光村図書出版株式会社	
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。 〔1 年〕 「楷書の字形」 「楷書の文字の大きさ」 「楷書の配列」 「行書の基礎的な書き方」 〔2 年〕 「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方」 〔3 年〕 「身の回りの多様な表現と文字文化」	(1) 知識・技能の習得と活用を繰り返しながら、着実に基礎・基本を定着できるよう、段階的に配列している。 〔1 年〕 ・ 「漢字を分解してみよう」では、漢字の点画の種類を示すとともに、毛筆における筆圧を三段階で表すことで、筆の運び方に注意して線の太さを調節して書く重要性を理解し、生徒が文字を書くときに注意することができるよう配慮されている。 ・ 各教材の「学びのカギ」では学習のポイントを示し、生徒が各教材で学習する重要な内容を確認することで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 〔2 年〕 ・ 楷書と行書を並べて配置することで、点画の変化など行書の筆使いの特徴を確かめられるようになっており、生徒が楷書の学習で学んだことを踏まえて行書の学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 場面に応じて楷書か行書を選択して書く必要があることについて、身近な例を使って示すことで、毛筆での学習した内容を硬筆で生かすことができるよう工夫している。 〔3 年〕 ・ 身の回りにある様々な文字や書体の例を掲載することで、実際の文字がどのような書体で用いられているかを知ることができ、目的に応じた文字の使い分けの必要性を学ぶことができるよう配慮されている。	(1) 全学年・全教材 〔1 年〕 ・ 「漢字を分解してみよう」 (pp. 38－39) ・ 「学びのカギ」 「文字の大きさと配列」 (pp. 46－47) 〔2 年〕 ・ 「点画の省略」 (pp. 66－69) ・ 「楷書と行書の使い分け」 (pp. 78－79) 〔3 年〕 ・ 「全国文字マップ」 (pp. 90－93)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) 学習の段階を「①考えよう」、「②確かめよう」、「③生かそう」の三段階で構成することで、課題の確認や単元の見通しをもち、実践や対話を通した課題解決から日常生活に活用するという段階を通して、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	(2) 1 年「漢字の筆使い」 (pp. 40－43) 2 年「行書と仮名の調和」 (pp. 76－77) 3 年「文字の使い分け」 (pp. 94－95)
	(3) 挿絵や写真などは、内容に対応した適切なものであるか。	(3) 毛筆教材の手本に筆順を示したり、朱墨を用いて配慮すべき点画を示すことで、整った文字を書くために必要な様々な内容を知ることができ、生徒が自己調整をしながら学習に取り組むことができるよう工夫されている。	(3) 1 年「点画の変化」 (pp. 54－57) 2 年「筆順の変化」 (pp. 70－73) ・ QRコードコンテンツの充実

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1)・ 「日常に役立つ書式」や国語で扱う教材などを掲載することで、文字や文字文化への理解・関心を高め、生徒が意欲的に学ぶことができるよう工夫している。 ・ 筆使いのリズムの表現を小学校での学習を踏まえて「トン」、「スー」、「トン」などの表現をすることで、小学校で学習した基礎的な内容を繰り返し意識させることができ、既習事項を生かして毛筆の学習に取り組むことができるよう配慮されている。	(1)・ 「日常生活に役立つ書式」(pp.110－118) 1年「季節のしおり①」(pp.62－63) ・ 1年「漢字の筆使い」(pp.40－43) 1年「点画の変化」(pp.54－57)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2)・ 各学年に「季節のしおり」が配置され、生徒は様々な文学作品や言葉を書くことで、伝統的な言語文化への親しみをもつことができるよう配慮されている。	(2)・ 1年「季節のしおり①」(pp.62－63) 2年「季節のしおり②」(pp.84－85) 3年「季節のしおり③」(pp.106－107)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1)・ 「書写ブック」は、基本的な漢字の練習をするためのワークシートとなっている。硬筆における文字の整え方を学び、日常生活に生かせるよう配慮されている。 ・ 「中学書写スタートブック」では、書写の学習の基礎的・基本的な内容が明示されており、小学校までの学習内容を確認するとともに、書写の学習の進め方を把握することができるよう工夫されている。 ・ 「書き初めマスターブック」では、書き初めの由来や地方の書き初めの取組、準備から練習の仕方等を写真と解説で紹介することで、学習内容を活用して書き初めに取り組むことができるよう配慮されている。	(1)・ 「書写ブック」(pp.1－28) ・ 「中学書写スタートブック」(pp.30－36) ・ 「書き初めマスターブック」(pp.141－148)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2)・ 「情報収集の達人になろう」「行書を活用しよう」「冊子にまとめよう」では、ノートや学級目標、新聞などの作成例を掲載することで、書写の知識や技能が生かされている例を学び、他教科等の学習でも生かすことができるよう配慮されている。	(2)・ 1年「情報収集の達人になろう」(p.64) ・ 2年「行書を活用しよう」(pp.80－81) ・ 3年「職業ガイドを作ろう」(p.86)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	社 会（地理的分野）
1 年・2 年			発 行 者 名	
地理 002-72 新編 新しい社会 地理			東京書籍株式会社	
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	①我が国の国土及び世界の諸地域の事象や特色を理解し、調べまとめる技能を身に付けること	①・ 節のまとめの活動として、用語の意味を確認したり説明したりする「ワードチェック」が設けられており、節で学んだ事象について理解を深めることができるよう配慮されている。 ・ グラフや雨温図、写真、地図等を活用する「スキルアップ」が適宜設定されており、地理に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付けることができるよう配慮されている。		①・ 「アジア州の学習をまとめよう」 （p.74） ・ 「分布図の読み取り方」 （p.53）
	②多面的・多角的に考察し、課題の解決に向け公正に選択・判断し、説明・議論する力を養うこと	②・ 章や節の終末に「ベン図」や「ウェビング」などの多様な思考ツールを活用する学習活動が設けられており、多面的・多角的に考察することができるよう工夫されている。 ・ 本時の学習内容に関する「地理的な見方・考え方」が示されており、生徒が見方・考え方を働かせて課題を追究したり解決したりすることができるよう配慮されている。		②・ 「1 編 2 章の学習をまとめよう」 (p.33) ・ 「世界のさまざまな国々」 （pp.12－13）
	③よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究解決しようとする態度を養うこと	③・ 第2編2章「SDG s から『地球課題』を考えよう」、第3編4章「持続可能な地域の在り方」では、持続可能な開発目標（SDG s）の視点が紹介されており、現代的な諸課題について主体的に解決しようとする態度を養うことができるよう配慮されている。 ・ 各地でみられる様々な取組を紹介するコラム「未来にアクセス」が設けられており、持続可能な社会の実現に向けて、これからの社会の在り方について主体的に考えることができるよう配慮されている。		③・ 「SDG s から『地球的課題』を考えよう」 （p.59） ・ 「未来にアクセス どうなる？永久凍土」 （p.39）
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 地域に見られる課題を追究したり解決したりする学習活動を設定し、関連する資料が掲載されており、生徒が主体的に課題解決学習を進めていくことができるよう配慮されている。 ・ 章の導入や終末に「みんなでチャレンジ」が設定されており、対話的な活動を通して探究課題を見出したり、学習内容を整理したりすることができるよう配慮されている。		(2)・ 「発展に向けた課題」 (pp.98－99) ・ 「人々の暮らしを写真から探ろう」 (p.35)
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3)・ 本時の学習課題の解決に向けた資料が掲載されており、写真資料を大きく掲載することで視覚的に理解できるよう配慮されている。 ・ 本文の内容の理解を促す写真やグラフ、主題図等が掲載されており、より効果的に学習できるよう配慮されている。		(3)・ 「地形から見た日本の特色」 （pp.158－159） ・ 「世界の中での日本の位置」 （pp.22－23）

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取扱 について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1)・ 「世界の窓」では、それぞれの地域の特色を表す写真資料や主題図が紹介されており、学習内容を見通したり、興味・関心を高めたりすることができるよう配慮されている。 ・ 章の学習の導入では、「小学校でならったことば」が紹介され、小学校で学習した内容を振り返る学習活動が設定されており、既習事項を踏まえて学習に取り組むことができるよう配慮されている。 (2)・ 「世界の諸地域」、「日本の諸地域」のいずれの内容においても、学習課題の追究・解決を図り、1 単位時間の終末に学んだことを確認する学習活動が設定されており、学習内容の確実な定着を図ることができるよう配慮されている。 ・ 「インタビュー・コラム」を随所に設け、実際に社会に参画している人々の姿から、自らの生き方やキャリア形成について考えられるようにし、生徒の勤労観を養えるようにしている。 ・ 「スキル・アップ」でGIS(地理情報システム) を取り上げ、高等学校の必修科目「地理総合」につながる学習ができるように配慮されている。	(1)・ 「オセアニア州」 (pp. 130－131) ・ 「第2 章日本の地域的特色」 (pp. 156) (2)・ 「関東地方」 (pp. 232－241) ・ 「北アメリカ」 (pp. 98) ・ 「地域調査の手法」 (pp. 154)
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1)・ 章が「課題をつかむ」、「課題を追究する」、「課題を解決する」という流れで構成されており、章全体の学習の見通しをもった上で課題解決学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 本文ページの学習が「導入資料」、「学習課題」、「本文」、「チェック＆トライ」の流れで構成されており、生徒が学習に取り組むことができるよう工夫されている。 (2)・ 小学校の既習内容と関連する学習内容を示す資料にはリンクマークが付されており、既習事項と関連付けて学習を進めることができるよう配慮されている。 ・ 持続可能な社会の実現のための五つのテーマである「環境・エネルギー」、「人権・平和」、「伝統・文化」、「情報・技術」、「防災・安全」が示されており、歴史的分野や公民的分野の学習との関連を図りながら、多面的・多角的な視点から学習を進めることができるよう配慮されている。 ・ 他教科でも扱う学習内容については、教科関連を示すリンクマークを付し、教科を横断した学習の確認ができるよう配慮されている。	(1)・ 「アジア州」 (pp. 60－61、pp. 64－65、pp. 74－75) ・ 「気候からみた日本の特色」 (pp. 162－163) (2)・ 「第1編世界の日本の地域構成」 (pp. 8) ・ 「持続可能な社会の実現に向けて」 (pp. 巻頭3) ・ 「時差から見た日本の位置」 (pp25)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	社 会（地理的分野）
1 年・2 年			発 行 者 名	
地理 017-72 中学社会 地理 地域にまなぶ			教育出版株式会社	
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	①我が国の国土及び世界の諸地域の事象や特色を理解し、調べまとめる技能を身に付けること	①・ 章ごとに設定されている学習テーマについて学習を進め、本時や単元の終末には学習内容を確認する学習活動が位置付けられており、学んだ知識を確実に習得することができるよう配慮されている。		①・ 「アフリカ州」（pp. 80－89） ・ 「地形図を使って調べる（2）」（p. 139）
	②多面的・多角的に考察し、課題の解決に向け公正に選択・判断し、説明・議論する力を養うこと	②・ 章の学習の終末には「学習のまとめと表現」のコーナーが設けられており、思考ツール等を活用して章全体の学習テーマについてまとめるなど、多面的・多角的な視点から考察し表現することができるよう工夫されている。 ・ 本時の学習内容について振り返る「表現」のコーナーが設けられており、複数の資料を比較したり資料から読み取ったことを説明したりする活動を通して、生徒が思考力、判断力、表現力等を高めることができるよう工夫されている。		②・ 「九州地方の学習を振り返って整理しよう」（pp. 184－185） ・ 「人口減少と地域の悩み」（pp. 192－193）
	③よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究解決しようとする態度を養うこと	③・ 各章の導入では、学習する地域と関連するSDGsの目標を示すなど、地球的課題が明確にされており、持続可能な社会づくりについて、主体的に追究し解決する態度を養うことができるよう配慮されている。 ・ 地域の課題を見つめ直したり、課題の解決方法を考察したりすることで、持続可能な社会の創造を構想する学習内容になっており、社会参画の意識をもち、課題を主体的に追究解決しようとする態度を養うことができるよう配慮されている。		③・ 「アジア州」（pp. 44－45） ・ 第4章「地域のあり方」（pp. 278－287）
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 節の学習の終末に「学習したことを活用してまとめよう」のコーナーが設定されており、話し合う活動を通してよりよい社会の実現に向けて主体的に課題を追究することができるよう配慮されている。 ・ 授業の初めに位置づけた「学習課題」を受けて、「THINK」を経て、「問い」に取り組み、生徒が自ら学び、自ら考える学習が展開できるよう配慮されている。		(2)・ 「南アメリカ州の学習を振り返って整理しよう」（pp. 114－115） ・ 「変化に富む日本列島の地形」（pp. 150－151）
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3) 本文の内容に関連する資料が拡大して掲載されており、効果的に資料を活用することができるよう配慮されている。 ・ 歴史的分野とつながりのある学習内容に関連する資料が掲載されており、歴史的分野の内容を踏まえて学ぶことができるよう配慮されている。		(3)・ 「宇宙から捉えた日本列島」（pp. 128－129） ・ 「世界の地域構成」（p. 6）

大観点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 「地理にアプローチ」には、小学校で学習した地図の決まりや地図帳の使い方、グラフの種類などを振り返る活動を位置づけているほか、ワークシート形式で直接書き込む活動も取り入れる工夫が図られ、発達段階の応じて学習できる配慮がなされている。 ・ 写真やイラスト・地図・グラフ・図解などの資料が豊富に掲載され、出典と併せて視覚的に捉えやすく配置されている。ダイナミックな衛星写真や伊能忠敬の日本地図が掲載され、地図への興味・関心と資料活用能力を高める工夫がなされている。 (2) ・ 本時の終末には、学習内容を復習したり、表現したりする学習活動が設けられており、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ったり、発展的な学習内容について考察したりすることができるよう工夫されている。 ・ 地域社会での交流やボランティア活動に取り組む人々などの事例が積極的に取り上げられ、社会の形成者としての自覚と参画への意思が養われるように配慮されている。	(1) ・ 「地理にアプローチ」 (pp. 2－4) ・ 「地図を活用しよう」 (pp.128-129) (2) ・ 「地図から見える世界」 (pp. 7, pp. 9) ・ 「地域のあり方」 (pp. 278-287)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 学習指導要領の内容の区分や順序に準拠し、編、章、節が配列されており、系統的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 章の導入において、章全体の学習の見通しをもつことができるような写真を掲載し、1 単位時間におけるページにはより具体的な地域的特色を示す資料が掲載されており、章全体の学習内容をつかんだ上で、生徒が学習に取り組むことができるよう配慮されている。 (2) ・ 見開きページでは、右ページ下段に歴史的分野や公民的分野との関連を示した「関連マーク」が設けられており、他分野の学習内容と関連付けて本時の学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 特設ページ「持続可能な社会に向けて」が設けられており、現代的な諸課題や地域的課題について歴史的な背景から説明したり、公民的な視点から提案したりするなど、他分野との関連を図りながら発展的な学習に取り組むことができるよう配慮されている。	(1) ・ 「アジア州」 (pp. 44－47) ・ 「九州地方」 (pp. 172－175) (2) ・ 「ヨーロッパをながめて」 (p. 65) ・ 「国境を越えて移動する人々」 (p. 126)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	社 会（地理的分野）
1 年・2 年			発 行 者 名	
地理 046-72 社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土			株式会社帝国書院	
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に 関 心 を も つ て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 我が国の国土及び世界の諸地域の事象や特色を理解し、調べまとめる技能を身に付けること	①・ 地域的特色を理解するために、「世界の諸地域」においては地球的課題、「日本の諸地域」においては地域にみられる課題の解決に向けた視点が設定されており、各地域で異なる特色を理解することができるよう配慮されている。 ・ 「世界の諸地域」、「日本の諸地域」いずれの内容においても、地図や主題図、統計資料等が豊富に掲載されており、地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができるよう配慮されている。		①・ 「関東地方」（pp. 236－247） ・ 「アジア州」（pp. 46－63）
	② 多面的・多角的に考察し、課題の解決に向け公正に選択・判断し、説明・議論する力を養うこと	②・ 吹き出しにより、本時の課題解決に向けて「地理的な見方・考え方」を働かせて考察する際の視点が示されており、思考力、判断力、表現力等を養うことができるよう工夫されている。 ・ 各種写真や資料には「資料活用」や「対話」を促すマークが設けられており、資料を読み解くための着眼点を踏まえて考察したり、対話を通して思考を深めたりすることで、思考力、判断力、表現力等を養うことができるよう配慮されている。		②・ 「人々の生活と環境」（p. 2） ・ 「EUの成り立ちと人々の生活の変化」（pp. 70－71）
	③ よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究解決しようとする態度を養うこと	③・ 地域にみられる課題の分析を踏まえ、その課題の解決策を提案する構成になっており、課題を主体的に解決しようとする態度を養うことができるよう配慮されている。 ・ 「未来に向けて」のコラムや特設ページにより「持続可能な開発目標（SDGs）」に関わる題材が紹介されており、持続可能な社会の形成に向けて主体的に取り組む態度を養うことができるよう配慮されている。		③・ 「地域のあり方」（pp. 283－293） ・ 「地球温暖化への対策」（pp. 156－157）
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 章を貫く問いを章の導入部で示すだけではなく、本時の学習課題にも併記されており、章全体の学習の見通しをもちながら主体的に学習することができるよう工夫されている。 ・ 「アクティブ地理」では、正解が一つでない課題解決学習を通して、意見交換や発表する対話的な学習が多く設定されている。対話を通して課題に粘り強く向き合い、さまざまな立場を踏まえて合意形成を目指す態度を身に付けられるように工夫されている。		(2)・ 「ヨーロッパ州」（pp. 66－76） ・ 「自然災害から身を守ろう」（pp. 150-151）
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3)・ 臨場感あふれる写真を通して日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、主体的に各地の地域的特色を捉えられる本文やコラムがバランスよく盛り込まれている。 ・ 本文に関連した資料やテーマに基づく事例が紹介されており、資料や事例を活用することで本文の内容を補完することができるよう工夫されている。		(3)・ 「日本のさまざまな自然災害」（pp. 146－147） ・ 「緯度と経度」（p. 9）

大観点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 章や節ごとに設けられた問いのほか、吹き出しにより補助発問が設けられており、小学校の既習内容を振り返りながら生徒の興味・関心を高めることができるよう工夫されている。 ・ 「技能をみがく」のコーナーが各所に設けられ、グラフの作り方や読み取り方、主題図の読み取り方等が紹介されており、調べまとめる技能を習得することができるよう工夫されている。 (2) ・ 小単元ごとに「地図帳活用」の活動が取り入れられており、地図帳を活用することで補充的な問いや発展的な問いの解決に向けて学習することができるよう配慮されている。 ・ 「未来に向けて」が設けられ、持続可能な社会をつくるための人々の取り組みを示すことで、社会に対して、生徒自身がどのように参画していくのかを発展的に考えることができるよう工夫されている。	(1) ・ 「日本の姿」 (p. 14) ・ 「地域調査のしかた」 (pp. 130－137) (2) ・ 「世界のいろいろな国々の特徴」 (p. 6) ・ 「脱炭素社会に向かうヨーロッパ」 (pp. 75)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 「世界の諸地域」や「日本の諸地域」の学習では、写真や地図、雨温図などの位置が固定されており、各地域の特徴を比較しながら学習できるよう工夫されている。 ・ 各章や節の導入では、写真資料を活用して生徒の学習意欲を高め、節を貫く問いを設定した上で課題解決学習を行い、節の終末では、振り返る活動を行うという一貫の流れが示されており、生徒が節全体を見通して学習に取り組むことができるよう工夫されている。 (2) ・ 「小・歴・公」や「小学校・歴史・公民・他教科の関連」のマークが示されており、小学校での学習内容を踏まえたり、他分野や他教科の学習内容と関連付けたりしながら学習できるよう工夫されている。 ・ 各地域の文化や産業について、歴史的経緯が説明されており、歴史的分野の内容と関連付けて学習することができるよう配慮されている。	(1) ・ 「世界のさまざまな地域」 (pp. 30－39) ・ 「アジア州」 (pp. 46－63) (2) ・ 「世界のいろいろな国々の特徴」 (p. 4) ・ 「自然環境を克服して発展した畑作や稲作」 (pp. 272－273)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	社 会（地理的分野）
1 年・2 年			発 行 者 名	
地理 116-72 中学社会 地理的分野			日本文教出版株式会社	
大観点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 我が国の国土及び世界の諸地域の事象や特色を理解し、調べまとめる技能を身に付けること	①・ 本時の学習課題に即した「見方・考え方」が示されており、生徒が地域の諸事象や地域的特色を理解することができるよう工夫されている。 ・ 地理の学習を進めるにあたって必要な技能を習得するために「スキルUP」コーナーが設けられており、地理に関する様々な情報を調べまとめる技能を身に付けることができるよう配慮されている。		①・ 「地理的な見方・考え方って？」 (pp. 巻頭3－4) 「世界のさまざまな気候」 (pp. 28－29) ・ 「工業化や地域統合による経済発展」 (p. 55)
	② 多面的・多角的に考察し、課題の解決に向け公正に選択・判断し、説明・議論する力を養うこと	②・ 節の学習の終末に自分の考えをまとめる学習活動が設定されており、様々な思考ツール等を活用して学習した内容を整理することで、多面的・多角的な視点から考察し表現することができるよう工夫されている。 ・ 本時の学習課題に併記して見方・考え方が示されており、生徒が見方・考え方を働かせて課題を追究したり解決したりすることができるよう配慮されている。		②・ 「ヨーロッパ州の学習をまとめよう」 (pp. 76－77) ・ 「世界の略地図のかきかた」 (pp. 12－13)
	③ よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究解決しようとする態度を養うこと	③・ 巻頭ページでは持続可能な社会と私たちとして17の持続可能な開発目標が示されており、SDGsを意識しながら地理的分野の学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 「持続可能な地域を目指して」のコラムでは、カーボンニュートラルやSOCIETY 5.0等の題材が取り上げられており、これからの持続可能な社会づくりについて考えることができるよう工夫されている。		③・ 「持続可能な社会と私たち」(巻頭pp. 1－2) ・ 「SDGsで世界をリードするヨーロッパ」 (p. 66)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 節の導入では資料から気付いたことについて話し合い、生徒自らが節の問いを立てる活動が設定されており、自らが立てた問いを追究することで、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・ 節の学習の終末に話し合う活動が位置付けられており、議論などの対話的な活動を通して節の問いに対して考察したり、自らの考えを再構成したりすることができるよう工夫されている。		(2)・ 「アジア州」 (p. 51) ・ 「アジアの課題をどう解決する」 (p. 61)
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3)・ 本文と資料の内容をより深く理解するために「スキルUP」が設けられており、学習内容の定着につなげられるよう配慮されている。 ・ 本文の内容に加えて現代的な諸課題についても問題提起されており、本文の内容を補完し、理解を促すことができるよう配慮されている。		(3)・ 「日本と世界各地との時差をとらえよう」 (p. 17) ・ 「関東地方」 (p. 245)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1) ・ 小学校社会科における地理的分野に関わる学習内容を再確認し、それを踏まえて地理的分野の学習に取り組むことができる構成になっている。 ・ 「持続可能な地域をめざして」が各所に設けられており、持続可能な社会づくりに向けて、身近な話題から地球的課題について考えることができるよう配慮されている。	(1) ・ 「主な国々の名前と位置をとらえよう (1)」 (pp. 7) ・ 「未来都市シェンチェンの発展」 (pp. 50)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2) ・ コラム「地理＋α」では、発展的な学習内容が紹介されており、地理的分野の学習について興味・関心を高めることができるよう工夫されている。 ・ 章の問いを立てると共に、本時の学習課題を踏まえた見方・考え方が示されており、多面的・多角的に考察することで思考力、判断力、表現力等を高めることができるよう配慮されている。	(2) ・ 「日本の位置をとらえよう」 (p. 15) ・ 「地球の姿をながめよう」 (p. 4)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1) ・ 「世界の諸地域」や「日本の諸地域」の学習では、節の導入で様々な写真等を掲載し、1単位時間の学習では本時の学習課題について追究・解決を図り、節の学習をまとめ振り返るという流れで構成されており、見通しをもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 「問いを立て、学習を見通す」、「問いを追究する」、「まとめ、ふり返る」という流れで内容が構成されており、見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	(1) ・ 「ヨーロッパ州」 (pp. 62－77) ・ 「世界の諸地域」 (pp. 44－61)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) ・ 小学校の学習内容や歴史的分野や公民的分野の学習内容と関連するページの下段にはマークを付して関連が示されており、既習事項を想起したり他分野との関連を図ったりしながら学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 「世界の諸地域」や「日本の諸地域」の学習において、本文やコラム、特設ページなどを通して、「防災」、「環境問題」、「民族問題」、「過疎問題」「多文化共生」等の今日的課題について取り上げられており、他教科との関連にも配慮されている。	(2) ・ 「日本の領域をめぐる問題をとらえよう」 (p. 20) ・ 「せまりくる巨大地震に備えて」 (p. 154)

令和 7 (2025) 年度使用中学校用教科用図書調査研究資料

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	地 図
1 年・2 年・3 年			発 行 者 名	
地図002-72 新編 新しい社会 地図			東京書籍株式会社	
大観点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。 ①我が国の国土及び世界の諸地域の特色を理解すること ②多面的・多角的に考察し、課題の解決に向け公正に選択・判断し、説明・議論する力を養うこと ③よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究解決しようとする態度を養うこと (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。 (3) 挿絵、写真、図表、グラフなどは、内容に対応した適切なものであるか。 (4) 郷土との関連が図れるよう配慮されているか。 (5) 社会の変化に対応するよう配慮されているか。	(1) ・ 各地域の中心的な都市の拡大図や地域全体を俯瞰した地図等、ミクロとマクロの双方の視点を踏まえた資料が掲載されており、我が国の国土の特色や土地利用について詳細に理解することができるよう工夫されている。 ・ 世界の諸地域の自然環境や農業、工業、産業など様々な種類の主題図が掲載されており、地域の特色について多面的・多角的に理解することができるよう配慮されている。 ②・ 他の資料と関連付けて学習したい資料には「ジャンプ」マークが付されており、複数の資料を関連付けて学習することで多面的・多角的に考察することができるよう配慮されている。 ・ 各州の鳥瞰図と統計資料が同一ページに掲載されており、複数の資料から地域の特徴を関連付けて考察することができるよう工夫されている。 ③・ 現代的な諸課題に関連する資料やSDGsをテーマとした特集ページが掲載されており、持続可能な社会の実現に向けて、課題を主体的に追究し解決する態度を養うことができるよう配慮されている。 ・ 関連する資料が見開きのページに掲載されており、複数の資料を比較したり関連付けたりして主体的に課題を追究する態度を養うことができるよう配慮されている。 (2) ・ 地図帳を活用して学習を深めることができるよう、資料を見る視点が「問い」として提示されており、生徒が主体的に調べ学習を進め、地域に対する理解を深めることができるよう工夫されている。 ・ 学校行事等で訪れる都市を取り上げ、史跡や名勝などの地図や資料が掲載されており、生徒が主体的に調べ学習に取り組むことができるよう工夫されている。 (3) ・ 主題図を大きくかつバランスよく配置することで、各種資料を比較したり関連付けたりして考察することができ、多面的・多角的な視点から地域的特色を理解することができるよう配慮されている。 ・ 主題図に関連した経年変化を示すグラフや写真が掲載されており、歴史的な背景を踏まえて地域的特色を理解することができるよう配慮されている。 (4) ・ 伝統的工芸品や地域行事など、郷土の伝統や文化に関連する資料が掲載されており、豊かな伝統文化を理解し尊重する態度を養うことができるよう配慮されている。 ・ 世界と日本の文化を示す資料が見開きのページで掲載されており、地域の伝統や歴史的な背景を踏まえて地域的特色を理解することができるよう工夫されている。 (5) ・ 世界経済や環境問題、貧困、紛争等に関する資料が掲載されており、グローバルな視点から地球的課題について追究・解決を図ることができるよう配慮されている。 ・ 災害や防災に関するページでは、生徒が当事者意識をもって課題を追究することができる問いが設定されており、防災意識を高めることができるよう配慮されている。		①・ 「中国地方」(pp. 75－82) ・ 「北アメリカ州」(pp. 53－56) ②・ 「ヨーロッパの資料②」(pp. 39－40) ・ 「北アメリカ州の資料②」(pp. 53－54) ③・ 「世界の経済・国際関係」(pp. 153－154) 「世界と日本の環境問題」(pp. 13－14) ・ 「日本の人口」(pp. 141－142) (2)・ 「江戸・東京の鳥観図」(pp. 111－112) ・ 「京都市内」、「神戸市内」、「奈良市内」(pp. 93－94) (3)・ 「アフリカ州の資料②」(pp. 47－48) ・ 「南アジア・西アジア・中央アジアの資料」(pp. 31－32) (4)・ 「東北地方の資料」(pp. 117－118) ・ 「世界と日本の文化」(pp. 137－138) (5)・ 「世界の経済・国際環境」(p. 153) ・ 「日本の自然環境(自然災害)」(pp. 135－136)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 世界の生活・文化を取り上げたページでは、様々な地域の食事や建造物などの写真資料が掲載されており、生徒が興味・関心をもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 世界の諸地域について取り上げたページの冒頭では、各地域の土地利用や降水量、人口密度などに関する資料に加え、土地の起伏の様子が分かる鳥瞰図が掲載されており、土地の様子を正確に捉えられるよう配慮されている。 (2) ・ 資料の内容について多面的・多角的な視点から思考を深めるための問いが示されており、発展的な内容について考察することができるよう工夫されている。 ・ 地勢図内に存在する遺跡や古墳、城跡などの歴史的な事象が明記されていることに加え、河岸段丘や埋め立てなどの地理的な事象についても明記されており、幅広い視点から地理の学習に取り組むことができるよう工夫されている。	(1) ・ 「世界の生活・文化」(pp. 15-16) ・ 「ヨーロッパの資料①」(p. 37) (2) ・ 統計資料、さくいんを除く全ページ ・ 「東京の歴史と治水」(p. 107)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 世界の各地域についての資料、日本の各地域についての資料の後に、世界や日本の人口や資源・エネルギー等の主題ごとの資料が掲載されており、地域的な特色を大観して理解を深めた後に主題ごとの学習を行うことができるよう配慮されている。 ・ 日本の地方ごとの一般図の縮尺が100分の1で統一されており、距離や面積を比較しやすいよう配慮されている。 (2) ・ 歴史的分野や公民的分野と関連する資料には、それぞれ、「歴」、「公」のマークが明示されており、他分野の内容と関連付けて学習することができるよう配慮されている。 ・ S D G s に関するページが設けられ、関連する資料が掲載されているなど、総合的な学習の時間や各教科等の学習にも活用することができるよう配慮されている。	(1) ・ 「目次」(p. 1) ・ 「東北地方」(pp. 119-121) (2) ・ 「世界と日本の環境問題」(p. 14) 「世界の生活・文化」(p. 15) ・ 「現代社会の課題を解決するために『S D G s』を知ろう」(p. 8)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	地 図
1 年・2 年・3 年			発 行 者 名	
地図046-72 中学校社会科地図			株式会社帝国書院	
大観点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの	特記事項	
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1)	(1)	
	①我が国の国土及び世界の諸地域の特色を理解すること	①・ 自然環境のみならず、歴史や産業、文化等に関わる資料が掲載されており、多面的・多角的な視点から地域の諸事情や地域的特色を理解することができるよう配慮されている。 ・ 世界における州や日本における地方ごとに、各種地図、地形図、鳥瞰図、主題図等が豊富に掲載されており、地域的特色を比較しながら地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができるよう工夫されている。	①・ 「九州地方の資料(2)」(pp. 91－92) ・ 「アジア州の資料」(pp. 25－26)	
	②多面的・多角的に考察し、課題の解決に向け公正に選択・判断し、説明・議論する力を養うこと	②・ 社会的事象の地理的な見方・考え方に着目した問いが設定されており、生徒が見方・考え方を働かせて問いを解決することで、思考力、判断力、表現力等を養うことができるよう配慮されている。 ・ 見開きのページに掲載されている各種資料を比較しながら地域的特色を調べることができるよう構成されており、地域的特色を多面的・多角的に考察することができるよう配慮されている。	②・ 「『ヨーロッパ州』Q地図で発見」(p. 49) ・ 「中国の資料」(pp. 31－32)	
	③よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究解決しようとする態度を養うこと	③・ 関連する資料にSDGsアイコンを付すことで持続可能な開発目標との関連が示されており、持続可能な社会の実現に向けて主体的に追究し解決する態度を養うことができるよう配慮されている。 ・ 地域の歴史的な変遷や地域で解決を図ってきた課題に関する資料が掲載されており、持続可能な社会の実現に向けて主体的に追究しようとする態度を養うことができるよう配慮されている。	③・ 「九州地方の資料(2)」(p. 92) ・ 「中部地方の資料」(pp. 124－126)	
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 話し合いや説明等の言語活動を促す問いが設定されており、対話的な活動を通して現代的な諸課題について追究したり解決を図ったりすることができるよう工夫されている。 ・ 自ら学習に取り組みやすくするように、問い「地図で発見」(計103箇所、全156問)が本全体に設置されている。	(2)・ 「日本の自然災害・防災(1)」(pp. 159－160) ・ 「『近畿地方』Q地図で発見」(p. 104)	
	(3) 挿絵、写真、図表、グラフなどは、内容に対応した適切なものであるか。	(3)・ 世界の州や日本の地方ごとに、自然だけでなく産業や文化に関する各種資料が掲載されており、地域の諸事象や地域的特色の理解を深めることができるよう配慮されている。 ・ 日本の地図表現は、国土理解に資するように、地域の生活や産業の様子がわかる土地利用表現と、地形がわかる等高段彩表現を併用している。	(3)・ 「ヨーロッパ州の資料」(pp. 53－58) ・ 「近畿地方」(pp. 105－106)	
	(4) 郷土との関連が図れるよう配慮されているか。	(4)・ 各地方の歴史や文化、観光を紹介するページには、その地域の史跡や名勝に関する絵記号が掲載されており、伝統や文化の継承、発展について考えることができるよう配慮されている。 ・ 日本の歴史や生活、文化に関する特設ページが設けられており、郷土に親しみ、理解を深めることができるよう配慮されている。	(4)・ 「近畿地方の歴史・文化・観光」(pp. 109－110) ・ 「日本の歴史・生活・文化」(pp. 173－174)	
	(5) 社会の変化に対応するよう配慮されているか。	(5)・ 「日本の自然災害・防災」のページでは地震や火山、水害等の自然災害の発生場所や災害の仕組みを示す資料が掲載されており、生徒の防災意識を高め、対策について考えることができるよう配慮されている。 ・ 都道府県や県庁所在地を手話で表現している例が紹介されており、地域の象徴を示すとともに、多様な生徒の学びにも対応することができるよう配慮されている。	(5)・ 「日本の自然災害・防災(2)」(pp. 161－162) ・ 「都道府県と昔の国名」(p. 196)	

大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程 度 ・ 選 択 ・ 取 扱 に つ い て	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 世界の生活・文化について取り上げたページでは、様々な地域の衣食住の様子を示す写真が紹介されており、生徒が興味・関心をもって、その地域の人々の生活を具体的にイメージしながら学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・ 世界の諸地域について取り上げたページでは、冒頭の鳥瞰図で国名や歴史的建造物、特産品や文化の様子が分かるイラストが示されており、生徒が様々な視点から興味・関心をもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。 (2) ・ 歴史上の重要な地名や歴史的出来事の舞台が強調されて示されており、歴史的分野の学習と関連付けて、補充的な学習に活用することができるよう工夫されている。 ・ 主題学習のページでは様々な課題を解決するための問いが掲載されており、資料を活用しながら発展的な学習内容について調べ学習を行うことができるよう工夫されている。 ・ 社会科の学習のみならず、修学旅行や校外学習でも活用できる資料や都市図が多数掲載されている。	(1) ・ 「世界の生活・文化(1)」(p. 19) ・ 「ヨーロッパ州(1)」(p. 53) (2) ・ 「東京都周辺の地形」(p. 133) ・ 「世界と日本の人口」(pp. 163－164) ・ 「京都市中心部」(pp. 113－114)
3 組 織 ・ 配 列 等 に つ い て	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 「世界の諸地域」では、それぞれの州の内容において「一般図」、「鳥瞰図」、「資料図」の配列、「日本の諸地域」では、それぞれの地域の内容において「一般図」、「拡大図」、「資料図」という統一した配列で構成されており、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・ 同じページに掲載されている資料図が同じ縮尺で示されており、複数の資料を比較したり関連付けたりして考察することができるよう工夫されている。 (2) ・ 歴史的分野や公民的分野と関連する資料には、それぞれアイコンが明示されており、他分野の内容と関連付けて学習することができるよう配慮されている。 ・ 環境問題や食糧問題等、現代的な諸課題に関する資料が掲載されており、SDGsの観点から、各教科等の学習においても活用することができるよう配慮されている。	(1) ・ 「東アジア」(pp. 27－32) ・ 「近畿地方の資料」(p. 115) (2) ・ 「朝鮮半島」(pp. 33－34) ・ 「地図で考える持続可能な社会(4)」(pp. 13－14)

教科用図書の記号・番号・名称		種 目	社 会 (歴史的分野)
1 年・2 年・3 年		発 行 者 名	
歴史 002-72 新編 新しい社会 歴史		東京書籍株式会社	
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)	(1)
	① 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解し、調べまとめる技能を身に付けること ② 多面的・多角的に考察し、課題について複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断し、説明・議論する力を養うこと ③ よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究解決しようとする態度を養うこと	①・ 章の冒頭では、「探究のステップ」として節ごとの課題が提示されており、課題を追究する活動を通して、歴史の大きな流れを理解することができるよう工夫されている。 ・ 学習している年代を相対的に確認できる年表スケールが掲載されており、歴史全体の中で、学習している単元の位置が把握できるよう工夫されている。 ②・ 「歴史をとらえる見方・考え方」では、社会的事象を歴史的な見方・考え方を働かせる学習方法が紹介されており、思考力、判断力、表現力等を養うことができるよう工夫されている。 ・ 様々な視点から時代を捉えられるように本文が構成されており、複数の立場や意見を踏まえて考察できるよう工夫されている。 ③・ まとめの活動では、課題を解決するための問いや着目すべき点が例示されており、生徒が主体的に学習課題を解決できるよう配慮されている。	①・ 「古代までの日本」 (pp. 22-23) ・ 「人類の出現と進化」 (p. 25) ②・ 「歴史をとらえる見方・考え方」 (pp. 10-15) ・ 「ギリシャ・ローマの文明」 (pp. 30-31) ③・ 「古代までの学習をふり返り、まとめよう」 (pp. 60-62)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 「みんなでチャレンジ」では、グループ活動を通して、主体的・対話的に学習することで、他者の意見をもとに自分の考えを再構成することができるよう工夫されている。 ・ 各単元の「まとめの活動」では、既習事項を様々な観点から再考察することで、学習を深められるよう工夫されている。	(2)・ 「中世の武士の暮らしを探ろう」 (pp. 64-65) ・ 「中世の学習をふり返り、まとめよう」 (pp. 94-96)
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3)・ 本文中に関連する資料番号が示されており、本文と資料を結び付けて学習を進めることができるよう配慮されている。 ・ イラストや写真が拡大して掲載されており、資料から読み取った情報を生かして学習を進められるよう配慮されている。	(3)・ 「大王の時代」 (pp. 38-39) ・ 「旧石器時代と縄文時代の暮らし」 (pp. 34-35)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 「歴史へのとびら」では、小学校で学習した内容を振り返る活動が設定されており、既習事項から学習の見通しをもつことができるよう配慮されている。 ・ 巻頭の「資料から発見！」や単元の導入では、各時代の特徴的な資料が取り上げられており、資料の活用を通して生徒の興味・関心を高めることができるよう配慮されている。 (2) ・ 見開きごとに学習内容を振り返ったり説明したりする「チェック＆トライ」が設けられており、学習内容を定着させたり、深めたりすることができるよう工夫されている。 ・ 「もっと知りたい」では、様々な視点や立場からの資料が掲載されており、生徒が各時代を多面的・多角的に考察することができるよう工夫されている。	(1) ・ 「第1章 歴史へのとびら」(pp. 8－9) ・ 「資料から発見！」(pp. 巻頭1－3) (2) ・ 「人類の出現と進化」(pp. 24－25) ・ 「もっと知りたい」(p. 197)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 第1章に「歴史へのとびら」を配し、古代、中世、近世、近代、現代の順に時系列に配列させることで、歴史の大きな流れを捉えることができるよう配慮されている。 ・ イラストを用いて学習の興味・関心を高める導入部、様々な資料を活用して学習を進める展開部、章を振り返りまとめる終末部の配列で構成されており、生徒が系統的に学習できるよう工夫されている。 (2) ・ 「未来にアクセス」では、現代社会の課題と関連が深い資料が掲載されており、持続可能な社会の実現に向けて公民的分野との関連が図られるよう工夫されている。 ・ 地理的分野や公民的分野、他教科の学習と特につながり強い学習内容が確認できるようマークが掲載されており、分野間の連携や関連を図ることができるよう配慮されている。	(1) ・ 「もくじ」(pp. 4－5) ・ 「第4章 近世の日本」(pp. 98－99) ・ 「ヨーロッパ世界の変化」(pp. 100－101) ・ 「まとめの活動」(pp. 140－141) (2) ・ 「占領下の日本」(p. 247) ・ 「都市の繁栄と交通路の整備」(pp. 126－127)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	社 会（歴史的分野）
1 年・2 年・3 年			発 行 者 名	
歴史 017－72 中学社会 歴史 未来をひらく			教育出版株式会社	
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解し、調べまとめる技能を身に付けること ② 多面的・多角的に考察し、課題について複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断し、説明・議論する力を養うこと ③ よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究解決しようとする態度を養うこと	①・ 章の学習の導入では、当時の街並みや人々の様子が分かる資料が提示されており、資料の読み取りを通して時代の特色を捉えるとともに、章の学習の見通しをもつことができるよう工夫されている。 ・ 章の学習の終末では、日本の動きと世界の動きを併記した年表を活用して、学習内容を整理する活動が設定されており、世界と日本の歴史を関連付けながら理解を深めることができるよう工夫されている。 ②・ 「歴史にアプローチ」では、学習の進め方について学ぶ活動が設定されており、今後の学習において、歴史的な見方・考え方を働かせられるよう工夫されている。 ・ 見開きごとに学習課題に関連した「問いかけ」が示されており、「推移・比較・関連」などの歴史的な見方・考え方を働かせて、考察することができるよう工夫されている。 ③・ 歴史学習のまとめとして設定されている「歴史をふり返って、未来を構想しよう」では、これまでの学習と今日的な課題を関連付けて解決方法を考える活動が設定されており、SDGs 達成の観点からよりよい未来の創造に向けて、主体的に課題を追究しようとする態度を養えるよう工夫されている。 ・ 各章の「LOOK！」では、学習のきっかけとなる資料が掲載されており、資料を読み取る活動を通して、章の学習の見通しをもつことができるよう工夫されている。		①・ 「第3章の学習のはじめに」 (pp. 60－61) 「第4章の学習のはじめに」 (pp. 96－97) ・ 「学習のまとめと表現」 (pp. 56－58) 「学習のまとめと表現」 (pp. 92－93) ②・ 「歴史にアプローチ」 (pp. 8－11) ・ 「シルクロードにつながる道」 (pp. 46) 他 ③・ 「歴史学習の終わりに～歴史を振り返って、未来を構想しよう～」 (pp. 287－291) ・ 「第3章の学習のはじめに」 (pp. 60)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 各章の終末にある「学習のまとめと表現」では、章の問いに対する自分なりの答えを考える活動が設定されており、課題に対して多面的・多角的に考察することや、主体的・対話的に学習することができるよう工夫されている。 ・ 小單元ごとに設定されている「節をとらえる」では、学習内容を活用して自分考えを説明する活動が設定されており、対話を通して自分の考えを深められるよう工夫されている。		(2)・ 「学習のまとめと表現 第5章日本の近代化と国際社会」 (pp. 204) ・ 「1 節をとらえる」 (pp. 217)
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3)・ 本文との関連性が高い地図・写真・図などの資料が掲載されており、当時のの様子を捉えながら理解することができるよう配慮されている。 ・ 本文中に関連する資料番号が示されており、本文と資料を結び付けて学習を進めることができるよう配慮されている。		(3)・ 「身分ごとに異なる暮らし」 (pp. 124－125) ・ 「敗戦からの再出発」 (pp. 254－255)

大観点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 第1章の冒頭に「歴史ゲームで遊ぼう」が設定されており、小学校での学習を振り返りながら歴史に親しむことができるよう配慮されている。 ・ 各章の冒頭に設定されている「学習のはじめに」では、章の学習内容に関わる資料を読み取る活動が設定されており、生徒が興味・関心を高め、見通しをもって章の学習に取り組むことができるよう配慮されている。 (2) ・ 見開きごとに、学習したことを自分の言葉で表現する「確認」、「表現」が設けられており、基礎・基本の確実な定着を図り、理解を深めることができるよう工夫されている。 ・ 「歴史を探ろう」では、後の時代に影響を与えた人物や出来事などが紹介されており、生徒が歴史を多面的・多角的に捉え直すことができるよう配慮されている。	(1) ・ 「歴史ゲームで遊ぼう」 (pp. 4－7) ・ 「第2章 学習のはじめに」 (pp. 20－21) (2) ・ 「グレートジャーニー」 (pp. 22－23) ・ 「歴史を探ろう 危機に立ち向かった人々」 (pp. 236－237)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 第1章に「歴史のとらえ方・調べ方」を配し、古代、中世、近世、近代、現代へと続き、全体では7章構成で時系列に沿って配列されており、生徒が円滑に学習を進めることができるよう配慮されている。 ・ 各時代の学習は、イラストを使って興味・関心をもたせる導入部、資料を読み取りながら課題について追究する展開部、学習をまとめる終末部の配列で構成されており、生徒が系統的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 (2) ・ 「身近な地域の歴史を調べよう」では、様々な調べ学習の方法やまとめ方の例が示されており、社会科の学習で身に付けた「調べ、まとめる技能」を生かして、他分野や他教科の学習を行うことができるよう配慮されている。 ・ 本文ページの下には、地理的分野や公民的分野、SDGsとの関連を示すマークが提示されており、他分野と関連させて学習できるよう工夫されている。	(1) ・ 「歴史的分野 もくじ」 (pp. III－IV) ・ 「第4章の学習のはじめに」 (pp. 96－97) 「教会と『コーラン』の教え」 (pp. 98－99) 「第4章：近世の日本と世界」 (pp. 140－142) (2) ・ 「東北地方の歴史を調べよう」 (pp. 54－55) ・ 「大海を越える人と物」 (pp. 106－107)

令和 7 (2025) 年度使用中学校用教科用図書調査研究資料

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	社 会（歴史的分野）
1 年・2 年・3 年				発 行 者 名
歴史 046－72 社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き				株式会社帝国書院
大観点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解し、調べまとめる技能を身に付けること	①・ 「技能をみがく」では、レポートのまとめ方や発表のしかたに関するポイントが示されており、社会的事象について調べまとめる技能を身に付けることができるよう工夫されている。 ・ 「学習事項の確認」では、年表や地図等を活用して、学習内容を整理する活動が設定されており、それぞれの時代に対する理解を深めることができるよう工夫されている。また、年表で歴史的な見方を、地図で地理的な見方について理解できるような工夫がなされている。		①・ 「技能をみがく」 (pp. 13) ・ 「学習を振り返ろう 学習事項の確認」 (pp. 158)
	② 多面的・多角的に考察し、課題について複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断し、説明・議論する力を養うこと	②・ 「章の振り返り」では、異なる時代に関する資料が掲載されており、それぞれの時代の特色について、資料を比較したり、関連付けたりすることを通して、多面的・多角的な視点から考察することができるよう工夫されている。 ・ 「歴史を探ろう」では、学習内容に関連する地域の歴史について提示されており、日本の社会や文化への理解を深めることで、日本の歴史を多面的に捉え直すことができるよう工夫されている。		②・ 「章の振り返り」 (pp. 103) ・ 「歴史を探ろう 『絹の道』と日本の製糸業」 (pp. 216－217)
	③ よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究解決しようとする態度を養うこと	③・ 各章の扉では、各時代の特色を示した資料が掲載されている。課題を明確に示すことにより、章全体の学習を見通して主体的に課題を追究し解決することができるよう工夫されている。 ・ 「アクティブ歴史」では、学習内容を踏まえて、主体的に課題を追究することができるよう具体的な主題が設定されている。他者と意見を交換したり、自分の考えを整理したりしながら、学びを深めることができるよう工夫されている。		③・ 「第2章古代国家の成立と東アジア」 (pp. 15) ・ 「アクティブ歴史 前方後円墳の役割を考察する」 (pp. 34－35)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 「『これからの社会を構想しよう』への準備」では、学習した時代と現代社会の共通点や相違点について整理する課題が提示されている。学習内容を踏まえて、現代社会の課題解決に向けて考察することができるよう工夫されている。 ・ 各章末に「学習を振り返ろう」が配置されており思考ツールを活用できるようになっている。学習した知識をもとに主体的・対話的に「章の問い」について考察することができるよう工夫されている。		(2)・ 「『これからの社会を構想しよう』への準備」 (pp. 104) ・ 「武家政権の展開と世界の動き」 (pp. 158－160)
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3)・ 本文の記述内容を補足する写真や図表などが大判で掲載されており、資料を活用しながら、各単元の学習課題と関連させて追究できるよう配慮されている。 ・ 文化史の学習では絵画や建築物などの資料が多く提示されている。当時の文化や文化を生み出した社会的背景について記述されており、日本の伝統や文化、宗教に対する理解を深めることができるよう工夫されている。		(3)・ 「各地で生まれる武士団」 (pp. 66－67) ・ 「庶民に広がる室町文化」 (pp. 98－101)

大観点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 第1章の冒頭の「歴史をたどろう」では、歴史上の人物や文化遺産に関する資料が提示されている。小学校の学習を振り返りながら、中学校の学習の見通しをもつことができるよう配慮されている。 ・ 「タイムトラベル」では、これから学習する時代の暮らしの様子が見開き2ページで提示されており、時代の様子を概観し、学習に対する興味・関心を高めることができるよう工夫されている。 (2) ・ 「確認しよう」、「説明しよう」では、学習を振り返ったり、活用したりして選択・判断する問いが設けられている。学習内容を確実に定着させるとともに、思考力、判断力、表現力等を育むことができるよう工夫されている。 ・ 「地域史」では、当時の社会を地域の視点から捉える資料が提示されている。日本の社会や文化への理解を深めることができるよう配慮されている。	(1) ・ 「第1章 歴史のとらえ方と調べ方」(pp. 2－3) ・ 「縄文時代を眺めてみよう 弥生時代を眺めてみよう」(pp. 26－27) (2) ・ 「人類がたどった進化」(pp. 16－17) ・ 「地域史 多摩地方の自由民権運動」(pp. 201)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 第1章では、社会的事象について調べまとめる技能を習得する「歴史のとらえ方と調べ方」を配し、その後、古代から現代までの歴史を六つの章に分けて配列されている。歴史的な見方・考え方を働かせ、各時代の特色を捉えることができるよう配慮されている。 ・ 章や節のまとまりでは、冒頭で見通しをもち、終末で振り返りを行うことができるよう構成されており、生徒が主体的に課題を解決することができるよう工夫されている。 (2) ・ 「世界とのつながりを考えよう」では、世界の都市のイラストや世界地図が掲載されており、地理的な見方・考え方を働かせて、多面的・多角的な視点から学習内容について考察することができるよう工夫されている。 ・ 「未来に向けて」では、よりよい未来を構想する上で、参考となる人々の取り組みが紹介されており、持続可能な社会を実現しようとする態度を育むことができるよう配慮されている。 ・ 教科書下方には、小学校・地理・公民・他教科との関連が提示されている。他分野や、他教科との関連が図れるよう工夫されている。	(1) ・ 「もくじ」(pp. 巻頭3－4) ・ 「第2章古代国家の成立と東アジア」(pp. 15－62) (2) ・ 「世界とのつながりを考えよう」(pp. 78－79) ・ 「唐風から日本風へ変わる文化」(pp. 58) ・ 「唐風から日本風へ変わる文化」(pp. 58)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	社 会（歴史的分野）
1 年・2 年・3 年			発 行 者 名	
歴史 081 - 72 中学歴史 日本と世界 改訂版			株式会社山川出版社	
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解し、調べまとめる技能を身に付けること ② 多面的・多角的に考察し、課題について複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断し、説明・議論する力を養うこと ③ よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究解決しようとする態度を養うこと	①・ 単元の冒頭に学習する時代と同時代の世界の歴史的事象が地図やイラストで提示されており、日本と世界の状況を関連付けながら理解できるよう工夫されている。 ・ 「身近な地域を調べよう」では、テーマの設定方法や施設を活用した探究方法などが紹介されており、調べまとめる技能を身に付けることができるよう工夫されている。 ②・ 時期や理由、経緯や差異などに着目した様々な発問が提示されており、歴史的な見方・考え方を働かせながら資料を読み取り、課題を追究したり解決したりすることができるよう工夫されている。 ・ 章の「まとめ」では、複数の立場から各時代を捉える課題が設定されており、多面的・多角的に考察し、公正に判断する力が身につくよう工夫されている。 ③・ 用語解説や資料の説明が充実しており、生徒が自主的・主体的に追究解決することができるよう配慮されている。 ・ 「歴史を考えよう」では、学習内容について、様々な視点から考察することができる資料や課題が提示されており、生徒が多面的・多角的な視点から課題を主体的に追究することができるよう工夫されている。		①・ 「2 世紀の世界」 （pp. 26－27） ・ 「身近な地域を調べよう」 （pp. 8－13） ②・ 「院政と武士の成長」 （pp. 66－67） ・ 「第 3 章中世の日本 まとめ」 （pp. 100－101） ③・ 「律令国家の仕組みと人々の暮らし」 （pp. 40－41） ・ 「第 1 回普通選挙の実態を探る」 （pp. 228－229）
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 「歴史へのアプローチ」では、様々な文化についての資料や解説が提示されており、学習内容に関連付けながら、時代の特色や文化について興味をもち、主体的に追究することができるよう工夫されている。 ・ 各時代のまとめのページでは、学習内容を振り返るための課題が設定されており、生徒が多面的・多角的な視点から考察することで、考えを広げたり深めたりすることができるよう工夫されている。		(2)・ 「琉球の歴史と文化」 （pp. 88－89） ・ 「中世の日本 まとめ」 （pp. 100－101）
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3)・ 歴史的分野における社会的事象に関する様々な資料が掲載されており、生徒の興味・関心を高めることで、主体的に学習に取り組むことができるように配慮されている。 ・ 各章の導入では、日本と世界の歴史について年表が提示されており、日本の歴史の大きな流れと世界の歴史を関連付けて捉えることができるよう配慮されている。		(3)・ 「鎌倉幕府の成立と執権政治」 （pp. 70－71） ・ 「第 4 章 近世の日本」 （pp. 102－103）

大観点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 第1章の冒頭で「歴史を大きく変えた人物」についてまとめる活動が設定されており、小学校で学習した人物について振り返ることで、中学校での学習を円滑に進めることができるよう配慮されている。 ・ 生徒の発達の段階を考慮し、口語訳で資料の説明が付されており、生徒の理解を促し、興味・関心を高めることができるよう配慮されている。 (2) ・ 「用語解説」では、意味の理解が困難な用語や概念について解説されており、歴史的な事象に対する理解を促すことができるよう配慮されている。 ・ 教科書の内容をより深めるための「コラム」が設けられており、発展的な学習内容をに扱うことで、歴史的な事象に関する理解を深めることができるよう配慮されている。	(1) ・ 「歴史を大きく変えた人物」 (pp. 7) ・ 「自由民権運動と国会開設」 (pp. 186) (2) ・ 「用語解説」 (pp. 166) ・ 「日露戦争と東アジア」 (pp. 197)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 各時代の世界の様子が地図とイラストで紹介されており、世界の歴史を大きな流れで捉えるとともに、視覚的に理解できるよう配慮されている。 ・ 各時代の学習は、年表を使って全体を見通せるよう工夫された導入部、写真や地図などの資料を活用して追究する展開部、問いに対して考えをまとめる終末部の配列で構成されており、生徒が系統的に学習することができるよう工夫されている。 (2) ・ 「地域からのアプローチ」では、地域の歴史について、様々な視点から捉える問いが提示されており、調べ学習を通して、多面的な視点から理解を深めることができるよう配慮されている。 ・ 「現代の日本と世界」のまとめでは、歴史学習を通して、現代的な諸課題について考える問いが設定されており、公民の学習と関連を図ることができるよう配慮されている。	(1) ・ 「13世紀の世界」 (pp. 80－81) ・ 「第4章 近世の日本」 (pp. 102－103) ・ 「ルネサンスと宗教改革」 (pp. 104－105) ・ 「第4章 近世の日本 まとめ」 (pp. 152－153) (2) ・ 「地域からのアプローチ④」 (pp. 148－149) ・ 「『現代の日本と世界』まとめ」 (pp. 282－283)

教科用図書の記号・番号・名称		種 目	社 会（歴史的分野）
1 年・2 年・3 年		発 行 者 名	
歴史 116－72 中学社会 歴史的分野		日本文教出版株式会社	
大観点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)	(1)
	① 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解し、調べまとめる技能を身に付けること ② 多面的・多角的に考察し、課題について複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断し、説明・議論する力を養うこと ③ よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究解決しようとする態度を養うこと	① ・ 各編の「年表と地図を読み取ろう」では、日本の年表と世界地図が合わせて提示されており、その時代における日本の特色と当時の世界の様子とのつながりを捉えることができるよう工夫されている。また、小学校で学習した人物についても書かれており、生徒が理解しやすいよう工夫されている。 ・ 各編の終末「いつ、どこで、何があった」では、年表と世界地図を活用して学習内容を整理する活動が設定されており、歴史的な見方・考え方と地理的な見方・考え方を関連付けながら、学びを深めることができるよう工夫されている。 ② ・ 学習課題を提示するとともに、関連する見方・考え方が示されており、多様な視点に着目して、学習課題を追究することができるよう工夫されている。 ・ 各編の終末に位置付けられている「〇〇ってどんな時代？」では、「編の問い」に対して、学習内容を基に考える活動が設定されており、時代の特色を自分の言葉で表現することを通して、思考力、判断力、表現力等を養うことができるよう工夫されている。 ③ ・ 各編の冒頭「学習のはじめに」では、資料から時代の特色を読み取る活動が設定されており、気付いたことについて話し合ったり、問いの答えを予想したりすることを通して、学習の見通しをもつことができるよう工夫されている。 ・ 「でかけよう！ 地域調べ」では、身近な地域の歴史について調べまとめる学習の事例が紹介されており、課題を設定し、自ら追究するなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。	① ・ 「年表と地図を読み取ろう」 （pp. 66－67） ・ 「中世 いつ、どこで、何があった」 （pp. 102） ② ・ 「人類の出現」 （pp. 22－23） ・ 「古代までってどんな時代？」 （pp. 63） ③ ・ 「年表と地図を読み取ろう」 （pp. 156－157） ・ 「でかけよう！ 地域調べ 多摩地域の空襲を調べる」 （pp. 254－255） (2) ・ 「列強の動向とアジア」 （pp. 196－197） ・ 「欧米の発展とアジアの植民地化」 （pp. 158－159） (3) ・ 「鎌倉時代の文化と仏教」 （pp. 78－81） ・ 「摂関政治」 （pp. 54－55）
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) ・ 「学び合い」マークが付されており、生徒同士の話し合いなど対話的な活動を通して、考えを広げ深めることができるよう工夫されている。 ・ 見開きに「節の問い」が示されており、節のまとまりを通して追究する問いを意識しながら学習に取り組むことができるよう工夫されている。	
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3) ・ 時代の特色を具体的にイメージできる資料が掲載され、特に各時代の文化史は資料を拡大して掲載されており、当時の文化の特徴を読み取ることができるよう工夫されている。 ・ 「資料活用」コーナーでは、資料を読み取る視点が示されており、必要な情報の読み取りなどの情報活用能力を育むことができるよう配慮されている。	

大観点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 「歴史を掘り下げる」では、学習した内容に関連する様々な視点の資料が提示されており、生徒が多面的な視点から事象を捉え、興味をもって追究することができるよう工夫されている。 ・ 各編の冒頭で提示される年表では、小学校で学んだ人物について触れ、小学校の学習を振り返る活動が設定されており、円滑に中学校の学習を進めることができるよう配慮されている。 (2) ・ 見開きページの右端には「確認」と「表現」のコーナーが設けられており、基礎的・基本的な知識及び技能を習得するとともに、思考力、判断力、表現力等を育むことができるよう配慮されている。 ・ 「歴史＋α」では、学習内容の理解を深めるテーマが設定されており、発展的な学習内容に触れ、学んだ知識を深めることができるよう配慮されている。	(1) ・ 「歴史を掘り下げる 文化財を守り伝える仕事」 (pp. 58－59) ・ 「古代までの日本と世界の動き」 (pp. 20) (2) ・ 「聖徳太子と飛鳥文化」 (pp. 42－43) ・ 「ヤマト王権と渡来人」 (pp. 37)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 構造的に編、章、節に問いが設定されており、生徒が課題解決の見通しをもち、主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 歴史の学習の最後に「『歴史との対話』を未来に活かす」を位置付けており、先人たちの知恵に学びながら、よりよい未来を実現に向けて考えることができるよう配慮されている。 ・ 年表には自国や隣国のことが書かれているだけでなく、小学校で学んだ歴史人物が記載されており、既習したことを思い出しながら学習に取り組めるよう工夫されている。 ・ 各ページに必ず「節の問い」が書かれているため、その節では何を考えながら学習したらよいかが明確にされている。 (2) ・ 現代的な諸課題について様々な資料が提示されており、持続可能な社会の実現に向けて、生徒自身が当事者意識をもって課題を捉えることができるよう工夫されている。人権や道徳の観点からも、生徒自身に考えさせる内容になっている。 ・ 「先人に学ぶ」では、「伝統と文化」、「資源と環境」、「国際交流」、「災害復興」、「産業の発展」、「命の尊さ」の六つのテーマが取り上げられており、他分野の学習との関連が図ることができるよう工夫されている。	(1) ・ 「もくじ」 (pp. 巻末 3－1) ・ 「世界平和の取り組みに学ぶ」 (pp. 298－299) ・ 「年表と地図を読み取ろう」 (pp. 66) ・ 「第 5 節の問い」 (pp. 196－202) (2) ・ 「関東大震災」 (pp. 231) ・ 「鎌倉時代の文化と仏教」 (pp. 79)

教科用図書の記号・番号・名称		種 目	社 会（歴史的分野）
1 年・2 年・3 年		発 行 者 名	
歴史 225-72 新しい歴史教科書		株式会社自由社	
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)	(1)
	① 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解し、調べまとめる技能を身に付けること	① ・ 単元で学習する時代の特色を捉えることができる資料や、当時の生活の様子が描かれた資料などが提示されており、学習内容と関連付けながら、時代の大きな流れや特色を理解することができるよう工夫されている。 ・ 章末の「復習問題のページ」では、各単元の重要語句について確認する活動が設定されており、学習内容を復習することができるよう配慮されている。	① ・ 「日本の旧石器・縄文文化と世界の古代文明」(pp. 20-21) ・ 「復習問題のページ 古代までの日本」(pp. 66)
	② 多面的・多角的に考察し、課題について複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断し、説明・議論する力を養うこと	② ・ 章末「時代の特徴を考えるページ」では、時代や人物を比較したり、時代の特色を表現したりする活動が設定されており、生徒が多面的・多角的に時代を捉えることができるよう工夫されている。 ・ 学習内容に関連する「出来事」、「隣国の状況」、「人物」、「文化」などについてのコラムが設定されており、社会的事象について多面的・多角的に捉えることができるよう工夫されている。	② ・ 「中世とはどんな時代だったのだろうか」(pp. 103) ・ 「平氏の繁栄と滅亡」(pp. 73)
	③ よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究解決しようとする態度を養うこと	③ ・ 「800字で人物伝記を書いてみよう」では、興味のある人物について調べ、伝記にまとめる活動が設定されており、歴史上の人物について調べまとめる学習を通して時代を捉えることができるよう工夫されている。 ・ 単元の導入では、各単元で扱う歴史人物や時代の特色を捉えることのできる資料が提示されており、学習の見通しをもって、課題を追究することができるよう工夫されている。	③ ・ 「800字で人物伝記を書いてみよう」(pp. 17-18) ・ 「第1章 古代までの日本」(pp. 19)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) ・ 各単元の「人物クローズアップ」では、学習した時代に活躍した歴史上の人物の業績について紹介されており、歴史に対する興味・関心を高め、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・ 各章の終末には「対話とまとめのページ」が設定されており、対話を通して、時代の特色に対する理解を深め、生徒が自分の考えを広げたり深めたりできるよう工夫されている。	(2) ・ 「正確な日本地図をつくった伊能忠敬」(pp. 135) ・ 「対話とまとめのページ」(pp. 148)
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3) ・ 学習内容を補足する資料が掲載されており、それぞれの資料と本文を関連付けながら理解することができるよう配慮されている。 ・ 図、表、グラフ、地図など様々な資料が掲載されており、社会的事象を多面的・多角的に理解することができるよう配慮されている。	(3) ・ 「殖産興業と文明開化」(pp. 178-179) ・ 「大日本帝国憲法と立憲国家」(pp. 184-185)

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取扱 について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 序章の「人物を通して時代をとらえる」では、小学校で学んだ人物をカードにまとめる活動が設定されており、中学校での歴史の学習へスムーズに移行できるよう配慮されている。 ・ 各章の冒頭では、章の学習に関連する歴史上の人物が紹介されており、小学校での既習事項と関連付けながら、見通しをもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。 (2) ・ 1 単位時間ごとに、学習した内容を確認するための課題が「チャレンジ」として設けられており、学習内容を振り返るとともに、基礎的・基本的な知識の定着を図ることができるよう配慮されている。 ・ 「もっと知りたい」では、各章で学習した内容と関連する資料が掲載されており、生徒が多面的・多角的に考察し、学習内容について幅広い知識を身に付けることができるよう配慮されている。	(1) ・ 「人物を通して時代をとらえる」 (pp. 16) ・ 「第 2 章 中世の日本」 (pp. 69) (2) ・ 「人類の誕生と日本人の祖先」 (pp. 20－21) ・ 「もっと知りたい 岩宿遺跡を発見した相沢忠洋」 (pp. 24－25)
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 序章に「歴史のとらえ方」を配し、古代から現代まで全体では 6 章構成で時系列に沿って配列されており、生徒が歴史の流れを捉えることができるよう配慮されている。 ・ 見開き左側下段に、年表が提示されており、学習内容の年表上の位置付けを把握しながら、各時代の特色と歴史の流れを関連付けて理解できるよう工夫されている。 (2) ・ 「外の目から見た日本」が掲載されており、他国との関わりについて意識することができるよう取り上げられている。 ・ 「調べ学習のページ」では、名字の由来や世界遺産など、生徒にとって身近な事象について調べる学習が設定されており、歴史の学習と現代社会と関連を図ることで、興味をもって追究することができるよう配慮されている。	(1) ・ 「もくじ」 (pp. 4－6) ・ 「21 世紀の日本の進路」 (pp. 278－279) (2) ・ 「浮世絵とジャポニズム」 (pp. 143) ・ 「日本人の名字の由来を訪ねてみた」 (pp. 100－101)

種 目		社 会（歴史的分野）	
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称		発 行 者 名	
1 年 ・ 2 年 ・ 3 年		株式会社育鵬社	
歴史 227-72 新しい日本の歴史			
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内 容 に 関 し て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。 ① 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解し、調べまとめる技能を身に付けること ② 多面的・多角的に考察し、課題について複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断し、説明・議論する力を養うこと ③ よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究解決しようとする態度を養うこと	(1) ① ・ 各章の冒頭にその時代で学習する人々の生活を描いた絵や流れが提示されており、時系列で時代の特徴を捉えることができるよう配慮されている。 ・ 学習のまとめでは、各時代の年表を用いて歴史に関わる事象について確認する学習活動が設定されており、歴史の大きな流れを理解することができるよう配慮されている。 ② ・ 1 単位時間の導入では、歴史上の人物や史跡などに関する様々な資料が提示されており、資料を比較したり関連付けたりする活動を通して、多面的・多角的に考察することができるよう工夫されている。 ・ 学習した時代において最も重要だと考える人物について、自分の考えを表現する活動が設定されており、学習内容を踏まえて主体的に判断し、説明する力を養うことができるよう工夫されている。 ③ ・ 「TRY！」では、学習内容に関連して、グループで話し合ったり、調べ学習を促したりする課題が提示されており、主体的に課題を追究することができるよう工夫されている。 ・ 「日本の歴史を大観する」では、これまでの学習内容を活用し、どう生かしていくかについて考える活動が設定されており、これからの社会を構想し、自分たちの力で課題を解決していこうとする態度を養うことができるよう配慮されている。	(1) ① ・ 「鳥の目で見える 原始・古代」 （pp. 24－25） ・ 「原始・古代の時代をふり返って考えてみよう」（pp. 62－63） ② ・ 「建武の新政と南北朝の動乱」 （pp. 82－83） ・ 「中世の時代をふり返って考えてみよう」（pp. 94－95） ③ ・ 「TRY！」（pp. 57） ・ 「日本の歴史を大観する」 （pp. 282－283）
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) ・ 1 単位時間の学習課題と節の学習課題とを関連させながら学習を進めることができるよう、各見開きに「節の課題」が提示されており、節全体の学習の見通しをもち、課題追究的な学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・ 章ごとの「学習のまとめ」では、時代の変化や特色を捉えられるような言語活動が設けられており、説明し合う活動を通して深い学びにつなげることができるよう工夫されている。	(2) ・ 「律令国家への歩み」 （pp. 48－49） ・ 「学習のまとめ①」 （pp. 62－63）
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3) ・ 写真や表、グラフ、図、コラムなどの様々な資料が提示されており、本文の内容と関連付けながら学習内容を理解することができるよう配慮されている。 ・ 「人物クローズアップ」では、学習内容に関連する人物や事項に関するコラムを掲載しており、歴史上の人物や文化遺産を尊重しようとする態度を育むことができるよう配慮されている。	(3) ・ 「武士の暮らしと社会の様子」 （pp. 74－75） ・ 「岩倉使節団と西南戦争」 （pp. 178－179）

大観点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 序章の「歴史の流れと先人の活躍」では、小学校で学んだ歴史上の人物と歴史に関わる事象を結び付ける活動が設定されており、中学校での歴史学習への接続を図ることができるよう配慮されている。 ・ 各章の冒頭には、時代の様子を表したイラストや発問が付された「歴史絵巻」が提示されており、章の学習の見通しをもち、興味・関心を高めることができるよう配慮されている。 (2) ・ 見開きごとに「確認」、「探究」のコーナーが設けられており、学習内容を振り返るとともに、基礎的・基本的な知識の定着を図ることができるよう配慮されている。 ・ 「地域の歴史を調べてみよう」では、身近な地域の歴史について調べまとめる事例が提示されており、地域に残る文化財や資料を活用して、発展的な学習に取り組むことができるよう工夫されている。	(1) ・ 「歴史の流れと先人の活躍」(pp. 14－17) ・ 「歴史絵巻」 (pp. 24－25) (2) ・ 「第一次世界大戦」(pp. 208－209) ・ 「地域の歴史を調べてみよう②」(pp. 150－151)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 序章で時代区分の表し方や歴史の見方・考え方を学習し、第1章から古代、中世、近世、近代、現代へと続き、全体では6章構成で時系列に沿って配列されており、教材の構成・配列ともに生徒が円滑に学習することができるよう配慮されている。 ・ 各章において「つかむ、調べる、まとめる、表現する」の流れで学習することができるよう構成されており、課題追究的な学習を通して、主体的に情報を収集したり、社会的事象について考察したりすることで、学習内容をより深く理解することができるよう配慮されている。 (2) ・ 巻頭資料では、日本の文化財について取り上げられており、他教科の学習と関連付けて学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 「歴史ズームイン」では、震災の日本史や感染症の歴史など、歴史を多面的な視点から捉えることができるような資料が掲載されており、現代社会の諸課題の解決に向けて考察することができるよう配慮されている。	(1) ・ 「目次」 (pp. 2－3) ・ 「虫の目で見る原始・古代」(pp. 24－27) ・ 「第1節 日本のあけぼのと世界の文明」 (pp. 28－43) ・ 「第2節 『日本』の国の成り立ち」 (pp. 46－61) ・ 「学習のまとめ①」(pp. 62－63) (2) ・ 巻頭「日本の美の形」(巻頭pp. 1-2) ・ 「感染症の歴史」(pp. 276－277)

教科用図書の記号・番号・名称		種 目	社 会（歴史的分野）
1 年・2 年・3 年		発 行 者 名	
歴史 236-73 国史教科書 第7版		令和書籍株式会社	
大観点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)	(1)
	① 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に各時代の特色を踏まえて理解し、調べまとめる技能を身に付けること	①・ 各時代の年表中に世界の歴史的な出来事が併記されており、世界の歴史と関連させて日本の歴史の流れを理解することができるよう配慮されている。 ・ 各章の終末には、時代の特色について表を使って整理したり、比較、関連付けて考察したりするまとめの学習活動が設定されており、学習内容を活用しながら理解を深めることができるよう配慮されている。	①・ 「第2章 古代」 （pp. 116－117） ・ 「古代までのまとめ」 （pp. 118）
	② 多面的・多角的に考察し、課題について複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断し、説明・議論する力を養うこと	②・ 「序 国史を学ぶにあたって」では、時代の表し方や歴史的な見方・考え方が掲載されており、学習を通して社会的事象のつながりや相互の関連を意識して考察することができるよう配慮されている。 ・ 絵画資料を並べて掲載したり、文化の特色の違いを表で提示したりするなど、生徒が多面的・多角的に考察することができるよう配慮されている。	②・ 「序 国史を学ぶにあたって」 （pp. 10－16） ・ 「カトリックとプロテスタントの違い」（pp. 187）
	③ よりよい社会の実現を視野に、課題を主体的に追究解決しようとする態度を養うこと	③・ 「新聞にまとめてみよう」では、自ら設定した課題について調べまとめる学習活動の事例を紹介しており、生徒が主体的に課題を設定し、追究することができるよう工夫されている。 ・ 学習内容に関連する文化遺産や史料が紹介されており、生徒の興味・関心を高め、主体的に追究することができるよう配慮されている。	③・ 「新聞にまとめてみよう」 （pp. 263－264） ・ 「安土桃山文化」 （pp. 204－205）
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 各章の冒頭において学習課題を設け、終末において学習内容をまとめる活動が提示されており、生徒が見通しをもったり、学習内容を振り返ったりするなど、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・ 「ディスカッションしよう」など、学習したことを基に話し合う活動が設定されており、対話的な活動を通して、生徒が自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう工夫されている。	(2)・ 「第4章 近世」 （pp. 184, pp. 268） ・ 「ディスカッションしよう」 （pp. 455－456）
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3)・ 本文を補完する表、図、統計などの資料や難しい語句に関する解説が提示されており、生徒が学習に対する理解を深めることができるよう配慮されている。 ・ 文献史料には現代語訳も併せて掲載されており、生徒が史料を読み取り活用することができるよう配慮されている。	(3)・ 「廃藩置県と三大改革」 （pp. 289－290） ・ 「真珠湾攻撃で対米戦争が始まる」（pp. 376－377）

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について考慮されているか。	(1) ・ 序の「小学校で学んだ人物や文化」では、小学校で学んだ人物や文化をカードにまとめる活動が設定されており、小学校で学習した内容を基に中学校での歴史学習の見通しをもつことができるよう配慮されている。 ・ 各章の冒頭に「政治」、「外交」、「文化」、「産業」の四つの視点で問いが提示されており、生徒の興味・関心を高め、学習に取り組むことができるよう配慮されている。また、単元を貫く問いとしても適切である。 ・ 「日本美術図鑑」では、作品が時代ごとに区切られたり、一つ一つに詳しく説明が書かれているため、初めて作品を見る生徒が興味をもって見ることができる。 (2) ・ 「新聞にまとめてみよう」では、新聞の作り方を例示しており、生徒が学習内容を踏まえて自ら調べたことをまとめるなど、主体的に課題追究することができるよう配慮されている。 ・ 学習内容と関連する歴史上の出来事やその当時の人々の様子が紹介されており、生徒が社会的事象や課題について多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。 ・ 各時代の年表に何ヶ所か空欄があることで、既習事項の整理が自分でできるよう工夫されている。	(1) ・ 「小学校で学んだ人物や文化」(pp. 10－11) ・ 「第1章 原始」(pp. 18) ・ 「日本美術図鑑」 (2) ・ 「新聞にまとめてみよう(近世)」(pp. 263－264) ・ 「最期まで途切れなかった避難の呼びかけ」(pp. 447) ・ 「第二章 古代」(pp. 116－117)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 序章に「国史を学ぶにあたって」を配し、全体では6章構成で時系列に沿って配列されており、生徒が歴史の流れを捉えながら学習することができるよう配慮されている。 ・ 1単位時間で学習する内容において課題が明示されており、生徒が学習の見通しをもち、課題を追究・解決することができるよう配慮されている。 (2) ・ 巻末資料には、各時代の世界地図や日本地図が掲載されており、地理的分野との関連が図られるよう配慮されている。 ・ 「日本美術図鑑」では、各時代の代表的な文化財や作品などが掲載されており、他教科との関連が図られるよう配慮されている。	(1) ・ 「目次」(pp. 3) ・ 「第2章 古代」(pp. 53－118) (2) ・ 「巻末資料」 ・ 「日本美術図鑑」

種 目		社 会（公民的分野）	
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称		発 行 者 名	
3 年		東京書籍株式会社	
公民 002－92 新編 新しい社会 公民			
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。 ① 個人の尊厳と人権尊重の意義を広い視野から認識し民主主義、経済、国際関係など個人と社会との関わりを中心に理解し、調べまとめる技能を身に付けること ② 多面的・多角的に考察し、課題について複数の立場や意見を踏まえて公正に判断し、説明・議論する力を養うこと ③ 現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとする態度を養うこと (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。 (3) 本文と資料の関係は適切か。	(1) ① ・ 学習の導入に、生徒の興味・関心を引き出す活動やイラストが設けられており、主体的な学びを促そうとする配慮がされている。 ・ 生徒にとって身近で具体的な事象が取り上げられており、自分自身の生活と関連付けながら社会的事象を実感できるように配慮されている。 ・ 「活動コーナー」では、各単元に関連する学習内容について、小学校の社会科や「スキル・アップ」で身に付けた技能を活用しながら資料を読み取ったり、考えたりできるように配慮されている。 ② ・ 「みんなでチャレンジ」では、地理・歴史で身に付けた聞き取り調査などの技能を生かしてインタビュー調査をしたり、インターネット調査をしたりする例が提示されており、主体的に説明・議論する力を養うことができるように配慮されている。 ・ 各章の終末において、「ふり返ろう」が設けられており、様々な思考ツールを用いて考察することで思考力、判断力、表現力を育むことができるように工夫されている。 ③ ・ 株式会社の仕組みを図解で分かりやすく明示されており、起業の重要性や多様化する労働の在り方、ワーク・ライフ・バランスなどについて丁寧に説明されている。それによって、勤労観を養えるように配慮されている。 ・ 「18歳へのステップ」では、身近で具体的な場面から、憲法や政治・経済を捉えることができるように問いや資料が提示されており、生徒が主体的に活動する態度を身につけられるように配慮されている。 (2) ・ 「スキル・アップ」では、需要と供給、価格の関係を身近な題材を取り上げることでシミュレーションしやすくしており、生徒の興味・関心を高められるように工夫されている。 ・ 社会的事象を考える上で、イラストや吹き出しが考察するヒントとなっており、生徒が主体的に学びを深められるように配慮されている。 (3) ・ 途上国から急成長した新興国を学ぶにあたり、各国の経済成長率を示したグラフ資料が掲載されていることや、世界的なイベントが開催されている写真資料を見せることで、本文を理解する上で大きな効果をもたらしている。 ・ 本文を補完する学習効果の高い資料を大きく掲載し、資料に付した「図番号」を本文にも付すことで、効果的に学習できるように配慮されている。	(1) ① ・ 「T市のまちの様子から現代社会をながめてみよう」(pp.6～7) ・ 「ちがいのちがい」(pp.38－39) ・ 「多様な文化の意義」(pp.22－23) ・ 「政治参加をしてみよう」(pp.120－121) ・ 「第3章の学習をまとめよう」(pp.122－123) ・ 「株式会社のしくみ」(pp.146－147) ・ 「18歳でできること」(pp.138－139) ・ 「株式会社のしくみ」(pp.146－147) ・ 「市場経済と価格の決まり方」(pp.152－153) ・ 「新興国の台頭と経済格差」(pp.188－189) ・ 「貧困問題 公正な世界をつくる」(pp.194－195)

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程 度 ・ 選 択 ・ 取 扱 に つ い て	(1) 発達の段階、興味・関心について配慮されているか。	(1) ・各章の扉に、「小学校の社会で習ったことば」や章の学習に関連する写真が掲載されており、既習事項を振り返るとともに、学習に対する興味・関心を高めることができるよう工夫されている。 ・学習内容を踏まえて、現代的な諸課題について考察する課題が設定されており、生徒自身が興味をもち、対話を通して学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・巻末に、高等学校の必修科目「公共」について紹介するページが設けられており、中学校から高等学校に学びがつながっていくことをイメージさせるように工夫されている。	(1) ・ 「現代の民主政治と社会」 (p. 77) ・ 「新しい人権② 情報化の進展と人権」 (p. 66) ・ 「公民の学習をこれからの学習に生かす」 (巻末2) ・ 「チェック」「ライン」 (pp. 68－69など) ・ 「もっと解説」 (pp. 106－107など)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2) ・「チェック」、「トライ」では、1単位時間で学習したことを確認したり、学習したことを踏まえて説明したりする学習活動が設定されており、基礎的・基本的な知識を身に付けるとともに、思考力、判断力、表現力等を育むことができるよう配慮されている。 ・本文中の難しい用語を解説する「もっと解説」が本文ページの随所に配置されており、確実な理解が図れるように配慮されている。	
3 組 織 ・ 配 列 等 に つ い て	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1) ・探求課題を示す中で、導入資料、学習課題、学習内容の説明本文、振り返りが見開きページで確認できるようになっていることで、1単位時間の学習の流れを視覚的にとらえることができるように配慮されている。 ・第2・3・4章は「人権・憲法→政治→経済」の流れにすることで、公民学習の基盤である「人権・憲法」を先に学習し、「経済」については政治や政策との関連から学習を深められるように工夫されている。	(1) ・ 「自由権 自由に生きる権利」 (pp. 54－55など) ・ 「第2章 個人の尊重と日本国憲法」 「第3章 現代の民主政治と社会」 「第4章 私たちの暮らしと経済」 (pp. 37－180)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) ・他教科との関連を示すリンクマークが付されていることによって、既習事項と関連付けながら学習を進めることができるように配慮されている。 ・3年間の社会科学学習を貫くテーマ「環境・エネルギー」「人権・平和」「伝統・文化」「防災・安全」「情報・技術」について、「もっと知りたい」を3分野共通で示したり、分野をまたがる共通の資料を扱ったりすることで多面的・多角的な学習を促している。	・ 「情報化」 (p. 12など) ・ 「東日本大震災からの復興と防災」 (pp. 126－127)

令和 7 (2025) 年度使用中学校用教科用図書調査研究資料

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	社 会（公民的分野）
3 年				発 行 者 名
公民 017-92 中学社会 公民 とともに生きる				教育出版株式会社
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。 ① 個人の尊厳と人権尊重の意義を広い視野から認識し民主主義、経済、国際関係など個人と社会との関わりを中心に理解をし、調べまめめる技能を身に付けること	(1) ①・ 章の学習の冒頭では、学習内容に関する語句について確認する活動が設定されており、基礎的・基本的な知識を身に付けることができるよう配慮されている。 ・ 「TRY!」では、対話的な活動を通して、現代社会の課題を自分ごととして捉えよりより社会を構築していくための視点を意識して学びを深めることができるよう工夫されている。 ・ 語句に関する説明や生徒にとって身近な社会的事象の資料が提示されており、複数の事象を関連付けながら理解を深めることができるよう配慮されている。		(1) ①・ 「暮らしと政治の関わりを考えよう」 （pp.84－85） ・ 「子どもたちが暮らしやすい地域の「まちづくり」を考えよう」 （p.125） ・ 「生産と消費を結ぶ」 （pp.136－137）
	② 多面的・多角的に考察し、課題について複数の立場や意見を踏まえて公正に判断し、説明・議論する力を養うこと	②・ 「Look!」、「THINK!」では、学習課題の解決につながる資料が提示されており、資料から読み取ったことを手掛かりに、社会的事象の意味や意義について考察することができるよう配慮されている。 ・ さまざまな視点から資料を提示することで、より多面的・多角的に考察することができるよう工夫されている。 ・ 各章の終末に、学習内容を振り返ったり、思考ツールを活用して整理したりする活動が設けられており、章の問いについて考えることで、学びを深めることができるよう工夫されている。		②・ 「THINK!」（p.21） ・ 「未来のためにできること」（pp.82） ・ 「第3章 私たちの暮らしと民主政治」（pp.126－127）
	③ 現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとする態度を養うこと	③・ 各章の冒頭に、章全体の学習を通して解決を図る課題が示されており、学習活動の見通しをもち、主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 各時間の学習内容に関わるSDGsの項目が紹介されており、持続可能な社会を意識できるよう工夫されている。 ・ 「公民の窓」では、学習内容と関連する判例や話題が紹介され、社会的事象に関心をもって学習に取り組めるよう工夫されている。		③・ 第2章「個人を尊重する日本国憲法」（pp.42－79） ・ 「未来のためにできること」（p.192） ・ 「B型肝炎訴訟」（pp.65）
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 学習や課題の解決を図るために、手掛かりとなる視点が示されており、現代社会の見方・考え方を働かせて、課題解決に取り組むことができるよう工夫されている。 ・ 生徒にとって身近な社会的事象を取り上げ、学習したことを基に対話したり、解決方法を選択・判断したりする課題が設定されており、主体的・対話的で深い学びの実現に資するよう配慮されている。		(2)・ 「誰もが大切にできるルールとは」（pp.30－31） ・ 「なぜ、契約について学ぶ必要があるのだろうか？」（pp.148－149）
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3)・ 学習内容を補完する様々な資料が提示されており、学習内容と実生活を関連付けて捉えることで、実感を伴って理解することができるよう配慮されている。 ・ 本文と資料の関連を番号で示されており、本文の内容と資料を結び付けて考察することにより、理解を深めることができるよう配慮されている。		(3)・ 「つながる世界と私たち」（pp16－17） ・ 「18歳選挙権と私たち」（pp90－91）

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 各章の扉には学習内容に関連する写真が拡大して掲載されており、学習内容に関する興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 各章の導入では、学習課題への気付きにつながるよう身近な事例がイラストを用いて提示されており、生徒の学習に対する意欲を高めることができるよう工夫されている。 (2) ・ 各章の終末には、学習内容を確認して整理する活動や、自分の考えを表現する活動が設定されており、学習内容の確実な定着を図り、思考力、判断力、表現力等を育むことができるよう配慮されている。 ・ 「公民の窓」では、学習内容と関連のある話題が紹介されており、学習内容を補完するとともに、社会的事象を多面的・多角的な視点から捉えることで、視野を広げることができるよう配慮されている。 ・ 「公民の技」では、資料をを活用する活動や自分の考えを表現する活動が設定されており、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を育成できるよう工夫されている。	(1) ・ 「個人を尊重する日本国憲法」 (p. 39) ・ 「日本国憲法の“最も大切な考え方”とはなんだろう」 (pp. 40－41) (2) ・ 「基本的人権を尊重すること」 (pp. 48－49) ・ 「自由に生きる社会のために」 (pp. 58－59) ・ 「選挙のしくみについて考えよう」 (pp. 89)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 各章のまとめでは、章で学習した内容を踏まえて、次の章で学習する内容について自分の考えを表現する課題が設けられており、学習内容とのつながりを意識して、次の章の学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 各章、各節、1 単位時間において、「問いを立て、学習を見通す」、「問いについて追究する」、「問いについてまとめ、振り返る」という「問い」を軸にした一連の学習活動で構成されており、生徒が主体的に課題を追究することができるよう配慮されている。 (2) ・ 小学校の学習内容や他分野と関連する学習内容を示す「関連」マークが付されており、既習事項と関連を意識して学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 「持続可能な社会に向けて」では、SDG s の視点から問いが設定されており、よりよい社会の実現に向けて考察することで、主体的に社会に関わろうとする態度を養うことができるよう工夫されている。	(1) ・ 「暮らしと政治の関りを考えよう」 (pp. 128) ・ 「自由に生きる社会のために」 (pp. 58－59) (2) ・ 「豊かな生活を実現するために」 (pp. 22－23) ・ 「なぜ、ルールをつくる必要があるのだろうか」 (p. 34)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	社 会（公民的分野）
3 年			発 行 者 名	
公民046-92 社会科 中学生の公民 よりよい社会を目指して			株式会社帝国書院	
大観点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 個人の尊厳と人権尊重の意義を広い視野から認識し民主主義、経済、国際関係など個人と社会との関わりを中心に理解し、調べまとめる技能を身に付けること	①・「アクティブ公民」では生徒が身近な生活と関連付けながら現代社会の仕組みについて理解を深めることができるよう工夫されている。 ・ 図表や写真、グラフなどを読み取る活動が設けられており、現代社会に関する様々な情報を基に、調べまとめる技能を身に付けることができるよう工夫されている。 ・「学習の前に」ではイラストをもとに、実社会に興味をもって学習内容を俯瞰してイメージできるように工夫されている。		①・「世論とメディア」（pp.78－79） ・「政党の役割」（PP.80－81） ・「暮らしのなかから憲法との関わりを探してみよう」（pp.30-31）
	② 多面的・多角的に考察し、課題について複数の立場や意見を踏まえて公正に判断し、説明・議論する力を養うこと	②・ 思考ツールを用いて学習内容を整理したり話し合いを促す課題が設定されたりしており、様々な立場や意見を踏まえて、多面的・多角的に考察することができるよう工夫されている。 ・ 各章のまとめでは、導入で設定した課題について解決を図る活動が設定されており、章の学習を通じて考えがどのように変化したのかを捉えることができるよう工夫されている。		②・「学習を振り返ろう」（pp.110－111） ・「章の振り返り」（p.25）
	③ 現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとする態度を養うこと	③・「アクティブ公民」では、現代社会の諸課題について考察できる課題が設定され、生徒が自分ごととして課題を捉え、主体的に社会に関わろうとする態度を養うことができるられるよう工夫されている。 ・ 持続可能な社会の実現に向けて六つのテーマの視点から問題提起されており、これからの日本の課題となる事象と関連を図りながら考察することで、主体的に社会に関わろうとする態度を養うことができるよう工夫されている。		③・「45年前と今の社会を比べてみよう」（pp.2－3） ・「自分のまちの課題を解決する予算案を提案しよう」（p.108）
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・「アクティブ公民」では、現代社会の諸課題について考察する課題やシミュレーション課題が設定されており、生徒の興味・関心を高め、課題解決的な学習に取り組むことができるよう工夫されている。		(2)・「赤字バス路線に税金を使うべきか？」（pp.166－167） ・「パン屋さんを作ろう」（pp.133）
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3)・本文の記述を補完する様々な写真や図表が掲載されており、資料を活用しながら主体的に学習を進めることができるよう配慮されている。 ・ 学習内容に関連する事項についての参照ページ、参照資料の図番号、「条文参照」などのリンク機能が設けられており、資料の活用を促すなど、効果的に学習を進めることができるよう配慮されている。		(3)・「契約と消費者問題」（pp.126－127） ・「日本国憲法の成立と特色」（pp.36－37）

大観 点	小観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取扱 について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1) ・章の導入部では、身近な生活との関わりから学習の見通しをもつことができるようイラストが掲載されており、社会的事象を自分事として捉え、進んで学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・巻頭には、視点となるSDGs（持続可能な開発目標）について紹介され、巻末には、防災・減災をテーマにした写真資料が掲載されており、身近な生活と学習内容を関連付けることで、生徒の興味・関心を高めることができるよう工夫されている。	(1) ・「暮らしのなかから憲法との関わりを探してみよう」（pp. 30－31） ・「よりよい社会を目指して」（巻頭）
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2) ・「確認しよう」、「説明しよう」では、学習内容について振り返ったり、学習内容を基に、自分の考えを説明したりする課題が設定されており、基礎的・基本的な知識の定着や表現力の育成を図ることができるよう配慮されている。 ・「探究学習への準備」では、単元を通して学習した内容を整理する活動が設けられており、自らの興味・関心に沿って探究課題を設定することができるよう工夫されている。	(2) ・「民主主義と立憲主義」（pp. 32－33） ・「日本国憲法と私たち」（p. 72）
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1) ・「現代社会」、「政治」、「経済」、「国際」、「課題探究学習」の五つのテーマで構成されており、身近な社会的事象について学んだことを踏まえて、国際社会に関する学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・章が「課題をつかむ」、「課題を追究する」、「課題を解決する」という流れで構成されており、章全体の学習内容の見通しをもった上で課題解決的な学習に取り組むことができるよう工夫されている。	(1) ・「もくじ」（巻頭） ・「第1部第1章 現代社会と私たち」（pp. 4－26）など
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) ・小学校の学習内容や他分野と関連する学習内容には、関連を示すマークが付されており、既習事項や他分野と関連付けながら学習に取り組み、理解を深めることができるよう配慮されている。 ・「メディアリテラシー」、「契約」などの実践的な知識や技能について、これからの社会を生きていくために身に付けさせたい内容が取り上げられており、主権者や消費者としての自覚を高めることができるよう配慮されている。	(2) ・「少子高齢化が進む現代」（p. 10） ・「メディアリテラシーを身につけよう」（pp. 84－85）

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	社 会（公民的分野）
3 年			発 行 者 名	
中学社会 公民的分野 116 日文 公民116－92			日本文教出版株式会社	
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。 ① 個人の尊厳と人権尊重の意義を広い視野から認識し民主主義、経済、国際関係など個人と社会との関わりを中心に理解し、調べまとめる技能を身に付けること ② 多面的・多角的に考察し、課題について複数の立場や意見を踏まえて公正に判断し、説明・議論する力を養うこと ③ 現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとする態度を養うこと	(1) ①・ 社会的事象に関連する写真や図、グラフなどの資料が掲載されており、資料を読み取り、整理しながら課題追究的な学習に取り組むことで、調べまとめる技能を身に付けることができるよう配慮されている。 ・ 「情報スキルアップ」では、ネット社会と付き合う方法や新聞の読み方と伝え方などが紹介されており、情報を読み取ったり活用したりする技能を習得することができるよう配慮されている。 ②・ 「公園づくりについて話し合おう」では、他者と協働する場面を設定することで、生徒にとって身近な社会的事象について多面的・多角的に考察し、複数の立場や意見を踏まえて意思決定ができるように工夫されている。 ・ 章の終末に位置づけられている「まとめとふり返り」では、思考ツールを活用して、章の問いについて考える活動が設定されており、学習したことを整理し、考察を深めていくことができるよう工夫されている。 ③・ 「明日に向かって」では、現実社会が抱えている課題や社会におけるきまりやルールなどについて調べたり、考えたりする学習活動が設定されており、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うことができるよう工夫されている。 ・ 現代に受け継がれている日本と世界の多様な文化の学習を通して、文化の意義や影響を理解し、多文化共生社会の重要性を認識し、我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を育てられるように配慮されている。		(1) ①・ 第3編第1章「社会における私たちときまりの意義」（pp. 26-27） ・ 「新聞の読み方と伝え方を学ぼう」（pp. 92－93） ②・ 「公園づくりについて話し合おう」（pp. 34－35） ・ 「章の問いに答えよう」（p. 127） ③・ 「まちづくりに参加しよう」（pp. 122－123） ・ 「日本の伝統文化の特色と文化の創造」（pp. 56－57）
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) ・ 「アクティビティ」の中の「公共の福祉について考えよう」では、見方・考え方を働かせて、学習内容の理解を深めることができるよう課題が設定されており、主体的・対話的で深い学びを実現することができるよう工夫されている。 ・ 本文の既習事項を活用して具体的な社会の課題を例に挙げながら、多面的な視点で考察・構想することができるように工夫されている。		(2)・ 「アクティビティ 公共の福祉について考えよう」（p. 71） ・ 「持続可能な社会と私たち」（pp. 14－15）
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3) ・ 生徒にとって身近な社会的事象について、様々な資料が掲載されており、生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 本文や写真・グラフ・しくみ図・イラスト等の図版類すべてにわたり、内容だけでなく用語に正確かつ最新の資料が選択されている。		(3)・ 「共生社会をめざして」（pp. 54－55） ・ 「情報化で変わる社会と私たち」（pp. 10－11）

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1)・「現代の国際社会と課題」の導入部では、イラストを用いることで生徒にとって現代の国際問題に対して興味・関心を引き出し、「学び合い」を用いて対話的な活動が図れるように配慮されている。 ・1単位時間の学習課題と併せ「節の問い」が提示されており、節の学習を通して解決を目指す問いについて意識させることで、生徒が見通しをもって課題追究的な学習に取り組むことができるよう工夫されている。	(1)・「私たちと国際社会」 「第1章 現代の国際社会と課題」 (pp. 188－189) ・「国際社会と持続可能性」 (pp. 190－191)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2)・「確認」、「表現」では、生徒が学習内容を確認したり、既習事項を活用して自分の考えを説明したりする活動が設定されており、習得した知識の定着を図ったり、より深く理解したりすることができるよう配慮されている。 ・「公民＋α」では、学習内容と現代社会を関連付けたコラムが掲載されており、学習内容を多面的・多角的な視点から捉えることにより、発展的な内容について理解を深めることができるよう工夫されている。	(2)・「確認」、「表現」 (pp. 40－41) ・「人権の保障を実現するための権利」 (pp. 60－61)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1)・各章、各節、1単位時間のそれぞれにおいて、「問いを立て、学習を見通す」、「問いについて追究する」、「まとめ、ふり返る」という課題追究的な学習過程で構成されており、課題解決に向けた見通しをもち、生徒が課題追究的な学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・「章の学習をふり返ろう」では、「語句の意味を確認しよう」で知識を確認し、「見方・考え方から見てみよう」で現実の諸課題に学習内容を活用できるように工夫されている。 ・「章の問いに答えよう」から、観点ごとに活動を整理し、思考ツールの提案やステップに分けた活動を提示することで、活動の流れが見やすくなるように配慮されている。	(1)・「第1編第1章 私たちが生きる現代社会」 (pp. 6－37) ・「章の学習をふり返ろう」 (pp. 36－37) ・「章の問いに答えよう」 (pp. 37)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2)・他教科との関連やSDGsに関連する教材についてはマークが付されており、社会科の時間だけでなく総合的な学習や学級活動にも活用できるように配慮されている。 ・教科書全体が個人の尊重の考え方を基本に構成されており、取り上げられている教材から人権尊重・男女共同参画などの視点から選択されている工夫が見られる。	(2)・「人間らしい生活を営む権利」 (pp. 58－59) ・「社会における私たちときまりの意義」 (pp. 26－27) 「人権思想のあゆみと日本国憲法」 (pp. 48－49) 「消費者の権利と自立を支える政府のはたらき」 (pp. 136～137) 「世界のさまざまな文化や宗教」 (pp. 202－203)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	社 会（公民的分野）
3 年			発 行 者 名	
公民 225-92 新しい公民教科書			株式会社自由社	
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 個人の尊厳と人権尊重の意義を広い視野から認識し民主主義、経済、国際関係など個人と社会との関わりを中心に理解し、調べまとめる技能を身に付けること	① ・各章の終末に「学習のまとめ」が設定されており、示された重要語句を用いて説明をすることで、学習内容について理解を深めることができるよう工夫されている。		① ・「学習のまとめ」 （p. 22）
	② 多面的・多角的に考察し、課題について複数の立場や意見を踏まえて公正に判断し、説明・議論する力を養うこと	② ・課題を探究するために、ディベートの仕方が紹介されており、学んだ知識や考え方を生かし、社会的事象について多面的・多角的に考察することで、自分の考えを整理したり、説明・議論したりする力を養うことができるよう工夫されている。		② ・「ディベートをやってみよう」 （pp. 218-221） ・「ディベートの実践例」 （pp. 222-223）
	③ 現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとする態度を養うこと	③ ・「もっと知りたい」では日本がかかえる領土問題や安全保障の課題などについて考える内容が設定されており、現代社会の課題の解決に向けて、社会に関わろうとする態度を養うことができるよう工夫されている。 ・「アクティブに深めよう」では、現代的な諸課題について、様々な立場からの考えが紹介されており、自分事として課題を捉え、主体的に社会に関わろうとする態度を養うことができるよう配慮されている。		③ ・「海をめぐる国益の衝突」 （pp. 174-175） ・「国際平和をどう作り上げるか」 （pp. 198-199）
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) ・「アクティブに深めよう」では、生徒にとって身近な課題が取り上げられており、対話的な活動を通して、課題を解決することができるよう配慮されている。 ・「やってみよう」では、授業のポイントとなる部分を表にまとめたり、グラフや資料を参考に話し合ったりするなど、対話的な活動が設定されており、生徒が学び合うことで、理解を深めることができるよう工夫されている。		(2) ・「アクティブに深めよう お店を出店しよう」 （pp. 162－163） ・「市場経済の特色」 （pp. 128－129）
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3) ・ 本文を補完する資料が掲載されており、資料の活用を通して、学習内容を理解することができるよう配慮されている。		(3) ・「貿易と為替相場」 （pp. 138－139） ・「情報社会」 （pp. 5）

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 「この教科書で学ぶにあたって」では、公民を学ぶ目的や教科書の使い方等が説明されており、生徒が見通しをもって主体的に公民の学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・ 学習内容に関連した写真資料によって生徒が興味関心を高めて学習できるよう配慮されている。 (2) ・ 「やってみよう」では、調べたり、話し合ったりして解決を図る活動が設定されており、学習したことを基に発展的な内容に対する理解を深めることができるよう配慮されている。 ・ レポートや卒業論文の作成方法が例示されており、学習内容を踏まえて、現代社会で起きている社会的事象について調べ、自分の考えを整理することで表現力を身に付けることができるよう配慮されている。 ・ 「ここがポイント」では、本時の学習内容を分かりやすく簡潔にまとめてあり、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることができるよう配慮されている。	(1) ・ 「この教科書を学ぶにあたって」 (pp. viii－ix) ・ 「家族愛・愛郷心から愛国心へ」 (pp. 31) (2) ・ 「立憲的民主主義」 (pp. 50－51) ・ 「レポートと卒業論文をつくろう」 (pp. 214－217)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 1単位時間の学習内容において、おさえるべき重要語句の確認事項が掲載されており、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることができるよう配慮されている。 ・ 各章や1単位時間において、解決を図る問いや学習課題が提示されており、生徒が主体的に課題追究的な学習に取り組むことができるよう配慮されている。 (2) ・ 「ミニ知識」のコラムが設定されており、地理的分野・歴史的分野で学習した内容や他教科と関連付け、多面的な視点から学習することができるよう工夫されている。 ・ 「もっと知りたい」では、「日本人の精神」や「科学とは何だろう」「芸術とは何だろう」等についての内容が紹介されており、他分野や他教科との関連を図りながら、日本の現状や諸問題について考えることができるよう工夫されている。	(1) ・ 「国家の成立とその役割」 (pp. 44－45) ・ 「第1章個人と社会生活」 (p. 23) (2) ・ 「立憲的民主主義」 (p. 50) 「参政権と請求権」 (p. 80－81) ・ 「日本人の精神」 (pp. 14－15) 「科学とは何だろう」 (pp. 16－17) 「芸術とは何だろう」 (pp. 18－19)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	社 会（公民的分野）
3 年			発 行 者 名	
新しいみんなの公民 227 育鵬社 公民227-92			株式会社 育鵬社	
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 個人の尊厳と人権尊重の意義を広い視野から認識し民主主義、経済、国際関係など個人と社会との関わりを中心に理解し、調べまとめる技能を身に付けること	① ・ 学習する社会的事象に関連する写真や図、グラフなどの資料が掲載されており、資料を読み取り、整理しながら課題解決を図ることで、調べまとめる技能を身に付けることができるよう配慮されている。 ・ 章の終末に位置付けられている「学習のまとめ」では、章を通して学習した内容を振り返る課題が設定されており、重要語句を確認するとともに基礎的・基本的な学習内容の定着を図ることができるよう工夫されている。		① ・ 「憲法改正のしくみ」 （pp. 55－56） ・ 「学習のまとめ」 （p. 36）
	② 多面的・多角的に考察し、課題について複数の立場や意見を踏まえて公正に判断し、説明・議論する力を養うこと	② ・ 章の導入では、身近な諸課題に対して、複数の立場からの意見が提示されており、対話的な活動を通して、多面的・多角的に考察することができるよう配慮されている。 ・ 現代の社会的事象を取り扱うことで、課題の解決に向けて生徒が主体的に話し合ったり、情報を整理したりできるよう工夫されている。		② ・ 「政治の入り口」 （pp. 78－79） ・ 「現代社会のこれから」 （pp. 34－35）
	③ 現代社会に見られる課題の解決を視野に、主体的に社会に関わろうとする態度を養うこと	③ ・ 章の導入では、学習する内容に関連するイラストや写真資料が提示されており、章における学習の見通しをもち、主体的に課題追及に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 「ともに生きるために」では、学習したことを基に、自分たちが生きる社会で差別を受けないためには、できることは何か考える課題が設定されており、主体的に社会に関わろうとする態度を養うことができるよう配慮されている。		③ ・ 「現代社会の入り口」 （pp. 10－11） ・ 「政治のこれから」 （pp. 114－115）
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) ・ 「やってみよう」では、話し合いを通して課題解決を図る活動が設定されており、他者の意見を踏まえて自分の考えを再構成するなど、思考を深めることができるよう工夫されている。 ・ レポートの作成方法について例示されており、公民的分野の学習のまとめとして、主体的に課題解決学習に取り組むことができるよう配慮されている。		(2) ・ 「部活動の平日のグラウンド割りを考えよう」 （p. 32） ・ 「よりよい社会をめざして」 （pp. 207－213）
	(3) 本文と資料の関係は適切か。	(3) ・ 写真や表、グラフ、コラムなどの資料が掲載されており、資料や事例を活用することで、本文の内容を補完することができるよう配慮されている。 ・ 資料を踏まえた問いが提示されており、対話的な学習活動を通して、課題解決の見通しをもつことができるよう配慮されている。		(3) ・ 「少子高齢社会の到来」 （pp. 18－19） ・ 「国の政治のしくみ」 （pp. 90－91）

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取扱 について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・各章の扉ページに、「小学校で学習した内容」とそれに関連した写真が拡大して掲載されており、小学校で学習した内容を振り返ることで、既習事項を踏まえて意欲的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・「学習を深めよう」では、学習内容と関連する現代の諸課題について取り上げられており、興味・関心を高め、主体的に追究することができるよう工夫されている。 (2) ・「確認」では、1 単位時間ごとに学習した内容について振り返る課題が設定されており、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができるよう配慮されている。 ・「探究」では、これまでに学習したことを踏まえて、生徒に深く考えさせたい話題が取り上げられており、課題に対して調べたり、説明したりすることを通して、理解を深めることができるよう配慮されている。	(1) ・ 「私たちの生活と政治」 (p. 37) ・ 「世界の人権問題」 (pp. 72－73) (2) ・ 「確認」 (p. 51) ・ 「探究」 (p. 45)
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 各章、各節、1 単位時間において、それぞれ問いや学習課題が設定されており、生徒が見通しをもって主体的に課題追究的な学習を進めることができるよう配慮されている。 ・ 「課題をつかむ」、「課題について調べる」「課題についてまとめる・表現する」と、課題追究的な学習過程が設定されており、課題解決に向けて、資料を活用しながら主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 (2) ・ 本文見開きページ左側には地理、歴史関連マークが、本文見開き右側には学習内容に関連した情報を示すマークが付されており、他分野との関連や他教科との関連を図ることができるよう配慮されている。 ・ 巻頭には、視点となる S D G s (持続可能な開発目標) について紹介され、巻末には、持続可能な社会の具体例が示されており、地球的課題について考えることができるよう配慮されている。	(1) ・ 「現代社会の入り口」 (pp. 10－11) 「現代社会のこれから」 (pp. 34－35) 「学習のまとめ」 (p. 36) ・ 「世界とかかわる私」 (pp. 12－13) (2) ・ 「ともに生きるために」 (pp. 60－61) ・ 「持続可能な開発目標 (S D G s)」 (巻頭 pp. 1－2) ・ 「持続可能な社会をめざして」 (巻末 pp. 1－2)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	数 学
1 年			2 年	3 年
数学 002-72 新編 新しい数学 1 ～MATH CONNECT 数学のつながり～			数学 002-82 新編 新しい数学 2 ～MATH CONNECT 数学のつながり～	数学 002-92 新編 新しい数学 3 ～MATH CONNECT 数学のつながり～
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に 関 心 を も つ て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を習得すること	① 各単元でキャラクター「ルーローさん」の明確な学習課題の提示から始まり、「Q」「例」、「問」、「基本の問題」「クイックチェック」という段階的な学習が設定され、巻末には「補充の問題」や既習内容が確認できる「学びのベース」や側注の「ちょっと確認」が掲載されており、基礎的・基本的な概念や性質が習得することができるよう工夫されている。		① 1年「学びのベース」(pp.256－265) 2年「連立方程式」(pp.44－48) 3年「2次方程式とその解き方」 (pp.81－84)
	② 問題解決に必要な数学的な思考力・判断力・表現力を育成すること	② 数学を活用して事象を論理的に考察する場面として「考えてみよう」、「説明してみよう」、「調べてみよう」が設定されており、生徒が自ら数学的な表現を用いて事象を表現する力を高めることができるよう工夫されている。		② 1年「関数」(p.123) 2年「1次関数の利用」(pp.83－84) 3年「平方根の考えを使った解き方」 (pp.74－75)
	③ 数学で学んだことを生活や学習に活用すること	③ 数学的事象と日常生活で目にする科学的内容を関連付けた内容が「MATH CONNECT」に示されており、生徒の興味・関心を高めるとともに、時事の内容を題材として提示しており、社会生活と数学の関連を意識することができるよう工夫されている。		③ 1年「数学×スポーツ栄養士」 (pp.112－113) 2年「1次関数」(pp.58－59) 3年「3Dアートクリエイター」 (pp.162－163)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) 節の導入にある「深い学び」では、生徒のイラストを用いた話し合い活動をきっかけとした気づきや疑問から解答に至るまでの過程を問う補助発問が掲載されており、課題の把握から解決まで見通しをもち、生徒が主体的に学習することができるよう工夫されている。		(2) 1年「正負の数の利用」(pp.57－58) 2年「平行線と角」(pp.107－109) 3年「円周角の定理」(pp.168－169)
	(3) 図、表、式、グラフ、挿絵などは、ねらいの達成に適切か。	(3) 関数や図形の単元では、マス目が大きく作られており、教科書に直接記述することで学習内容を理解することができるよう配慮されている。挿絵や写真が用いられており、問題理解を促すための視覚的に工夫されている。具体的な作業を通して考えることができる理解を深められる工夫されている。		(3) 1年「比例のグラフ」(p.132) 2年「平行四辺形の性質」(p.142) 3年「関数 $y=ax^2$ のグラフ」(pp.100－101)

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取扱 について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1)・「学びのベース」が各学年に設けられており、小学校算数や前学年の振り返りを行うことができるよう工夫されている。特に1年では0章が設けられており、小・中学校間の円滑な接続ができるよう配慮されている。 ・各章の導入では、生徒が疑問に感じる場面と数学的事象が関連付けられており、興味・関心を高めることができるよう工夫されている。	(1)・1年「0章 算数から数学へ」(pp. 11－18) 2年「学びのベース」(pp. 202－213) 3年「学びのマップ」(pp. 232－239) ・1年「データの分析と活用」(pp. 225－227) 2年「連立方程式」(pp. 35－37) 3年「多項式の計算」(pp. 11－13)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2)・「クイックチェック」で小単元の中で身に付けるべき問題を取り上げており、つまづきを早期に発見し、対応することができるよう配慮されている。 ・発展的な学習への活用として、節の導入などにある「深い学び」や、章末にある「章の問題B」、「活用の問題」が掲載されており、生徒がそれぞれの理解度に応じて学習に取り組むことができるよう配慮されている。	(2)・1年「クイックチェック」(p. 53など) 2年「クイックチェック」(p. 21など) 3年「クイックチェック」(p. 82など) ・1年「章の問題B」(pp. 189－190) 2年「深い学び」(pp. 49－50) 3年「深い学び」(pp. 63－65)
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1)・教科書全体を通して「MATH CONNECT」というテーマが設定されており、数学とのつながりを意識しながら学習を進めることができるよう工夫されている。 ・巻末「数学の目でふり返ろう」、「学びのマップ」、「学びのベース」、「〇年のふり返り」では、学習のまとめが図や色を使って示されており、生徒が自ら既習内容との系統性を視覚的に捉えることができるよう工夫されている。	(1)・巻頭「MATH CONNECT」 ・「数学の目でふり返ろう」 1年 (pp. 250－255) 2年 (pp. 194－201) 3年 (pp. 226－231)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2)・「社会とつながる」では、数学と関わりがある具体的な職業が紹介されており、職業と数学とのつながりを考えることができるよう関連が図られている。 ・巻末「数学の自由研究」では、数学、他教科、SDGsとのつながりがマークで記されており、それぞれとの関連が分かるよう配慮されている。	(2)・「社会とつながる」 1年 (pp. 186－187) 2年 (pp. 90－91) 3年 (pp. 122－123) ・「数学の自由研究」 1年 (pp. 281－292) 2年 (pp. 229－238) 3年 (pp. 261－270)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	数 学
1 年		2 年	3 年	発 行 者 名
数学 702 数学の世界 1		数学 802 数学の世界 2	数学 902 数学の世界 3	
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を習得すること	① 生徒の思考を踏まえ、これまでに学んだことを生かして、調べたり、考えたりする学習活動が提示されており、図や表、グラフなどを用いて数学的に表現・処理する技能を習得することができるよう配慮されている。		① 1年「図形の面積の変わり方を調べよう」 (p. 159) 2年「1次関数」 (pp. 76－77) 3年「関数 $y=ax^2$ のグラフ」 (pp. 106－110)
	② 問題解決に必要な数学的な思考力・判断力・表現力を育成すること	② 各章末で学びを生かして挑戦する問題として「力をのばそう」が設定されており、生徒が学んだ知識を統合・発展させながら考察することができるよう配慮されている。		② 1年「力をのばそう」 (p. 161) 2年「力をのばそう」 (p. 179) 3年「力をのばそう」 (p. 41)
	③ 数学で学んだことを生活や学習に活用すること	③ 日常生活や職業人の仕事などの数学を身近に発見する場面として、「活用・探究」、「社会にリンク」が設定されており、数学の有用性を感じ、進んで数学を生活や学習に生かそうとする態度を育成することができるよう配慮されている。		③ 1年「発見！仕事の中の数学」 (pp. 200－201) 2年「どちらの電球を買う？」 (p. 96) 3年「マグニチュードと地震のエネルギー」 (pp. 74－75)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) グループ活動や話し合い活動などの協動的な学習を行う場面として、「解決のしかたを探ろう」が設定されており、問題の解決に向けて見通しをもち、よりよい考えや事柄の本質について話し合うような対話的な学びの実現を目指した学習及び指導ができるよう配慮されている。		(2) 1年「自動車の燃費を比べよう」 (pp. 256－258) 2年「富士山八合目の気温を予想してみよう」 (pp. 89－90) 3年「コピ-で拡大するときの倍率を調べよう」 (pp. 69－70)
	(3) 図、表、式、グラフ、挿絵などは、ねらいの達成に適切か。	(3) 各章や各節の導入では、身の回りの問題を数学と関連付ける挿絵や写真が掲載されており、見通しをもって学習を進め、ねらいを達成することができるよう配慮されている。		(3) 1年「数の世界のひろがり」 (pp. 12－13) 2年「三角形や四角形の性質の利用」 (pp. 162－163) 3年「関数」 (pp. 102－103)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1) ・ 数学が生活に生かされているという見方を広げる読み物として「MATHFUL」が設けられており、生徒の興味・関心を高めることができるよう工夫されている。 ・ 身の回りの題材を基に対話を通して問題を見出す場面が設けられており、生徒が新しい学習内容に対する期待感を高めることができるよう配慮されている。	(1) ・ 1年「MATHFUL」(p.91) 2年「MATHFUL」(p.199) 3年「MATHFUL」(p.101) ・ 1年「平面図形」(pp.164－165) 2年「箱ひげ図の利用」(pp.176－177) 3年「2次方程式」(pp.78－79)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2) ・ 「たしかめ」、「Q」の側注には「プラス・ワン」として発展的な内容の問題が示されており、知識及び技能を習得することができるよう配慮されている。 ・ 「学びにプラス」や「活用・探究」では、多様で発展的な題材が取り入れられており、学習した内容を広げたり、活用したりすることができるよう配慮されている。	(2) ・ 1年「プラス・ワン」(p.185など) 2年「プラス・ワン」(pp.52－53など) 3年「プラス・ワン」(p.31など) ・ 1年「6章をふり返ろう」(pp.234－237) 2年「2章をふり返ろう」(pp.61－64) 3年「2章をふり返ろう」(pp.72－75)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1) ・ 学習を始める手がかりとなる問題である「考えよう」の後に、「めあて」が提示されており、見通しをもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 巻末には、前学年までの内容と当該学年の内容がまとめられており、さらに復習の問題を扱うことにより、系統的な学習内容の関連が図られている。	(1) ・ 1年「素因数分解」(p.14) 2年「単項式と多項式」(p.14) 3年「展開の公式」(p.18) ・ 「付録」 1年(付録1－4) 2年(付録1－4) 3年(中学校数学のまとめ1－5)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) ・ 「MATHFUL」では、「美術」、「音楽」、「地理」、「伝統文化」、「理科」、「歴史」、「環境」などとの関連が示されており、身の回りの課題との関連を捉えることができるよう工夫されている。 ・ 「発見！仕事のなかの数学」では、数学を活用した職業に関わる人のインタビューが紹介されており、数学と社会とのつながりを考えることができるよう関連が図られている。	(2) ・ 「MATHFUL」 1年(pp.270－279) 2年(pp.206－213) 3年(pp.242－253) ・ 「社会にリンク」 1年(p.65) 2年(p.39) 3年(p.77)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	数 学
1 年			2 年	3 年
数学 011-72 中学校 数学 1			数学 011-82 中学校 数学 2	数学 011-92 中学校 数学 3
学校図書株式会社				
大観点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1)		(1)
内容について	① 数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を習得すること	① 各章や節で「Q」、「目標」、「例」、「問」の流れが一貫している。鍵マークで要点がまとめられている。各章や節で問題発見・解決の過程を通して学んだ自分の力を確認する「確かめよう」が設定され、さらに数と式の領域においては「計算力を高めよう」が掲載されており、生徒が繰り返し取り組むことで基礎的・基本的な概念や性質を理解し、知識及び技能を習得することができるよう配慮されている。		① 1年「式の計算」 (pp. 88－89) 2年「式の計算」 (pp. 22－23) 3年「因数分解」 (pp. 30－31)
	② 問題解決に必要な数学的な思考力・判断力・表現力を育成すること	② 発展的な課題に挑戦できる「応用」、「活用」、「深めよう」や課題発見から解決までの方法を吟味する「説明する力をつけよう」が設定されており、数学を活用して事象を論理的に考察する力や数学的な表現を用いて事象を的確に表現する力を高めることができるよう工夫されている。		② 1年「1次方程式」 (pp. 124－127) 2年「式の計算」 (pp. 34－38) 3年「円周角の定理」 (pp. 191－193)
	③ 数学で学んだことを生活や学習に活用すること	③ 数学の有用性や、他教科との関連性を題材とした「数学へのいざない」、「Tea Break」が紹介されており、生徒が数学で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度を身に付けることができるよう工夫されている。		③ 1年「 a^1 や a^0 はあるのかな？」 (p. 77) 2年「気温とアイスクリームの売り上げ」 (p. 101) 3年「身近に見られる放物線」 (p. 115)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) どんな見方・考え方を使って、学習したり問題を解決したりしたのかをまとめることができるような場面が設定されており、学んだことから新しい概念を形成したり、よりよい方法を見いだしたりするなど、他者との関わりの場面から深い学びを実現することができるよう対話の表記や「見方・考え方」を参考に、思考を深める手立てが配慮されている。		(2) 1年「米は何粒？」 (pp. 286－287) 2年「面積は求められる？」 (pp. 234－235) 3年「黄金比って何？」 (p. 270)
	(3) 図、表、式、グラフ、挿絵などは、ねらいの達成に適切か。	(3) 身の回りの事象と数学との関連を学習する場面では、挿絵やグラフ、デジタルコンテンツを活用できる二次元コードが掲載されており、数学的な表現を用いて、論理的に考察し表現することができるよう工夫されている。		(3) 1年「座標と比例のグラフ」 (p. 140) 2年「図形と性質の確かめ方」 (pp. 134－135) 3年「身のまわりの関数」 (pp. 130－131)

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取扱 について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 節の導入では、生徒の身近な題材や興味を引く題材が取り上げられており、それについて考えてみたいという意欲を高めることができるよう配慮されている。 ・ 各領域の内容に入る前に「ふりかえり」が設けられており、既習事項を確認することで今後の学習への関心を高めることができるよう工夫されている。 (2) ・ 節末に「確かめよう」が設けられており、補充的な学習ができるよう配慮されている。特に数と式の領域では、「計算力を高めよう」として、類型別に問題が設けられており、要点を絞って復習することができるよう配慮されている。 ・ 章末の「まとめの問題」と「深めよう」では、問題が段階的に分類されており、補充的な学習と発展的な学習をすることができるよう工夫されている。	(1) ・ 1年「データの活用」(p. 261) 2年「連立方程式」(pp. 40－41) 3年「円周角と中心角」(pp. 188－189) ・ 1年「ふりかえり～算数から数学へ～」(p. 242) 2年「ふりかえり」(p. 68) 3年「ふりかえり」(p. 140) (2) ・ 1年「計算力を高めよう」(p. 112) 2年「計算力を高めよう」(p. 53) 3年「計算力を高めよう」(p. 90) ・ 1年「5章のまとめの問題」(pp. 198－202) 2年「7章のまとめの問題」(pp. 214－215) 3年「3章のまとめの問題」(pp. 96－99)
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 各領域の導入で、既習事項の振り返りが扱われており、系統的に学習を進めることができるよう工夫されている。 ・ 巻末「さらなる数学へ」では、「『見方・考え方』をまとめよう」、「今の自分を知ろう」、「表現する力を身につけよう」、「疑問を考えよう」、「数学の歴史の話」などが扱われており、協働学習を通して学んできたことを生かすことができるよう配慮されている。 (2) ・ 全体を通してSDGsとのつながりが分かるようマークが記載されており、これまでに学んだことと社会の課題との関連を見つけることができるよう工夫されている。 ・ 単元の学習内容と関連する職業・仕事を取り上げられており、社会とのつながりに目を向けることができるよう配慮されている。	(1) ・ 「ふりかえり」 1年(p. 8) 2年(p. 8) 3年(p. 8) ・ 「さらなる数学へ」 1年(pp. 275－293) 2年(pp. 217－237) 3年(pp. 259－283) (2) ・ 「今の自分を知ろう」 1年(pp. 278－279) 2年(pp. 220－223) 3年(pp. 262－265) ・ 1年「空間図形」(p. 209) 2年「連立方程式」(p. 67) 3年「平方根」(p. 71)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	数 学
1 年			2 年	3 年
数学 017-72 中学数学 1			数学 017-82 中学数学 2	数学 017-92 中学数学 3
教育出版株式会社				
大観点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を習得すること	① 「学びリンク」で、各章で学習の動機付けとなる問いが提示され、例とたしかめ、問の流れがあり、生徒自身の力で課題解決ができるよう工夫されている。学習してきたことを振り返ることができるよう「学習のまとめ」が設定されており、穴埋め形式でまとめることで、生徒一人一人が自ら基礎的・基本的な概念や性質を習得することができるよう工夫されている。		① 1年「学習のまとめ」(p.168) 2年「学習のまとめ」(p.38) 3年「学習のまとめ」(p.176)
	② 問題解決に必要な数学的な思考力・判断力・表現力を育成すること	② 数学的活動を通して考えを深める場面として、「数学の広場」や「みんなに説明しよう」、設定されていたり、数学史に触れたり、問題づくりの問があったりして、学習内容を表現し合ったり、説明したりすることを通して、他者と関わり、数量や図形などの性質を見だし、統合的・発展的に考察する力を育成することができるよう工夫されている。		② 1年「見取図」(p.234) 2年「期待値」(p.205) 3年「乗法の公式を使った分母の有理化」(p.68)
	③ 数学で学んだことを生活や学習に活用すること	③ 既習事項を活用し、数学的な事象の課題を解決する場面として、「章のとびら」、「学んだことを活用しよう」が設定されており、数学の有用性に気付くことができるよう工夫されている。		③ 1年「進行の計画を立てよう」(p.285) 2年「どちらの自動車を買うと良いのかな？」(p.105) 3年「積を簡単に求める方法はほかにもあるのかな？」(p.13、p.45)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) 話し合い活動を行う場面として「学びのプロセス」が側注に記載されており、個で考え、気付いた内容を、学び合いを通して深めることで、主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう工夫されている。		(2) 1年「方程式の利用」(pp.125－126) 2年「1次関数の利用」(pp.100－101) 3年「関数 $y=ax^2$ の利用」(pp.128－130)
	(3) 図、表、式、グラフ、挿絵などは、ねらいの達成に適切か。	(3) 「数学の広場」、「学んだことを活用しよう」では、視覚的にも問題理解を促すために挿絵や写真が用いられており、数学的な見方や考え方を働かせて学習に取り組むことができるよう工夫されている。		(3) 1年「ランドルト環」(pp.172－173) 2年「スタートの位置はどのように設定すればよいかな？」(p.41) 3年「エネルギーは何倍になるのかな？」(p.77)

大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程 度 ・ 選 択 ・ 取 扱 に つ い て	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1) ・ 各章で、実生活や日常生活、最新テクノロジーなどの数学に関わる話題や、職業人インタビューが掲載されており、数学を学ぶ意義や必要性を実感することができるよう工夫されている。 ・ 章の導入では、作業や観察、実験などの問題場面が設けられており、学習過程で生じる疑問をもって章の学習を始めることができるよう配慮されている。	(1) ・ 1年「データの分析」(p. 249、pp. 278－279) 2年「1次関数」(p. 71、p. 99) 3年「三平方の定理」(p. 207、p. 220) ・ 1年「Let's Try」(pp. 140－141) 2年「Let's Try」(pp. 188－189) 3年「Let's Try」(pp. 50－51)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2) ・ 章末問題では、「たしかめよう」や「力をのばそう」、「学んだことを活用しよう」が掲載されており、基礎的・基本的な内容を確認し、発展的な学習を進めることができるよう工夫されている。 ・ 「たしかめ」や「問」の側注には、補充問題の掲載ページが示されており、類題に繰り返し取り組むことができるよう配慮されている。	(2) ・ 1年「3章 章の問題」(pp. 103－105) 2年「4章 章の問題」(pp. 143－145) 3年「8章 章の問題」(pp. 247－248) ・ 1年「式の値」(p. 84など) 2年「いろいろな連立方程式」(p. 56など) 3年「因数分解による解き方」(p. 85など)
3 組 織 ・ 配 列 等 に つ い て	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1) ・ 「学びのマップ」や「もどって確認」で既習内容との関連が捉えられており、学びを深めることができるよう工夫されている。 ・ 既習内容を活用する学習では、ページ右側の「学びのプロセス」によって、課題解決方法のプロセスが明示されており、主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。	(1) ・ 「学びのマップ」 1年 (pp. 288－296) 2年 (pp. 233－244) 3年 (pp. 264－275) ・ 1年「正の数、負の数の利用」(pp. 61－62) 2年「式の利用」(pp. 30－31) 3年「式の利用」(pp. 38－39)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) ・ 数学とつながりの深い職業に就いている人へのインタビューが紹介されており、キャリア教育との関連が図られている。 ・ 巻末「数学ライブラリー」では、「数学の広場＋」、「学んだことを活用しよう＋」において、他教科や実社会と関連がある題材が取り上げられており、日常生活の課題に気付くことができるよう工夫されている。	(2) ・ 「数学しごと人」 1年 (pp. 70－71) 2年 (pp. 146－147) 3年 (pp. 180－181) ・ 「数学の広場＋」 1年 (pp. 282－283) 2年 (p. 230) 3年 (p. 256)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	数 学
1 年			2 年	3 年
数学 061-72 未来へひろがる数学 1			数学 061-82 未来へひろがる数学 2	数学 061-92 未来へひろがる数学 3
株式会社新興出版社啓林館				
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を習得すること	① 単元を通して育んだ、数学的に表現・処理する力の定着を確認する場面として「学びをたしかめよう」が設定されており、数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質を理解することができるよう工夫されている。		① 1 年「文字の式」 (pp. 84－85) 2 年「1次関数」 (pp. 92－93) 3 年「式の展開と因数分解」 (pp. 36－37)
	② 問題解決に必要な数学的な思考力・判断力・表現力を育成すること	② 思考力、判断力、表現力等を育成する場面として、「学びを身につけよう」では、生徒が学んだ知識を統合し、発展させる力を高めることができるよう工夫されている。		② 1 年「変化と対応」 (pp. 146－147) 2 年「連立方程式」 (pp. 58－59) 3 年「三平方の定理」 (pp. 202－203)
	③ 数学で学んだことを生活や学習に活用すること	③ 日常生活と数学の関連を考える場面として、「数学ライブラリー」等で数学の定理と科学的知識の関連が掲載されており、数学の有用性に気付くことができるよう工夫されている。		③ 1 年「円周率の活躍は続く」 (p. 177) 2 年「雷様はどこ？」 (p. 64) 3 年「タレスと円」 (p. 177)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) 問題を発見・解決して、さらに深く考える力を身に付けるための考え方がステップ 1 からステップ 3 までの手順として示されており、問題の解決に向けて見通しをもったり、解決の過程を振り返って気付いたことや調べてみたいことを話し合ったりすることで、主体的・対話的で深い学びを実現することができるよう工夫されている。		(2) 1 年「方程式の利用」 (pp. 106－107) 2 年「連立方程式の利用」 (pp. 50－51) 3 年「三角形の角の二等分線の性質を考えよう」 (pp. 155－157)
	(3) 図、表、式、グラフ、挿絵などは、ねらいの達成に適切か。	(3) 対話を通して学習を深める場面では、登場人物が机を合わせ、会話に吹き出しがつけられており、話し合い活動の手法を視覚的に理解することで、協働を通して課題解決することができるよう工夫されている。		(3) 1 年「空間図形の利用」 (p. 213) 2 年「図形の調べ方」 (pp. 96－97) 3 年「平方根」 (pp. 40－41)

大観点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 各単元や節の始めには、身の回りの題材などを取り上げた導入課題が配置されており、数学と日常との関わりを実感できるよう工夫されている。 ・ 各学年の学習内容の中に、「ふりかえり」が位置付けられており、既習事項を確認しながら学習に取り組むことができるよう配慮されている。 (2) ・ 「学びをふりかえろう」が巻末に設けられており、小学校算数や全学年で学んだ内容を確認することができるように工夫されている。特に1年では解説付きで説明されており、小・中学校の学習を円滑につなげることができるよう工夫されている。 ・ 章末には、「学びをたしかめよう」や「学びを身につけよう」が掲載されており、補充的な学習と発展的な学習に対応することができるよう工夫されている。	(1) ・ 1年「方程式」(pp. 88－89) 2年「確率の利用」(p. 175) 3年「二次方程式」(pp. 68－69) ・ 1年「ふりかえり算数」(p. 115など) 2年「ふりかえり算数(1年)」(p. 99など) 3年「ふりかえり2年(1年)」(p. 105など) (2) ・ 「学びをふりかえろう」 1年(pp. 248－253) 2年(pp. 194－197) 3年(pp. 222－225) ・ 1年「1章 章末問題」(pp. 54－57) 2年「5章 章末問題」(pp. 160－163) 3年「8章 章末問題」(pp. 218－220)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 節の導入や問いの側注に二次元コードが提示されており、ICTを活用して意欲的に学習を進め、理解を深めることができるよう工夫されている。 ・ 章末問題や巻末「数学広場」では、「学びをふりかえろう」、「力をつけよう(入試問題にチャレンジ)」などの問題が掲載されており、問題に取り組むことで、既習内容の定着を図ることができるよう工夫されている。 (2) ・ 巻末「学びをいかそう」では、日常生活や他教科とのつながりがマークで記されており、それぞれとの関連が分かるよう配慮されている。 ・ 単元の導入で他教科等と関わる課題が示されており、数学で学ぶ内容と他教科等との関連が図られている。	(1) ・ 1年「正の数・負の数」(pp. 12－13) 2年「式の計算」(pp. 12－13) 3年「式の展開と因数分解」(pp. 12－13) ・ 「数学広場」 1年(pp. 247－267) 2年(pp. 193－211) 3年(pp. 221－243) (2) ・ 「学びをいかそう」 1年(pp. 268－293) 2年(pp. 212－229) 3年(pp. 244－273) ・ 1年「文字の式」(pp. 58－59) 2年「連立方程式」(pp. 36－37) 3年「円の性質」(pp. 162－163)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	数 学
1 年			2 年	3 年
数学 104-73 これからの 数学 1			数学 104-83 これからの 数学 2	数学 104-93 これからの 数学 3
			数研出版株式会社	
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を習得すること	① キャラクターによる学習目標の提示が明確である。また、学習内容を理解するための具体例が細かく分類されたり、「まとめ」の項目が四角枠で囲まれたりして提示されており、生徒一人一人が基礎的・基本的な概念や性質を習得することができるよう配慮されている。		① 1 年「空間における 2 直線の位置関係」 (pp. 198－199) 2 年「三角形の合同条件」 (pp. 130－131) 3 年「平方根の考えを使った解き方」 (pp. 90－94)
	② 問題解決に必要な数学的な思考力・判断力・表現力を育成すること	② 筋道を立てて考える場面の中で、登場人物の会話の様子が吹き出しで表現されており、数学的な表現を用いて事象を的確に表現する力を育成することができるよう配慮されている。		② 1 年「1 次方程式の利用」 (pp. 114－116) 2 年「連立方程式の利用」 (pp. 62－63) 3 年「2 次方程式の利用」 (p. 102)
	③ 数学で学んだことを生活や学習に活用すること	③ 数学の有用性に気付かせる場面として「学んだことを活用しよう」が設定されており、日常生活と数学を関連させることで、数学を生活や学習に生かそうとする態度を育むことができるよう配慮されている。		③ 1 年「1 次方程式の利用」 (p. 120) 2 年「データの活用と調査」 (p. 194) 3 年「身のまわりにある平方根」 (p. 79)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) 数学的な見方・考え方を働かせながら対話的な学びを深める場面として、登場人物たちが会話する様子が掲載されており、それを参考にして、生徒がよりよい考えや事柄の本質について話し合い、考えを深めることができるよう配慮されている。		(2) 1 年「立体の体積」 (p. 230) 2 年「1 次関数の式の求め方」 (pp. 88－89) 3 年「多項式の計算」 (pp. 12－13)
	(3) 図、表、式、グラフ、挿絵などは、ねらいの達成に適切か。	(3) 実生活と数学を関連させる題材で、それに伴うイラストやグラフ、表が掲載されており、数学をより身近な題材として考えることができるよう配慮されている。		(3) 1 年「比例」 (p. 127) 2 年「1 次関数の利用」 (pp. 99－101) 3 年「学んだことを活用しよう」 (p. 205)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1)・ 問題解決をする場面では、小学校算数と数学とのつながりを確認できるように掲載されており、関連する小学校算数の内容を振り返りながら学習を進めることができるよう配慮されている。 ・ キャラクターを通して、既習事項を想起させるきっかけを示したり、学習する際のポイントを促したりするなど、様々な形で学びをサポートすることができるよう工夫されている。	(1)・ 1年「加法と減法」(p.31) 2年「三角形の角」(p.118) 3年「相似な図形」(p.144) ・ 1年「符号のついた数」(p.14など) 2年「証明のしくみ」(p.139など) 3年「三平方の定理」(p.214など)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2)・ 各章の学習前に「ふりかえり」が掲載されており、章の学習の理解に必要な内容を幅広く確認することができるよう工夫されている。 ・ 巻末には「数学旅行」、「チャレンジ編」が掲載されており、関連した学習内容の発展的な問題に取り組むことができるよう工夫されている。	(2)・ 1年「ふりかえり 5章 平面図形の学習の前に」(p.157) 2年「ふりかえり 7章 確率の学習の前に」(p.195) 3年「ふりかえり 2章 平方根の学習の前に」(p.45) ・ 1年「チャレンジ編」(pp.269－291) 2年「チャレンジ編」(pp.221－241) 3年「チャレンジ編」(pp.265－301)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1)・ 学習の課題として「TRY」が提示されており、生徒と教師との会話から、本時のめあてにつなげることができるよう配慮されている。 ・ 巻末では、当該学年までの学習内容が領域順や学年順にまとめられており、既習内容の系統性を視覚的に捉えることができるよう工夫されている。	(1)・ 1年「正の符号、負の符号」(p.18) 2年「図形に関するいろいろな性質」(pp.32－33) 3年「 $(x+a)(x+b)$ の展開」(p.18) ・ 1年「中学1年間のまとめ」(pp.292－299) 2年「中学2年までのまとめ」(pp.242－249) 3年「中学3年間のまとめ」(pp.302－309)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2)・ 巻頭ではSDGsマークの説明が記載され、巻末「数学旅行」の中でSDGsと関連がある題材が扱われており、SDGsの目標について考えることができるよう関連が図られている。 ・ 章に関連する日常の話題や、学んだ内容を深める題材が扱われており、学んだ内容が日常生活や社会でどのように活かされているかが分かるよう配慮されている。	(2)・ 巻末「数学旅行」 1年(pp.257－268) 2年(pp.211－220) 3年(pp.253－264) ・ 1年「備えよう」(p.153) 2年「見つけよう」(pp.104－105) 3年「やってみよう」(p.138)

令和 7 (2025) 年度使用中学校用教科用図書調査研究資料

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	数 学
1 年			2 年	3 年
数学 116-72 中学数学 1			数学 116-82 中学数学 2	数学 116-92 中学数学 3
大 観 点			調 査 の 結 果	
小 観 点			小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1)	① 本時の学習内容に見通しをもって取り組むことができるよう「めあて」が示されていることにより、生徒が数量や図形などについての基礎的な概念や性質の理解を深めることができるよう配慮されている。	(1)
	① 数量や図形などについての基礎的・基本的な知識及び技能を習得すること	② 数学的な思考力、判断力、表現力等を育成する場面として「とりくんでみよう」が設定されており、日々の学習を生かしながら、数学を活用して事象を論理的に考察する力を育むことができるよう配慮されている。	② 1 年「方程式」(p.114) 2 年「1 次関数」(p.96) 3 年「関数 $y=ax^2$ 」(pp.121-122)	② 1 年「正の数と負の数」(pp.14-15) 2 年「連立方程式の解き方」(pp.42-43) 3 年「乗法公式の活用」(pp.22-23)
	② 問題解決に必要な数学的な思考力・判断力・表現力を育成すること	③ 数学で学んだことを生活や学習に活用すること	③ 数学で学んだことを生活や学習に活用する場面として「数学マイトライ」、「数学研究室」が設定されており、数学の有用性に気付くことができるよう配慮されている。	③ 1 年「地震のP波とS波」(p.253) 2 年「連続する10個の整数の和」(pp.206-207) 3 年「黄金比」(pp.222-223)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) 主体的・対話的で深い学びを実現する場面として「学び合おう」が設定されており、「対話シート」を活用することで、話し合い活動を通して考えを深めることができるよう配慮されている。	(2) 1 年「何m 走ることができるかを考えよう」(pp.148-149) 2 年「くじのあたりやすさを調べて説明しよう」(pp.178-179) 3 年「船の位置を見つけよう」(pp.174-175)	
	(3) 図、表、式、グラフ、挿絵などは、ねらいの達成に適切か。	(3) 日常生活で使われている図、表、グラフや、日常場面を想起させるような挿絵が掲載されており、生徒が興味・関心を高め、主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。	(3) 1 年「座標」(pp.126-127) 2 年「データの比較」(pp.186-189) 3 年「円」(pp.174)	

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取扱 について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1)・身近なことから数学の問題を見いだしていくという数学化の場面が「数学の問題にしよう」として扱われており、生徒が自ら数学を用いて考えていこうとする興味・関心を高めることができるよう配慮されている。 ・学習した内容と関連した身近な話題として「数学のたんけん」が掲載されており、興味・関心を高めることができるよう配慮されている。	(1)・1年「平均値の求め方をくふうしよう」(pp. 52－53) 2年「総費用で比べよう」(pp. 92－93) 3年「自動車が止まるまでの距離を考えよう」(pp. 112－114) ・1年「円周率の歴史」(p. 184) 2年「勾配」(p. 94) 3年「過去の標本調査での失敗」(p. 206)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2)・各章の前に「次の章を学ぶ前に」が掲載されており、章の学習の理解に必要な内容を確認することができるよう配慮されている。 ・章末では「とりくんでみよう」が掲載されており、その章で学んだ内容の応用的・発展的問題に取り組むことができるよう配慮されている。	(2)・1年「次の章を学ぶ前に」(p. 11) 2年「次の章を学ぶ前に」(p. 167) 3年「次の章を学ぶ前に」(p. 41) ・1年「とりくんでみよう」(pp. 151－152) 2年「とりくんでみよう」(p. 134) 3年「とりくんでみよう」(p. 200)
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1)・巻末に「ふり返しシート」や「対話シート」が付属されており、それを活用することによって、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・1年の巻末には算数の問題、3年の「やってみよう」や「数学のたんけん」では、高等学校の数学につながる問題が取り上げられており、系統的に学習を進めることができるよう工夫されている。	(1)・「ふり返しシート」、「対話シート」 1年 (pp. 297－312) 2年 (pp. 245－260) 3年 (pp. 281－296) ・1年「算数の確かめ」(pp. 264－268) 2年「期待値」(p. 184) 3年「関数」(p. 122)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2)・「数学のたんけん」では、「歴史」、「英語」のマークが示されており、他教科の学習とのつながりが分かるよう関連が図られている。 ・巻末「数学マイトライ」では、実生活に関わる問題が「SDGsと数学」、「数学を仕事に生かす」、「数学研究室」、「プログラムと数学」の中で取り上げられており、学んだことと実社会との関連を図ることができるよう配慮されている。	(2)・1年「正の数と負の数」(p. 56) 2年「1次関数の活用」(p. 87) 3年「根号のついた数の性質」(p. 55) ・巻末「数学マイトライ」 1年 (pp. 247－261) 2年 (pp. 201－215) 3年 (pp. 215－231)

種 目			理 科	
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称			発 行 者 名	
1 年		2 年	3 年	東京書籍株式会社
理科002-72 新編 新しい科学 1		理科002-82 新編 新しい科学 2	理科002-92 新編 新しい科学 3	
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの	特記事項	
1 内 容 に 関 心 を も つ て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。 ① 自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図ること ② 科学的に探究する力を養うこと ③ 自然の事物・現象に進んで関わり主体的に探究しようとする態度を養うこと	(1) ① 発達の段階に踏まえ自然の事物・現象に対する概念の理解が難しい内容については「例題」、「練習」が設定されていたり、重要事項に「ここがポイント」が明記されていたりすることによって、生徒が順序立てて知識を習得することができるよう配慮されている。 ②・単元の導入に、「問題発見 レッツスタート！」が設置付けされており、目的意識をもって学習に取り組むことができるようになっていたり、「仮説 (課題) に対する自分の考えは?」、「構想 調べ方を考えよう」、「ふり返り 探究をふり返ろう」など、探究の段階を踏んで学習を進めることができるようになっていたりすることで、生徒が見通しをもって探究するために必要な力を養うことができるよう配慮されている。 ・単元や小単元の導入において、現象がどうなるか、なぜそうなるかを考えさせたり、実験・観察において、仮説が立てやすいように最低限の説明になっていたりするなど、考える力を養うことに配慮されている。 ③ 全ての観察、実験のページに「目的」、「結果の見方」、「考察のポイント」が明記されていることで、生徒が探究の過程を意識しながら主体的に観察、実験に取り組むことができるよう配慮されている。 ・「コラム」に多様な話題が用いられており、生徒の興味・関心を引くための配慮がある。	(1) ① 1 年「さまざまな植物の分類」(p. 43) 2 年「水蒸気の変化と湿度」(p. 191) 3 年「地軸の傾きと季節の変化」(p. 217) ② 1 年「生物の特徴と分類」(p. 22－25) 2 年「ホットケーキの秘密」(p. 16－21) 3 年「水中ではたらく力」(p. 154－159) ・「じっくり探究」 (1 年p84－89、2 年p. 50－52、3 年p. 16－21) ③ 1 年「物質の状態変化と体積・質量の変化」(p. 119) 2 年「回路に流れる電流」(p. 248－249) 3 年「仕事とエネルギーの関係」(p. 170－171) ・1 年「防災特集」(p. 99) 2 年「歴史にアクセス」(p. 194) 3 年「なるほどね」(p. 95) など	
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・各単元に「流れに沿ってじっくり探究」が設けられており、「理科の見方・考え方」をどのように働かせて考察を行うのか考えることで、生徒の思考力、判断力、表現力等の育成を図ることができるよう工夫されている。 ・活用として「学びを生かして考えよう」が設けられており、既習概念を用いて日常生活と関連した課題について考える取組を行うことで、理科を学習することの有用性を感じることができる機会を増やし、主体的に学習に取り組む態度を涵養することができるよう配慮されている。 ・対話を通じた課題の解決場面を掲載することで、自分の考えをもつとともに、他者の考えを尊重し協働的に学習することができるよう配慮されている。	(2)・1 年「溶解度と再結晶」(p. 108－114) 2 年「消化のしくみ」(p. 128－133) 3 年「塩化銅水溶液の中で起こる変化」(p. 16－21) ・1 年「花のつくり」(p. 33) 2 年「化学変化と熱」(p. 77) 3 年「作用・反作用の法則」(p. 153) ・1 年「身のまわりの物質」(p. 84－85) 2 年「電気エネルギー」(p. 261) 3 年「さまざまな物質とその利用」(p. 278)	

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1) ・単元の導入部では、写真資料や「この単元で学ぶこと」が示されていたり、学習が進むことによって解決することができる問いが設定されていたりすることで、生徒の学習意欲を高めるとともに、見通しをもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・周期表が元素ごとに「何に利用されているか」が書かれており、生徒がイメージしやすいよう工夫されている。	(1) 1年「大地の変化」 (p. 188－192) 2年「化学変化と原子・分子」 (p. 12－14) 3年「運動とエネルギー」 (p. 126－128) ・2年「周期表」 (p. 10－11)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2) 各単元で学んだ用語を「学習の整理」で確認し、「確かめの問題」で学習内容の確認を行うとともに、「活用問題」では、対話文から課題を読み取る問題を取り上げることで、学んだことを活用するという段階を踏み、学習内容の定着を図ることができるよう配慮されている。	(2) 1年「学習の整理」など (p. 64－68) 2年「学習の整理」など (p. 80－84) 3年「学習の整理」など (p. 66－70)
	(3) 学習を安全に行う上での配慮がされているか。	(3) それぞれの観察、実験において、確実かつ安全な操作ができるよう「理科室の決まり」が掲載されていたり、視認性の高いマークで注意喚起を図ったりすることで、生徒の安全に対する意識を高め、実験等の活動において怪我や事故が起こらないよう配慮されている。	(3) 1年「理科室の決まり」 (p. 8－9) 2年「理科室の決まり」 (p. 292) 3年「理科室の決まり」 (p. 310)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1) ・単元の導入部分にある「これまでに学んだこと」において、小学校での学習内容との関連について明記することで、生徒が既習事項と学習内容のつながりを意識できるよう工夫されている。 ・学習分野の構成が学ぶ順番になっているため、生徒が使いやすくなっている。 ・脚注の「問題発見」や「分析解釈」などにおいて、探究の過程がフローチャートとして示されており、現在の学習内容が探究活動のどの部分に当たるのかが理解できるよう配慮されている。	(1) 1年「これまでに学んだこと」 (p. 72など) 2年「これまでに学んだこと」 (p. 90など) 3年「これまでに学んだこと」 (p. 74など) ・1年「レンズのはたらき」 (p. 152－157) 2年「ホットケーキの秘密」 (p. 16－20) 3年「水中ではたらく力」 (p. 154－158)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) ・「社会につながる科学」や「お仕事図鑑」といったコラムが掲載され、様々な職業において理科の学習内容が生かされていることを知り、科学の有用性を実感することができるよう工夫されている。 ・他教科等での学習内容と関連のある部分には、「数学で学ぶこと」などが明記されていることで、他教科で学習した知識と関連させて理解を深めることができるよう配慮されている。 ・QRコードで他教科の教科書の関連しているところを開くことができる。	(2) ・1年「科学を通してもっと世界を知りたい」 (p. 187) 2年「気象観測データをスポーツの力に！」 (p. 221) 3年「海の哺乳類は、なぜでいっぱい」 (p. 125) ・1年「技術・家庭で学ぶこと」 (p. 75) 2年「社会科（道徳）で学ぶこと」 (p. 218) 3年「数学で学んだこと」 (p. 147) ・1年「野菜・いもの種類→中学家庭」 (p. 62) 2年「コンデンサー→中学技術」 (p. 235) 3年「生殖機能の発達→中学保健」 (p. 91)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	理 科
1 年		2 年	3 年	発行 者 名
理科702 理科の世界 1		理科802 理科の世界 2	理科902 理科の世界 3	
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。 ① 自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図ること ② 科学的に探究する力を養うこと ③ 自然の事物・現象に進んで関わり主体的に探究しようとする態度を養うこと	(1) ① 学習のまとめの場面において「くらしの中の理科」では、学習内容が日常生活や社会で活用されている例を示すことで、学んだ概念や知識の理解を深めることができるよう配慮されている。 ② 観察、実験の場面では「目的」、「着目点」、「結果の整理」などが設けられ、科学的に探究する過程を意識しながら学習するとともに、考察を行う場面において考えるポイントが示されていることで、思考力等を育成することができるよう工夫されている。 ③ 巻末の「自由研究にチャレンジしよう！」では、各分野で探究活動に適したテーマ例を紹介することで、生徒が学習内容をもとに発展的に考えたり、自ら進んで探究する題材を見つけたり、その方法を調べたりすることができるよう配慮されている。		(1) ① 1年「とり扱いに注意が必要な身のまわりの気体」 (p.101) 2年「血液が固まるしくみ」 (p.129) ② 1年「光の反射」 (p.145) 2年「化学変化と物質の質量」 (p.62－63) 3年「天体の動き」 (p.231) ③ 1年「自由研究にチャレンジしよう！」 (p.276－277) 2年「自由研究にチャレンジしよう！」 (p.296－297) 3年「自由研究にチャレンジしよう！」 (p.334－335)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 各単元末に「探究活動」のページが設けてられており、生徒が単元の学習をまとめることに加え、新たな疑問をもつことで、主体的に探究できるよう工夫されている。 ・ 探究の過程に沿った学習を意識することができるよう、「問題を見つけよう」などのマークで例示されており、「話し合おう」では生徒の具体的な会話場面を掲載することで、対話しながら協働的に学びを深めていくイメージをもつことができるよう配慮されている。 ・ 各単元の導入部に、「これまでに学習したこと」と「これから学習すること」が示されており、単元全体の見通しをもつことができたり、観察、実験において「結果から考えよう」などじっくりと考える場面が設定されていたりすることで、主体的な学習を通して生徒の理解が深まるよう配慮されている。		(2)・ 1年「メダルの謎」 (p.128－129) 3年「エネルギー変換効率を調べよう」 (p.76－77) ・ 1年「身近な物理現象」 (p.144) 2年「電流とその利用」 (p.202) 3年「生命のつながり」 (p.95) ・ 1年「生物の世界」 (pp.10－11、p.21) 2年「化学変化と原子・分子」 (pp.8－9) 3年「地球と宇宙」 (pp.226－227、p.231)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。 (3) 学習を安全に行う上での配慮がされているか。	(1) 単元導入部では、単元の学習内容や学ぶ概念に関連する写真資料等が示されており、生徒の興味・関心を高めることができるよう配慮されている。 (2) つまづきやすい問題や定着を図りたい箇所、発展的な内容を「演習」、「章末問題」などとして分けて掲載しており、生徒の学習状況に合わせて、問題演習を行うことができるよう配慮されている。 (3) 観察、実験や「やってみよう」のページでは、「注意」マークなどで留意事項を示したり、環境への負荷に関する配慮を示したりするなど、安全面や環境問題に対する生徒の意識を高めることができるよう工夫されている。	(1) 1年「身近な物理現象」(p.136－139) 2年「生物のつくりとはたらき」(p.80－83) 3年「地球と宇宙」(p.224－227) (2) 「演習」(1年p.91、2年p.36、3年p.181) 「章末問題」(1年p.91、2年p.36、3年p.181) (3) 「注意」マーク(1年p.29など、2年p.14など、3年p.187など)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・単元の最初に既習内容がまとまっており、今までの学習を振り返りやすくなっている。 ・同一学年内で学習内容に関連が見られる部分には、それぞれのページに「リンクマーク」と該当ページが示されており、生徒が既習内容を振り返ったり、今後の学習への見通しをもったりすることができるよう配慮されている。 ・発展的な学習内容が本文の内容と明確に区別できるデザインで掲載されており、生徒が基礎的な学習内容と関連付けて学ぶことができるよう配慮されている。 (2) ・側注に設定された「ことば」や「そのころの日本」では、用語の説明に加え、英語での表現やその概念が発見された時代背景などが紹介されており、生徒が獲得する知識や概念について、より汎用性をもたせることができるよう配慮されている。 ・「つながる」が側注に設けられており、関連する他教科の内容がトピックとして取り上げられている。	(1) ・「これまでに学習したこと」(1年p.10など、2年p.8など、3年p.8など) ・1年「身のまわりの気体」(p.94) 2年「消化と吸収」(p.122) 3年「遺伝の規則性」(p.106) ・「発展」(1年p.49など、2年p.40など、3年p.265など) (2) ・1年「種子をつくる植物」(p.37) 2年「回路の電圧」(p.172) 3年「進化の証拠」(p.121) ・1年「金属の性質」(p.91) 2年「消化と吸収」(p.115) 3年「力と運動」(p.43)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	理 科
1 年		2 年	3 年	発 行 者 名
理科011-72 中学校 科学 1		理科011-82 中学校 科学 2	理科011-92 中学校 科学 3	学校図書株式会社
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に 関 し て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図ること	① 単元末の「学習のまとめ」は、「用語を覚える」と「基本問題に慣れる」の二つの部分から構成されており、生徒が段階を踏んで、学習を進めることができるよう配慮されている。		① 1 年「動植物の分類」(pp. 43－44) 2 年「化学変化と原子・分子」(pp. 63－64) 3 年「地球と宇宙」(pp. 211－212)
	② 科学的に探究する力を養うこと	② 各単元に「探究」が設定されており、「気づき」からはじまり、「仮説」設定、その仮説を検証するための「計画」や、実験結果を分析・解釈する「結果から考察する」などの場面を設けるとともに、コラムで思考や表現のポイントを示すことにより、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。		② 1 年「物質の分類」(pp. 51－54) 2 年「消化のしくみ」(pp. 101－105) 3 年「仕事」(pp. 43－46)
	③ 自然の事物・現象に進んで関わり主体的に探究しようとする態度を養うこと	③ 単元はじめの「学びのあしあと」では、生徒が学習前と学習後で自分の探究の過程をメタ認知することが促されており、単元の学習を通して自分の成長を実感することができるよう配慮されている。		③ 1 年「身のまわりの現象」(p. 101) 2 年「動植物の生きるしくみ」(p. 65) 3 年「化学変化とイオン」(p. 115)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 実験に関するページには「理路整然」が設けられており、実験計画を立てたり、結果から考察をしたりする際のポイントが示されていることで、生徒が具体的に科学的な探究の過程を意識した学びを実現することができるよう配慮されている。		(2)・ 1 年「蒸留」(p. 94) 2 年「電流・電圧・抵抗」(p. 137)
		・ 各単元のはじめに「Can-Do List」が設定されており、生徒がこの単元を通して「できるようになりたい目標」を認識することができ、見通しや目的意識をもって学習に向かうことができるよう工夫されている。		・ 1 年「Can-Do List」(p. 45など) 2 年「Can-Do List」(p. 129など) 3 年「Can-Do List」(p. 65など)
		・ 「探究」の過程では、キャラクターによる会話例を示すことで、生徒により科学的根拠をもった対話を促す構成になっていたり、話合いのポイントとなる問いが用意されていたりするなど、対話的な学習によって生徒の思考が深まるように工夫されている。		・ 1 年「ふえ方による分類」(p. 23－26) 2 年「直列回路・並列回路」(p. 141－144) 3 年「電解質」(p. 121－124)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。 (3) 学習を安全に行う上での配慮がされているか。	(1) 巻頭の部分にある「どうする、探究の進め方」には、探究の学習過程における各学年のポイントが、単元導入部には、単元の課題、既習事項、できるようになりたい目標が整理して掲載されており、生徒の学習内容への興味・関心を高め、目的意識をもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。 (2) どの学年も本編の後半に「補充資料」という形で、基本操作、資料、計算問題、読解力強化問題、思考力問題がまとめられており、生徒が学習状況に合わせて問題演習を行うことができるよう工夫されている。 (3) 観察、実験の操作を安全に進めることができるよう、実験のページでは注意点が赤字でまとめられていたり、巻末にも観察、実験器具の基本的な取り扱いについて掲載されていたりするなど、技能を正しく身に付けることができるよう配慮されている。	(1) 1年「気づき」(p.4-5) 「身のまわりの現象」(p.101) 2年「検証計画」(p.4-5) 「動植物の生きるしくみ」(p.65) 3年「ふり返り」(p.4-5) 「地球と宇宙」(p.161) (2) 1年「補充資料」(p.199-252) 2年「補充資料」(p.239-291) 3年「補充資料」(p.237-291) (3) 1年「補充資料 基本操作」(p.204-215) 2年「補充資料 基本操作」(p.242-249) 3年「補充資料 基本操作」(p.240-241)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・教科書下部に「この時間の見方」、「考え方」が掲載されており、生徒が探究の過程において働かせる理科の見方・考え方の一例を知ることができるよう配慮されている。 ・巻頭の「なぜ理科を学ぶの？」では、理科の見方・考え方が生活の中でどのように役立つかという学習の意義がイラストを使って解説されていたり、観察、実験における探究の進め方を具体的に紹介するページを設けたりすることで、生徒が見通しや目的意識をもって学ぶことができるよう配慮されている。 (2) ・全学年で持続可能な開発目標（SDGs）や脱炭素社会との関連が取り上げられており、各章のとびらにSDGsとの関連の一例がマークで示されていることで、環境保全の態度を育めるよう配慮されている。 ・「つながり・数学」など、他教科との学習内容のつながりに関する内容が明記されており、理科の学習内容の汎用性や有用性を感じることができるよう配慮されている。	(1) ・1年「物質の分類」(p.51など) 2年「植物と養分」(p.91など) 3年「物体にはたらく力と運動」(pp.29など) ・各学年「なぜ理科を学ぶの？」(p.2-3) 各学年「理路整然」(p.4-5) (2) ・1年「二酸化炭素はワルモノか」(p.96) 2年「日本の電源」(p.188) 3年「熱の効率的な利用」(p.62) 各学年「各章のとびら」(1年p.9、2年p.37、3年p.25など) ・1年「力の表し方」(p.137) 2年「電流・電圧・抵抗」(p.139) 3年「力の合成・分解」(p.19)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	理 科
1 年			2 年	3 年
理科017-72 自然の探究 中学理科 1			理科017-82 自然の探究 中学理科 2	理科017-92 自然の探究 中学理科 3
大観 点			調 査 の 結 果	
小 観 点			特記事項	
1 内 容 に 関 心 を も つ て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)	(1)	
	① 自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図ること ② 科学的に探究する力を養うこと ③ 自然の事物・現象に進んで関わり主体的に探究しようとする態度を養うこと	① 単元を通して習得すべき基礎的な内容が「結論」として簡潔な文章で表現されてることで、生徒が確実に概念の理解を深めることができるよう配慮されている。 ② 各単元に設定されている「疑問から探究してみよう」では、生徒が自然の事物・現象から自ら問題を見だし、段階を踏んで探究をするための過程が示され、科学的に探究する力を育成することができるよう配慮されている。 ③ 観察、実験によって得られた結果を基に考察ができるようにしたり、予想と結果の一致・不一致を考える生徒の姿を掲載したりするなどして、試行錯誤をしながら課題解決ができるよう配慮されている。また、観察、実験の結果が自分の予想と一致しなかった場合についても取り上げられており、生徒が自分の考えや調べ方を確認したり、見直したりすることの大切さを実感することができるよう工夫されている。	① 1 年「いろいろな生物とその共通点」(p. 26) 2 年「気象とその変化」(p. 164) 3 年「自然環境や科学技術と私たちの未来」(p. 262) ② 1 年「地層を作る岩石は語る」(p. 149－155) 2 年「反応する物質の質量の割合」(p. 64－69) 3 年「遺伝子の伝わり方(子→孫)」(p. 94－96) ③ 1 年「混合物の分け方」(p. 130) 2 年「化学変化における物質の質量の比」(p. 69) 3 年「道具を使った仕事」(p. 224)	
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 仮説の設定、実験の計画の立案、結果の処理、考察などの各場面に「考えよう」が設定されており、生徒一人一人が科学的に物事を考えていく過程を通して、思考力等を育成することができるよう配慮されている。 ・ 「疑問を見つける」では、生活体験や自然の事物・現象から疑問を見いだす場面が設定されていたり、生徒が自分なりの考えをもつことの重要性に気付くことができる場面を設定したりするなどして、生徒の主体性が高まるよう配慮されている。 ・ 課題に対する仮説や仮説を確かめるための観察、実験の計画などについて自分の考えを伝え合う場面や、その結果を分析・解釈する場面、科学的な概念を用いて考えたり説明したりする場面を重視し、言語活動を充実することができるよう配慮されている。	(2)・ 2 年「栄養分を取り入れる仕組み～消化系」(p. 117) 3 年「生物どうしのつながり」(p. 254) ・ 1 年「地層をつくる岩石は語る」(p. 149) 2 年「電気の世界」(pp. 226－227) 3 年「化学変化とイオン」(pp. 44－45) ・ 1 年「状態変化による物質の体積や質量」(p. 118－119) 2 年「蒸散と吸水の関係」(p. 106－109) 3 年「金星の形や大きさの変化」(p. 154－156)	

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。 (3) 学習を安全に行う上での配慮がされているか。	(1) 各単元の導入部において、これから学ぶ各章の内容に関連する資料写真が掲載されていたり、「ハローサイエンス」において、生徒が学習内容と歴史や生活等との関連を認識したりすることで、理科への興味・関心を高めることができるよう配慮されている。 (2) 基礎的な知識等の確実な習得ができるように、単元末において「要点と重要用語の整理」、「基本問題」が掲載されていたり、発展的な内容として「活用問題」が位置付けられていたりすることで、生徒が習得した知識を基に自分の学習状況にあわせて理解を深めることができるよう工夫されている。 (3) 観察、実験のページでは、視認性の高いマークとともに注意点が赤字でまとめられていたり、「基礎技能」では、理科室のきまり、応急処置の方法などについて掲載されていたりと、安全に実験操作を行い正しく実験技能等を身に付けることができるよう配慮されている。	(1) 1年「物質の状態変化」(p.114) 「ハローサイエンス 打ち水」(p.119) 2年「動物の体のつくりとはたらき」(p.114) 「ハローサイエンス 肝臓のはたらき」(p.132) 3年「天体の1日の動き」(p.120) 「ハローサイエンス 天動説から地動説へ」(p.159) (2) 1年「要点と重要用語の整理」など(p.64-68) 2年「要点と重要用語の整理」など(p.72-76) 3年「要点と重要用語の整理」など(p.60-64) (3) 1年「基礎技能 気体の集め方」(p.92) 2年「基礎技能 理科室のきまりと応急措置」(p.2-3) 3年「基礎技能 記録タイマーの使い方」(p.201)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 単元巻頭の「学んでいくこと」では、各章での学習内容があらかじめ示されていることで、生徒が単元全体の流れを理解し、見通しをもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。 ・ 学習内容に対応する図や資料が関連する学習内容の文章の近くに配置されており、それらを探す手間を省くことができ、効率よく学習することができるよう配慮されている。 (2) ・ 他教科の学習内容について「ブリッジ〇〇」などで紹介され、生徒が教科間の学習内容の関連を意識し、より構造的な理解を促進することができるよう配慮されている。 ・ 巻末資料「理科で使う算数・数学」では、つまずきやすい計算の説明が示されており、生徒が数学科における考え方を活用し、理科の演習問題に対しても対応することができるよう配慮されている。	(1) ・ 1年「大地の成り立ちと変化」(p.138-139) 2年「気象とその変化」(pp.148-149) 3年「運動とエネルギー」(pp.180-181) ・ 1年「状態変化に伴う物質の体積や質量」(p.120) 2年「生物の体をつくるもの」(p.87) 3年「酸性・アルカリ性を示すものの正体」(p.31-32) (2) ・ 1年「テープ図を使って考える例」(p.106) 2年「宮沢賢治と元素の色」(p.77) 3年「力と運動」(p.199) ・ 1年「理科で使う算数・数学」(p.274-275) 2年「理科で使う算数・数学」(p.298-299) 3年「理科で使う算数・数学」(p.328-329)

79

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	理 科
1 年			2 年	3 年
理科061-72 未来へひろがるサイエンス 1			理科061-82 未来へひろがるサイエンス 2	理科061-92 未来へひろがるサイエンス 3
株式会社新興出版社啓林館				
大観点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。 ① 自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図ること	(1) ①・概念的な理解が難しい箇所に「例題」、「なるほど」のコーナーが設定されており、知識を習得することができるよう配慮されている。さらに、章末の「Review ふり返ろう」で基本的な用語や概念の理解を深めたり、「力試し」において、それらを活用する力を身に付けたりすることができるよう配慮されている。 ・具体例や写真、QRコードでの動画データや外部サイトへのリンク等が充実しており、概念形成や原理・法則の深い理解につなげることができるよう工夫している。		(1) ① 1 年「密度の計算」 (p.146) 2 年「圧力の計算」 (p.73) 3 年「仕事率の求め方」 (p.209) ・各学年「QRコンテンツ一覧」 (p.⑩)
	② 科学的に探究する力を養うこと ③ 自然の事物・現象に進んで関わり主体的に探究しようとする態度を養うこと	②・単元を通して「課題の把握」、「課題の追究」、「課題の解決」という探究的な学習過程が重視されており、観察、実験の計画を立てたり、結果を整理して分析・解釈したりすることで、思考力、判断力、表現力等の育成につなげることができるよう工夫されている。 ③・単元や章の導入に生徒の興味・関心を高めるような写真や資料が提示されることで、学習を進めていくと導入で示された事象の仕組みの理解につながる構成となっており、生徒が自ら学習に取り組んでいこうとする態度を養うことができるよう配慮されている。 ・「Action 活用してみよう」が効果的に配置されており、理科の知識や概念が日常生活におけるどの場面にどう適用されるか、考えさせる箇所が多くある。		② 1 年「身の回りのものから発生した気体の区別」 (p.158－160) 2 年「大気の動きによる天気の変化」 (p.97－107) 3 年「酸とアルカリを混ぜたときの変化」 (p.152－161) ③ 1 年「生きている地球」 (p.62－63) 2 年「物質の成り立ち」 (p.138－139) 3 年「酸・アルカリと塩」 (p.140) ・「Action 活用してみよう」 (1 年p.166など、2 年p.158など、3 年p.158など)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・単元末の「みんなで探Qクラブ」では、習得した知識や技能を活用して新たな疑問を探究する課題が提示されていたりと、知識の理解の質を高め、学びを深めることができるよう工夫されている。 ・各単元に「探Q実験」が設定され、「探Qシート」を活用することで、より主体的に探究することができ、さらに「探究のふり返り」を通して仮説や計画の妥当性を吟味したり、新たな課題を見いだしたりして、理解を深めることができるよう工夫されている。 ・「考えてみよう」や「思考ツールの活用」、「理科における話し合い」では、協働して学習を行う場面が位置付けられており、自分の考えを提案したり、他者の意見と比較して自分の考えの妥当性を検討したりする活動を行うことができるよう配慮されている。 ・デジタルデータが豊富で、全体や生徒各自で視聴させることで興味関心を高めることができる。 ・発表用スライドのひな形データがあり、生徒が学んだことを主体的にまとめ、他者に発表して共有するためのツールが準備されている。		(2)・1 年「液化化がおこる条件」 (p.123) 2 年「地球の磁界を使った発電」 (p.279) 3 年「骨から見る生物の特徴」 (p.48) ・1 年「いろいろな物質とその性質」 (p.139) 2 年「化学変化と物質の質量」 (p.191) 3 年「物体の運動」 (p.197) ・2 年「思考ツールの活用と理科における話し合い」 (p.286) ・各学年「QRコンテンツ一覧」 (p.⑩) ・「サイエンス資料」 (1年p.262、2年p.287)

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取 扱につ いて	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。 (3) 学習を安全に行う上での配慮がされているか。	(1) 単元の扉では、「学ぶ前にトライ!」、「学んだ後にリトライ!」が設定されており、単元を通して自分の考えがどう変化したか、どのような気づきがあったかなどを振り返ることができ、学びや理解を深めることができるよう配慮されている。(単元ごとに1枚のワークシートデータをQRコードで読み込むことができる。) (2) 「学習のまとめ」、「力だめし」、「学年末総合問題」では、図や写真を効果的に活用したり、教科等横断的な問題を取り上げたりすることで、用語の確認や学習内容の振り返り、さらに既習概念を活用する力の向上を図ることができるよう配慮されている。 (3) ・実験の注意点を文字とマークで示すとともに、具体的な注意点を赤字で掲載することや、「ポイント」のコーナーを設け実験のコツを示すことで、生徒が円滑に実験作業を行うことができるよう配慮されている。 ・動画が充実しており、ICTを活用しながら個別最適に安全配慮について学ばせることができる。	(1) 1年「いろいろな生物とその共通点」(p.18-19) 「身のまわりの物質」(p.134-135) 2年「地球の大気と天気の変化」(p.68-69) 「電流とその利用」(p.208-209) 3年「宇宙を観る」(p.46-47) 「運動とエネルギー」(p.170-171) (2) 1年「学年末総合問題」(p.256-257) 2年「学年末総合問題」(p.282-283) 3年「学年末総合問題」(p.308-309) (3) ・1年「身のまわりのものから発生する気体」 (p.159) 2年「鉄と硫黄の混合物を加熱したときの変化」 (p.174-175) 3年「金属のイオンへのなりやすさ」 (p.125-127) ・1年「顕微鏡」(p.11)、 「ガスバーナー」(p.128)
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・指導計画を柔軟に作成できるよう、生命、地球、物質、エネルギーの領域順に単元を配列したり、複数の単元で扱う用語を、相互に参照として表記したりすることで、指導順序の入れ替えに対応することができるよう工夫されている。 ・高等学校での学習内容を「発展」として扱い、生徒が今後学ぶことと現在の学習内容のつながりを意識することができるよう配慮されている。 (2) ・他教科等との関連が節末の科学コラム「○○ラボ」で紹介されており、日常生活や学習内容からの疑問を示した「探Qのたね」を配置することで、理科の有用性を実感することができるよう工夫されている。 ・他教科と関連している学習内容について、「○○と関連」で取り上げることで、教科等横断的な学びのつながりを実感することができるよう配慮されている。	(1) ・1年「地震の発生とゆれの伝わり方」(p.76) 「音の伝わり方」(p.224) 2年「栄養分をとり入れる」(p.38) 「物質を加熱したときの変化」(p.148) 3年「電池のしくみ」(p.134) 「いろいろなエネルギー」(p.219) ・1年「物質のすがたの変化」(p.175) 2年「原子が結びついてできる粒子」(p.157) 3年「太陽系」(p.58) (2) ・1年「探Qのたね」(p.170) 2年「防災減災ラボ」(p.250) 3年「お仕事ラボ」(p.91) ・1年「技術科と関連」(p.87) 2年「家庭科と関連」(p.239) 3年「算数・数学と関連」(p.317)

令和 7 (2025) 年度使用中学校用教科用図書調査研究資料

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	音 楽 (一 般)
1 年			2 年・3 年	発 行 者 名
中学音楽 1 音楽のおくりもの			中学音楽 2・3 上 音楽のおくりもの 中学音楽 2・3 下 音楽のおくりもの	教育出版株式会社
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解すること ② 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにすること ③ 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにすること ④ 音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うこと	① 「日本の歌みんなの歌」において、音楽を形づくっている要素を手がかりに音楽の背景や情景を自己のイメージと結びつけて捉え表現に生かすことができるよう工夫されている。 ② 「Sing! Sing!」では、「歌うための準備」や「言葉の発音について」として、姿勢や発音の仕方などが、イラストとともに解説されており、主体的に表現活動に取り組むことができるよう配慮されている。 ③ ・鑑賞教材では、イラストの吹き出しの内容において鑑賞のポイントが示されており、より音楽の構造や背景と関わらせて聴くことができるよう配慮されている。 ④ ・歌唱教材において、曲のイメージを広げやすい写真やイラストが掲載されており、イメージや情景を基に豊かな音楽表現につながるよう配慮されている。 ・音楽に関連する著名人や作曲家について紹介されており、生徒が音楽に親しみ生涯に渡って音や音楽への興味・関心をもち続けられるよう取り上げられている。		① 「夏の思い出」 1 (pp.18—21) 「浜辺の歌」 2・3 上 (pp.16—19) 「花」 2・3 下 (pp.10—15) ② 「Sing! Sing!」 1 (pp12—13) 2・3 上 (p15) ③ 箏曲「六段の調」 1 (pp.52—54) 「小フーガ ト短調」 2・3 上 (pp.36—39) オペラ「アイダ」 2・3 下 (pp.38—41) ④ 各学年 (pp. 2—4)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) 「Active!」では、それぞれの曲の特徴を、音楽を形づくっている要素ごとに調べ、調べた内容を基に他者と交流して言語活動が図れるよう工夫されている。		(2) 「Active!」 1 (p.16) 2・3 上 (p.14) 2・3 下 (p.19)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) 歌唱教材において、発達の段階に応じた合唱形態の曲が掲載されている。1年では、斉唱やユニゾンが多い混声合唱、2・3上では混声3部合唱、2・3下では、混声4部合唱が取り上げられている。 (2) 鑑賞曲において、教材曲に関連する曲が紹介されており、生徒の理解をより深め、発展的な学習につながるよう工夫されている。	(1) 「夢の翼」1 (p.17) 「You Can Fly!」2・3上 (pp.12—13) 「世界がひとつの家族のように」2・3下 (pp.78—79) (2) 「春 第1楽章」1 (pp.44—47) 「オーケストラの楽器」2・3上 (p.91) オペラ「アイーダ」2・3下 (pp.38—41)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) 音のスケッチでは、1年で、言葉の特徴、2・3上でリズムパターン、2・3下で言葉の特徴とリズムと段階的に創作活動ができるよう工夫されている。 (2) 歌唱教材では、全ての学年において外国語の教材が掲載されており、諸外国の音楽や曲の背景を理解することができるよう配慮されている。1年英語、2・3上英語、2・3下英語とイタリア語の教材が掲載されている。	(1) 「音のスケッチ」1 (pp.38—39) 2・3上 (pp.32—33) 2・3下 (pp.32—33) (2) 「DO-RE-MI」1 (p.14) 「アメージング・グレイス」2・3上 (p.82) 「帰れソレントへ」2・3下 (pp.20—21) 「Top of the world」2・3下 (pp.22—23)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	音 楽（一般）
1 年			2 年・3 年	
中学生の音楽 1			中学生の音楽 2・3 上 中学生の音楽 2・3 下	
			発 行 者 名	
			教育芸術社	
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解すること ② 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにすること ③ 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにすること ④ 音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うこと	① 「心の歌歌い継ごう日本の歌」において、曲の背景が理解しやすいよう作詞者の言葉が掲載されており、音楽の構造や背景を理解できるよう工夫されている。 ② 発声、発音、体の構造、息の流れなどについてイラストを用いて説明されており、歌唱に必要な技能が身に付くよう配慮されている。 ③ 鑑賞教材において、教材曲の特徴を理解するための、視点、ポイントがイラストの吹き出しで掲載されており、音楽のもつ美しさやよさに気づく手がかりとなっている。 ④ 身の周りの様々な音楽についての資料が掲載されており、生涯にわたって音楽を愛好し、音楽に親しんでいこうという態度を養うことができるよう工夫されている。		① 「赤とんぼ」 1 (p.29) 「荒城の月」 2・3 上 (p.25) 「花の街」 2・3 下 (p.17) ② 「My Voice!」 1 (p.14) 2・3 上 (p.17) 2・3 下 (p.19) ③ 「春 第1楽章」 1 (pp.42—45) 「交響曲第5番 ハ短調」 2・3 上 (pp.38—43) 「ボレロ」 2・3 下 (pp.35—37) ④ 「さまざまな映画とその音楽」 1 (p.37) 「ミュージカル」 2・3 上 (pp.52—53) 「社会を映し出す音楽」 2・3 下 (pp.40—41)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) 手順に沿って学習を進めることで、生徒が作者の思いや意図を理解することができるようワークシートが工夫されており、それを基に友達と交流し、理解が深まるよう工夫されている。		(2) 「学びのコンパス」 1 (pp.32—33) 2・3 上 (pp.42—43) 「伝統音楽の魅力を見つけよう」 2・3 下 (pp.53)

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取扱 について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1) 「Let' s Create!」では、発達の段階に応じた課題や条件が明確に示されており、手順に沿って創作活動ができるよう工夫されている。	(1) 「Let' s Create!」 1 (pp.38—39) 2・3 上 (pp.34—35) 2・3 下 (pp.30—31)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2) 「指揮をしてみよう!」では、指揮者によるアドバイスが掲載されているとともに、指揮をするときのポイントが図を用いて示されており、音楽を指揮で表現して、より豊かな音楽活動につながるよう配慮されている。	(2) 「指揮をしてみよう!」 1 (pp.40—41) 2・3 上 (pp.46—47) 2・3 下 (pp.68—69)
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1) 「My Melody」では、2次元コードからアクセスできるデジタルコンテンツを用いて創作活動ができるようになっており、創作ツールを用いて音の動きを確かめながら活動ができるよう工夫されている。	(1) 「My Melody」 1 (pp.20—21) 2・3 上 (pp.30—31) 2・3 下 (pp.28—29)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) 「+ α この頃、日本では…!？」では、日本と当時の時代背景が比較できるように掲載されており、音楽の背景となる歴史や他の芸術との関わりについて考えることができるよう取り上げられている。	(2) 「+ α この頃、日本では…!？」 1 (p.44など) 2・3 上 (p.50など) 2・3 下 (p.39など)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	音 楽（器楽合奏）
1 年・2 年・3 年			発 行 者 名	
音楽のおくりもの			教育出版株式会社	
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に 関 心 を も つ て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1)		(1)
	① 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解すること ② 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにすること ③ 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにすること ④ 音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うこと	① 各楽器のページには、その楽器を生み出した風土・文化や歴史などが解説されており、楽器の特徴を捉えることで、楽器固有の音色や響きなどについて理解を深めることができるよう配慮されている。 ② 各楽器についての動画コンテンツでは、楽器を演奏する際の演奏方法や模範演奏を視聴することができ、音楽表現に必要な基本的な技能を身に付けることができるよう配慮されている。 ③ 箏（こと）の学習では、様々な奏法による音楽表現の効果について知覚し、音色や音楽表現のよさや美しさを味わって聴くことができるよう掲載されている。 ④ 「聴いてみよう」では、器楽と鑑賞の学習の関連を図ることで、音楽のよさや美しさを感じ取りながら、音楽活動の楽しさを味わうことができるよう工夫されている。		①「篠笛」（p. 22など） ②「リコーダー」（p. 10など） ③「さくら変奏曲」（p. 47など） ④「聴いてみよう」（p. 21など）
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) 各楽器において学習する際のポイントが示されており、それらを手掛かりとしながら生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。		(2)「リズム de ゴー」（pp. 10—11）

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) リコーダーの学習において、左手だけで演奏できる教材曲、両手を使って演奏する教材曲、様々な奏法を用いた教材曲など段階を踏まえて掲載されている。 (2) ・ 「表現の仕方を調べてみよう」では、それぞれの楽器の特徴について共通点や相違点を考える活動ができるよう配慮されている。 ・ 「深めてみよう」では、学んだことを生かして器楽表現をすることができる曲や、豊かな器楽表現につながる奏法などが紹介され、発展的な学習に取り組み、より豊かな表現をすることができるよう配慮されている。	(1) 「リコーダー」 (pp. 10—21) (2) ・ 「表現の仕方を調べてみよう」 (p. 30など) ・ 「深めてみよう」 (p. 47など)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 創作活動が設定されており、既習内容を踏まえた器楽と創作との関連を図ることができるよう配慮されている。 ・ 楽器の学習では、題材の練習曲とまとめの曲が見開きで掲載されており、楽器の特徴を基に段階を踏んで創意工夫を生かした表現で演奏することができるよう配慮されている。 (2) ・ 発展では、人々の生活と音楽との関わりに関心をもって音楽文化を継承・発展・想像することにつながるよう、楽器の特徴や背景にある文化や伝統、生活様式などについて考えたり、調べたりする学習が取り上げられている。 ・ 「ストリート・ピアノ」では、生徒が生活や社会の中の音や音楽に興味をもち、音楽によって生活を明るく豊かなものにするとともに、音楽に親しむ態度を養うことができるよう街中にストリート・ピアノが設置されている意義が取り上げられている。	(1) ・ 「音のスケッチ」 (p. 72など) ・ (pp. 14—15など) (2) ・ 「吹く楽器の仲間たち」 (p. 31) 「弾く楽器の仲間たち」 (pp. 56—57) ・ 「ストリート・ピアノ」 (p. 4)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	音 楽（器楽合奏）
1 年・2 年・3 年			発 行 者 名	
中学生の器楽			教育芸術社	
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1)		(1)
内 容 に 関 し て	① 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解すること	① 伝統的な音楽だけでなく、さまざまなジャンルの音楽が共演していることを知り、音楽の多様性に触れることができるよう掲載されている。		①「伝統の枠を超えて活躍する和楽器」 （p.70）
	② 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにすること	② 和楽器の学習では、姿勢や構え方、奏法などについて写真で示されており、音楽表現をするために必要な技能を習得し、表現に生かすことができるよう工夫されている。		②和楽器「太鼓」 （p.50など）
	③ 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにすること	③ ギターは、旋律やハーモニーを奏でるだけでなく、リズムパートを担当することもできるなど、様々な特徴をもつ楽器であるということを知り、その音色や特徴を感受しながら、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるよう工夫されている。		③「ギター」 （pp.26—27など）
	④ 音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うこと	④ 生徒の多様な興味・関心を引き出し、好奇心に働きかけるような教材が掲載されており、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養うことができるよう配慮されている。		④「バンドの世界をのぞいてみよう」 （pp.68—69）
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) 「学びのコンパス」にあるイラストの吹き出しにより、音楽の特徴、音楽表現を創意工夫するために考えたいことなどが示され、生徒が思いや意図をもつ手掛かりとしたり、音楽のよさや美しさに気付くことで見通しをもって学習に取り組んだり、他者と協働して音楽表現をしたりすることができるよう工夫されている。		(2)「学びのコンパス」 （p.55など）

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取 扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) リコーダーの学習では、「左手による運指」、「両手による運指」、「サミング」、「高い音、井やりの付く音」の奏法を取り上げ、生徒の発達の段階を踏まえた難易度を選択することで、生徒の興味・関心を高めながら学習を進めることができるよう配慮されている。 (2) ・ アンサンブル曲が多数掲載されることで、学習した楽器の特徴を生かして発展的な器楽表現ができるよう配慮されている。 ・ パートを演奏する楽器や強弱などの指定がされていないため、生徒が自ら楽器の組み合わせを選択したり、曲想を捉えて強弱を工夫したりすることができるよう配慮されている。	(1) 「春」 (p. 72) (2) ・ アンサンブル (pp. 71—95) ・ 「Edelweiss」 (pp. 71など)
3 組織・配 列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 音楽（一般）で扱った教材が器楽でも取り挙げられており、系統的に学習できるよう掲載されている。 ・ 「My Melody」では、学習したことを生かした創作の学習が設定されており、器楽で学習した内容を踏まえて創作活動をすることで、生徒の興味・関心を引き出し、学習への意欲を喚起することができるよう配慮されている。 (2) ・ 様々な種類の打楽器について学習することで、音楽と人々の生活、地域の風土、文化や歴史などに関連付けて考えることができるよう取り上げられている。 ・ 「音楽って何だろう？」では、様々な角度から音楽を捉え、人々生活と共に豊かな音楽文化があることに気付くことができるよう音楽についての問い掛けが取り上げられている。	(1) ・ 「ブルタバ(モルダウ)」 (pp. 78—79など) ・ 「My Melody」 (p. 43) (2) ・ 「打楽器」 (p. 63—67) ・ 「音楽って何だろう？」 (pp. 4—5)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	美 術
1 年		2 年・3 年		発 行 者 名
9 開隆堂 美術 009-72 美術 1		9 開隆堂 美術 009-82 美術 2・3		開隆堂出版株式会社
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの	特記事項	
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1)	(1)	
	① A 表現(1)発想や構想に関する資質・能力の A 及び B に関すること	① A (感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動) については、導入にて鑑賞活動を想定した誌面になっている教材が多い。それをもとに表現(絵・彫刻)の発想や構想につながるよう、生徒作品が掲載されるといった工夫がされている。 B (伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動) についても、導入にて鑑賞活動を想定した誌面になっている教材が多く、それをもとに表現(デザイン・工芸)の発想や構想につながるよう、生徒作品が示されている。A・B 共に、同様の単元の流れがある。	① ・ 1 年 「その人らしさが大切」 (pp. 14－17) 2・3 年 「私が見つめた風景」 (pp. 10－13) 「自分と向き合う」 (pp. 14－17) ・ 1 年 「構成の美しさ」 (pp. 36－39) 2・3 年 「ひと目で伝える表示」 (pp. 64－67) 「目にとまる心にとまる」 (pp. 68－71)	
	② A 表現(2)技能に関すること	② 用具の使い方や手順、表現方法等が掲載され、意図や効果をふまえた手順・方法を創意工夫できるよう工夫されている。また、動画のデジタルコンテンツも充実しており、写真や文よりも、直感的に理解しやすくなっている。	② ・ 1 年 「用具を知って使ってみよう」 (pp. 68－70) 2・3 年 「これってどう撮るの」 (pp. 108－109)	
	③ B 鑑賞(1)鑑賞に関する資質・能力の A 及び B に関すること	③ A (美術作品などの見方や感じ方を広げる活動) については、見開きを多用したり、原寸サイズの写真を掲載したりと、作品の特徴を感じ取ることができるような誌面になっている。また、生徒が問いをもてるように、発問が工夫されている。 B (生活の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を広げる活動) についても、見開き誌面や関連のある作品が効果的に取り上げられていたり、視覚的にも文化的にも捉えやすい誌面になっている。	③ ・ 1 年 「目を見張る楽しさ」 (pp. 52－53) 2・3 年 「印象派の表現の広がり」 (pp. 26－31) ・ 1 年 「江戸の美術の面白さ」 (pp. 26－33) 2・3 年 「仏像が表す世界」 (pp. 68－71)	
	④ 「共通事項」に関すること	④ 「共通事項」の視点から目標や問いがあるとともに、参考作品・技法等の写真が掲載されており、生徒が造形的な見方・考え方ができるよう工夫されている。	④ ・ 1 年 「形と色彩の響き合い」 (pp. 18－19) 2・3 年 「写して見つけて」 (pp. 34－35)	
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) ・ 生徒が表現活動において主題を生み出したり、鑑賞活動において進んで考えたりできるよう、誌面の流れやキャラクターの登場等が工夫されている。生徒が協働的に学習できるような設定が多くなされ、対話によって、学習が深まる工夫がされている。各教材の導入文章が、学習の意味や意義について、造形的な視点を働かせるものとなっている。 ・ 多くの作者の言葉が掲載されており、造形的な視点の深まりにおいて補助的な工夫がある。	(2) ・ 1 年 「生き生きとした姿を表す」 (pp. 22－25) 2・3 年 「物語だから動かしたい」 (pp. 38－41) ・ 1 年 「構成の美しさ」 (pp. 22－25) 2・3 年 「世界観や魅力を伝える」 (pp. 60－63)	

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。 (3) 学習を安全に行う上での配慮がされているか。	(1) 表紙の質感、誌面の色彩、取り上げる作品や作者等において、生徒がより興味・関心を高めるような工夫が随所にされている。1年の巻頭ページには、図画工作から美術への質的転換について特集されている。親しみをもてるキャラクターが登場し、学習を支援する役割を担っている。 (2) ・美術と社会のつながりに気付くような「SDGs」の視点のコラムが各所に掲載されている。巻末には、表現の広がりや歴史・文化・社会とのつながりに関する資料が掲載されいてる。 ・共同制作や地域連携を取り入れた教材により、社会に開かれた学習が意識されている。 ・デジタルコンテンツ(技法・参考作品等)が充実しており、生徒が主体的に活用できるようになっている。 (3) ・活動をとらえた図版や写真において、安全を配慮したものになっている。特に注意する箇所については、安全配慮のマークと視点が示されている。 ・ユニバーサルデザインの観点から、フォントや色彩がより見やすいものになっている。	(1) ・各学年表紙 1年 巻頭ページ(pp. 2-5) ・1年「ずっと木といっしょに」(pp. 44-47) 2・3年「ひと目で伝える表示」(pp. 64-67) (2) ・2・3年「文化を守り、育む」(pp. 90-93) 2・3年「持続可能な未来へ」(pp. 112-115) ・1年「目を見張る楽しさ」(p. 52) 2・3年「人間らしさを求めて」(p. 44) (3) 1年「用具を知って使ってみよう」(pp. 68-70) 2・3年「明かりと光」(p. 87)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・絵・彫刻などの表現の題材では、1年には具象的なものが多く、2・3年では抽象的・心象的なものが多くなっている。デザインや工芸などの表現の題材では、日常生活の根差した題材が多く、2・3年では、社会や福祉といった広がりのある題材が多くなっている。 (2) ・特別活動との関連として、学校行事や旅行行事につながる題材が掲載されている。 ・その他、各教科や特別の教科道徳との関連が、各教材に配慮されている。	(1) ・1年「生き生きとした姿を表す」(pp. 22-23) 2・3年「イメージを形にして」(pp. 52-53) ・1年「ずっと木といっしょに」(pp. 44-47) 2・3年「つくって体験みんなで体験」(pp. 82-85) (2) 2・3年「仏像が表す世界」(pp. 56-59) 2・3年「目にとまる心にとまる」(pp. 68-71)

教科用図書の記号・番号・名称				種 目	美 術	
1 年			2 年・3 年		発 行 者 名	
38光村 美術 1 038-72 38光村 美術 1 資料 038-73			38光村 美術 038-82		光村図書出版株式会社	
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果				
		小観点及び全体的なもの		特記事項		
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。 ① A 表現 (1) 発想や構想に関する資質・能力の A 及びイに関すること ② A 表現 (2) 技能に関すること ③ B 鑑賞 (1) 鑑賞に関する資質・能力の A 及びイに関すること ④ 〔共通事項〕に関すること	(1) ①・ア（感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動）については、掲載されている作品について、作者自らが思いや工夫を解説をする「みんなの工夫」というインタビューが紹介されている。同じ中学生の作品を見るだけでなく、どんなことを感じたり、考えたりしてこの作品を作ったのかを知ること、作品に対する見方や感じ方を深めることができるだけでなく、生徒が自分の作品づくりの参考にすることができる。 ・イ（伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動）については、デザインや工芸の世界を「伝える」「使う」「飾る」という 3 つの視点で、わかりやすく構成している。 ② 教科書と別に「資料 つくってみよう見てみよう」があることで、用具や材料の扱い方や表現方法、制作手順をまとめたものが付属している。副教材を別で準備する必要がないので、経済的な負担を軽減できる。また、豊富な動画資料も QRコードから視聴することができるので、個別最適化した学びが可能である。 ③・ア（美術作品などの見方や感じ方を広げる活動）について、「美術鑑賞を楽しむ手がかり」として鑑賞の仕方やポイントがまとめられている。同じページに「印象を表す言葉」があることで、感じたことを言語化する手助けになる。また、「風神雷神図屏風」の金色の表現やページの折り目と屏風の折り目を合わせたり、浮世絵のページに和紙風の紙を使うなど、色や素材などへのこだわりが感じられる。 ・イ（生活の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を広げる活動）では、暮らしの中にある身近なものから、日本の 4 7 都道府県の工芸、そして世界の伝統や文化に触れる題材などを幅広く扱うことで、美術と社会・生活とのつながりを感じさせる構成となっている。 ④〔共通事項〕に関わる内容を各ページの題材名の下に記載されており、その題材でねらいとしていることを明確にしている。			・1 年「みんなの工夫 自分の宝物を描く」（p. 17） ・2・3 年「みんなの工夫 メッセージを伝えるポスターをデザインする」（P. 72ー73） ・1 年 「デザインや工芸の世界」（pp. 46ー47） ・美術 1 資料「つくってみよう見てみよう」 ・2・3 年「学習を支える資料一覧（pp. 94ー95） ・1 年「美術鑑賞を楽しむ手がかり」（pp. 68ー69） ・1 年「風神雷神図屏風」（pp. 37ー40） ・2・3 年「日本の絵画を楽しむ」（pp. 27ー42） ・2・3 年 「暮らしの中のデザイン・工芸」（p. 68）	
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・対話型鑑賞に適した作品の選定がされている。「POINT」として作品を鑑賞する際のヒントがあること。 ・資料に「発想・構想のために」という思考ツールの紹介があり、どのように主題を生み出すかのヒントになる。			・1 年「美術鑑賞を楽しむ手がかり」（pp68ー69） ・「発想・構想のために」（pp24ー25）	

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取 扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。 (3) 学習を安全に行う上での配慮がされているか。	(1) ・人物のイラストに吹き出しがあり、作品のポイントを解説したり、鑑賞するうえでの視点を示していることで、生徒が考えるヒントになっている。 ・図画工作科から美術科への学びを円滑にできるよう、1年のはじめに「発想のしかたはさまざま」という導入のページがある。 ・全国の生徒作品が約900点あり、作者の言葉が掲載されおり、様々な表現の工夫や作者の思いを参考にすることができる。 (2) ・SDGsとの関連や、社会におけるアートの役割に触れ、継続的な学びにつながる題材設定がされている。 ・表現の活動を支える技法動画が44本と豊富である。 ・タブレットを活用した「体感ミュージアム」という鑑賞のコンテンツがあり、作品を360度回転させたり書き込みツールなどを用いて学びを深めることができる。 ・動画だけでなく資料集があることで、幅広い表現方法を知る機会が生まれ、新しい発見につながる。 (3) ・材料や用具を扱う上での注意書きが目立つように工夫されている。 ・「タブレットを使うときは」という動画で、タブレットを使う際の正しい姿勢や視力低下を防止するための体操などを紹介している。 ・「情報モラル」「防災」「自分らしさを認め合う」「不安や悩みに向き合う」など、情報モラルや人権、防災などに関する学習ができるコンテンツが紹介されている。	・1年「発想のしかたはさまざま」(pp.14ー15) ・2・3年「私たちに問いかける美術」(PP.4ー6) ・2・3年「フィンセント・ファン・ゴッホ」(p.43) 「岡本太郎」(p.26) 「印象派」(p.45) ・2・3年「阿修羅像」(p.96) 「最後の晚餐」(pp.12ー15)
3 組織・配 列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・「美術の扉を開こう」というページで、小学校図画工作で学んだことを中学校美術に生かす、つながりのある導入になっている。 ・題材ごとに、左側が鑑賞のページ、右端に表現（発想・構想・生徒作品）というように、鑑賞と表現の活動の関連が分かりやすく記載されている。 ・ページの端のところに、関連した資料のページなどが記載されていることで、学習内容のつながりがわかりやすい。 ・学習指導要領に基づき、1年での学びが2年・3年の学習に生かされるような構成になっている。 (2) ・すべての題材に「道徳化とのつながり」があり、ページ下に記載している。 ・様々な題材で他の教科とのつながりについて記載されている。	・1年「美術の扉を開こう」(pp.10ー11) ・1年「美術鑑賞を楽しむ手がかり」 国語科とのつながり (pp.68ー69) ・2・3年「最後の晚餐」社会科とのつながり (pp.12ー15) 「地域の魅力を表すパッケージ」 数学科とのつながり (p.91) 1年 「響き合う形と色」音楽科とのつながり (p.30) など

教科用図書の記号・番号・名称		種 目	美 術
1 年		2 年・3 年	発 行 者 名
116日本文美術116－72 美術1美術との出会い		116日本文116－83 美術2・3上 学びの実感と深まり 116日本文116－84 美術2・3下学びと探求と未来	日本文教出版
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1) ① ア 全体的に身近なものをモチーフとする課題が多く、参考作品も幅広く掲載されている。そのことで普段見慣れているものも改めて観察したり、テーマに沿って見直すことで「対象や事象を見つめ感じ取った形や色彩の特徴や美しさ」を見出す工夫がされている。 イ 1つの課題でも複数の切り口で取り組めるような工夫がしており、「対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと」への配慮がなされている。例えば自画像でも自身の姿を見つめると同時に心象にまで触れることで、表現の幅を広げている。 ② 巻末にある「学びを支える資料」により「材料や用具の生かし方」「材料や用具の特性」の理解を促す工夫がなされている。また、各課題毎に表記されている「表現のヒント」や動画によって、より分かりやすい技能の説明がされている。	1年「見つめて、感じて、描いて」(P12～13) 「そのものらしさを形にして」(P14～15) 「なぜか気になる情景」(P16～17) 2.3年上「イメージを形にすると」(P20～21) 2.3年下「わたし自身を見つめて」(P10～13) 1年「どんなふうに描きたい？」(P62) 「木でつくる」(P67) 2.3年上「金属でつくる」(P57)
	① A表現(1)発想や構想に関する資質・能力のア及びイに関すること ② A表現(2)技能に関すること ③ B鑑賞(1)鑑賞に関する資質・能力のア及びイに関すること ④ 〔共通事項〕に関すること	③ ア 実際に屏風のように山折り谷折りを教科書に施すことができ、「美術作品などの見方や感じ方を広げる」工夫がされている。 イ 身近なものを扱う課題があり「身の回りにある自然物や人工物の形や色彩」を観察し、その美しさを感じ取れるような設定がされている。 ウ 様々なデザインの機能性と利便性を上げることによって「生活や社会の中の美術の働き」に対する理解の促進をしている。 エ 浮世絵そのものの鑑賞や、日本美術と西洋美術の比較をすることで「日本の美術表現や受け継がれてきた表現の特質」に触れる設定がされている。また、巻末資料にも日本の文化や伝統にも触れており、理解を深める手助けをしている。 オ 作者の言葉が多く掲載されていることで、その心情を図ることができる。 ④ 各課題において「形や色彩、材料、光」に触れられており、巻末の「学びを支える資料」が補足している。	1年「屏風、美のしかけ」(P24～29) 「見つめて、感じて、描いて」(P12～13) 2.3年上「ひと目で伝わるみんなのデザイン」(P40～41) 2.3年上「浮世絵っておもしろい」(24～29) 2.3年上「日本文化との出会い」(P30～31) 2.3年下「光に気持ちを込めて」(22～23)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) ア 課題によっては、お手本となるような作品からユーモラスなものまで幅広く掲載されており、生徒の主体性を引き出す作品構成となっている。また、課題ごとの目標が提示され、なおかつ制作する目的や楽しさを伝える工夫も見られる。 イ 鑑賞においては原寸大の写真や、屏風風に見せるため折り目を付ける写真が掲載されており、生徒に考えさせて意見を引き出す工夫が要所にある。また、「メッセージ、立場を考える、自分を表現」といったキーワードも多く、自己対話を促す課題が多く設定されている。	1年 「美術との出会い、ようこそ美術の学びへ」(2～7) 2.3年下「学びの探求と未来、社会に生きる美術の力」(2～7)

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取扱 について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1) ア 特に1学年では、身近な題材が設定されており、取り掛かりやすい使用となっている。 イ 一方的な解説ではなく、作者の言葉が多く掲載されていることで、作品が身近に感じられるような工夫がされている。	1年「見つめて、感じて、描いて」(P12～13) 「なぜか気になる情景」(P16～17)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2) ア 巻末資料「学びを支える資料」が、従来使っていた資料集の代わりとなるレベルにまで上がっている。また、QRコードで具体的な制作工程を見たり、技能の一例を見ることができる。 イ 社会と美術がどう結びついているか、社会にどのような影響を与えているかを取り上げる課題も設定されている。 ウ 「つくる責任、つかう責任」「住み続けられるまちづくりを」「陸の豊かさを守ろう」等SDGsに配慮した構成となっている。 エ 「学びのはじめに」というQRコードがあることで、学びに深みを与えたり、教員が教えやすかったりする工夫がされている。	2.3年下「魅力を伝えるパッケージ」(40～41) 2.3年下「デザインで地域を豊かに」(44～45) 2.3年下「住み続けられる町づくり」(46～47)
	(3) 学習を安全に行う上での配慮がされているか。	(3) 巻末資料「学びを支える資料」において要所に「注意しよう」という項目が設けられ、ケガをする恐れのある用具の使い方や肖像権の問題も取り上げられており、生徒への注意喚起が図れるよう工夫されている。	1年「木版画」(P64) 1年「木でつくる」(P67) 2.3年上「写真で表現する」(P64)
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1) ア 1年の教科書で「表現」「鑑賞」の二つの学習活動と「絵や彫刻など」「デザインや工芸など」の二つの分野の説明と、3年間の学びを要約した箇所があり、見通しがつきやすいよう工夫がされている。 イ 絵画の課題においては、1年生で「身近な風景に着目」→2年生で「視点の工夫」→3年生で「心情を反映させる」といった流れができています。デザインも同様で、パッケージデザインは、1～2年生で学んだデザインの内容を生かしたものになっている。	1年「ようこそ美術の学びへ」(P6～7) 2.3年下「魅力を伝えるパッケージ」(40～41)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) ア 課題によってページの下部に主に「道徳との関連」と表記されており「思いやり、感謝」や「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」といった項目との関連付けがされている。	1年「人間っておもしろい」(P18～19) 1年「祭りを彩る造形」(P54～55) 2.3年上「日本文化との出会い」(30～31)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	保 健 体 育
1 年・2 年・3 年			発 行 者 名	
保体 002-72 新編 新しい保健体育			東京書籍株式会社	
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの	特記事項	
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1) 体育理論の領域では、「運動やスポーツの多様性」、「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」、「文化としてのスポーツの意義」が取り扱われており、カラー写真やイラスト、QRコードを掲載し、生徒が理解しやすいよう工夫されている。	(1)・ 1 年「運動やスポーツの多様性」 (pp.56－65) 2 年「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」 (pp.110－119) 3 年「文化としてのスポーツの意義」 (pp.162－170)	
	① 健康な生活と疾病の予防	①・ 生活習慣病の起こり方では、日本人の死亡原因の多くが生活習慣病であることや、不適切な生活習慣がその原因となることが示されており、自分の日常の生活を振り返りながら、生活習慣の改善を図ることができるよう工夫されている。 ・ がんについて、5 年相対生存率から健康診断やがん検診などで早期に異常を発見することの重要性を学ぶことができるよう工夫されている。	①・ 2 年「生活習慣病の起こり方」 (pp.90－91) ・ 2 年「がんの予防」 (pp.94－95)	
	② 心身の機能の発達と心の健康	②・ 生殖機能の発達について、資料を通して、男性と女性ではそれぞれどのように生殖機能が発達するのかを学ぶことができるとともに、自分を大切にすることや異性の体や心について理解し合うことができるよう工夫されている。 ・ 心の発達には適度なストレスを経験する必要があることや、過度なストレスは心や体の状態に深刻な影響を与える場合があることが記述されており、ストレスに対する適切な対処が大切であることが取り上げられている。	②・ 1 年「生殖機能の成熟」 (pp.32－35) ・ 1 年「ストレスによる健康への影響」 (pp.46-47)	
	③ 傷害の防止	③・ 人的要因と環境要因について、具体的な場面を提示することで対策を考えることができる内容となっており、生徒の身の回りで起こり得る傷害に対して予測し、人的要因と環境要因から対策を考えることができるよう配慮されている。 ・ 犯罪被害の防止について、通学路や自宅の周辺の点検をするなど環境を整えることが効果的であることや、犯罪被害に遭わないための人的要因を学ぶことで、自分の生活や行動を振り返りながら、危険予測と回避の能力を身に付けることができるよう工夫されている。	③・ 2 年「傷害の発生要因」 (pp.68－69) ・ 2 年「犯罪被害の防止」 (pp.74－75)	
	④ 健康と環境	④・ 換気の回数による二酸化炭素濃度の変化やそれによる人体への影響が資料で提示されており、室内の空気をきれいに保つために定期的に換気することの重要性が理解できるよう工夫されている。 ・ ごみの減量や分別に積極的に取り組む必要があることについて、ごみの最終処分場の残余容量に余裕がないことなどを提示することで、ごみの衛生的な処理と個人の取組について学ぶことができるよう取り上げられている。	④・ 3 年「室内の空気の衛生的管理」 (pp.130－131) ・ 3 年「生活に伴う廃棄物の衛生的管理」 (pp.132－135)	
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 「広げる」では、他教科やこれまでの単元で学んだ内容をもとに自らの生活にあてはめて課題を設定することで、生徒が主体的に捉え、課題解決に向け知識を生かすことができるよう工夫されている。 ・ 「活用する」では、事例や資料等を見て自らの考えを述べたり、仲間と話し合ったりする活動を通して、主体的・対話的で深い学びにつなげることができるよう配慮されている。	(2)・ 1 年「呼吸器・循環器の発育・発達」 (pp.30－31) ・ 3 年「感染症の予防」 (pp.144－145)	
	(3) 社会の変化に伴う諸課題について配慮されているか。	(3)・ 健康に配慮したコンピュータの使用方法や、インターネットによるコミュニケーショントラブルが取り上げられており、事件や犯罪に巻き込まれないために正しい知識をもって利用できるように配慮されている。 ・ 口絵では、SDGs やテクノロジーの進化、自然災害などが写真で取り上げられており、保健体育の学習と日常生活を結び付けて、興味・関心をもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。	(3)・ (p.107, p.184, p.187) ・ 「口絵」 (pp.1－6)	

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1) ・ 犯罪被害を回避するためのシミュレーションを行うことにより、学習に対して興味・関心をもって取り組むことができるよう工夫されている。 ・ 「見つける」では、自分自身の生活と関連させて学習を進めることができる発問となっており、日常経験や小学校で学習したことなどを基に学習課題について興味・関心をもって取り組むことができるよう配慮されている。	(1) ・ 2年「危険回避の方法」(p.75) ・ 3年「保健・医療機関の利用」(p.152)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2) ・ 章末資料では、単元の内容を補足した説明や発展した詳しい資料が掲載されており、身に付けた知識や技能を活用して健康の保持増進に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 巻末スキルブックでは、命や健康を守るために必要な知識や行動がまとめて掲載されており、関連する単元の情報を補足したり、日常生活で活用したりできるように配慮されている。	(2) ・ 2年「虫歯や歯周病を予防するための運動」(p.108) ・ 「巻末スキルブック」(pp.177－194)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1) ・ 領域のはじめに、校種別の学習内容が示されており、系統的に学習することができるよう関連が図られている。特に、小学校での学習内容の振り返りや、高等学校の内容が示され、学んだことを生かしたり見通しをもって学習したりすることができるように工夫されている。	(1) ・ 1年「心身の機能の発達と心の健康」(p.27)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) ・ 「リンクマーク」などのマークを示すことで、他教科と学習内容等の関連について学ぶことができるよう取り上げられている。 ・ 領域のはじめに、保健体育・スポーツに関連する職業をとり挙げることで、運動やスポーツへの多様な関わり方を学び、将来へのキャリア形成と関連して学習することができるよう工夫されている。	(2) ・ 1年「心身の機能の発達と心の健康」(p.27) ・ 「保健体育の職業」(p.13) 2年「私とスポーツ」(p.62)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	保 健 体 育
1 年・2 年・3 年			発 行 者 名	
保体 702 中学校保健体育			大日本図書株式会社	
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1) 体育理論の領域では、「運動やスポーツの多様性」、「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」、「文化としてのスポーツの意義」が取り扱われており、写真やイラストを掲載することで、生徒が理解できるよう工夫されている。		(1)・ 1 年「運動やスポーツの多様性」(pp. 4－14) 2 年「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」(pp. 56－70) 3 年「文化としてのスポーツの意義」(pp. 120－129)
	① 健康な生活と疾病の予防	①・ 食生活について、1 日に必要なエネルギーやバランスのよい食事の具体例が示されており、資料を活用することで健康な体をつくるために必要なことを理解できるよう工夫されている。		①・ 1 年「食生活と健康」(pp. 20－21)
	② 心身の機能の発達と心の健康	②・ 欲求不満の状態にうまく対処するための具体的な方法について考える場面が設定されており、自分に合った対処法を見付けることができるよう配慮されている。		②・ 1 年「欲求への対処」(pp. 44－45)
	③ 傷害の防止	③・ 中学生では自転車による交通事故が多いことが取り上げられており、自転車事故を起こさないようにするために、資料を基にどのように対策をすればよいか主体的に考えることができるよう工夫されている。 ・ 応急手当の意義や目的が説明されているとともに、心肺蘇生法については多くの写真が用いられているため、応急手当についてポイントを押さえて理解できるよう配慮されている。		③・ 2 年「交通事故の要因と傷害の防止」(pp. 92－95) ・ 2 年「応急手当の基本」(pp. 104－105) 「心肺蘇生法」(pp. 106－109)
	④ 健康と環境	④・ 室内の空気の汚れについて二酸化炭素の濃度が目安になることが説明されており、定期的な換気が室内の空気を衛生的に保つことを理解することができるよう工夫されている。		④・ 3 年「空気の汚れと換気」(pp. 154－155)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 「学習のねらい」が各単元のはじめに示されており、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 「話し合ってみよう」では、ねらいに関連した資料を活用し、仲間と協働しながら学習することができるよう配慮されている。		(2)・ 2 年「生活習慣病の予防」(pp. 72－73) ・ 1 年「運動と健康」(pp. 18－19)
	(3) 社会の変化に伴う諸課題について配慮されているか。	(3)・ 防災について、地震が発生したときの行動とともに日頃から備えておくべきことについて詳しく説明されており、生徒が状況に応じて的確に判断し、安全に行動することができるよう工夫されている。 ・ オリンピック・パラリンピックなどの国際的なスポーツ大会が、どのように国際親善や世界平和に結び付いているのかについて、生徒がオリンピック・パラリンピックの歴史を学びながら学習することができるよう工夫されている。		(3)・ 2 年「自然災害による傷害の防止」(pp. 98－103) ・ 3 年「国際的なスポーツ大会の文化的な役割」(pp. 122－125)

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取扱 について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 口絵には、スポーツを「行う」、「見る」、「支える」、「知る」などの様々な観点から取り上げた写真や、健康について考えるきっかけとなる資料が紹介されており、運動や健康に関する興味や関心を高めることができるよう工夫されている。 ・ 「トピックス」では、社会的に話題となった課題や学習内容を関連させた読み物が紹介されており、授業の最初に取り扱うことで、健康や安全、運動への興味や関心を高めることができるよう配慮されている。 (2) ・ 「ミニ知識」では、学習内容に関連する事柄を簡潔に紹介されており、活用することで学習状況に応じて内容の理解を深めることができるよう配慮されている。 ・ 各ページに「章末資料」が掲載されており、自身の興味・関心に合わせて発展的な学習に取り組むことができるよう配慮されている。	(1) ・ 口絵 (pp. 3－14) ・ 1年「夢をかなえるために」 (p. 40) 2年「危険ドラッグ」 (p. 80) 3年「サプリメントやトクホについて正しく理解しよう」 (p. 142) (2) ・ 1年「ミニ知識」 (p. 34) など ・ 2年「熱中症の予防と応急手当」 (pp. 114－115)
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 各時間の学習では、「つかもう」、「やってみよう」、「活用して深めよう」の構成になっており、一貫性をもって学習することができるように配慮されている。 (2) ・ 「学びを活かそう」では、学習した内容を活用して自身の生活に繋げながら学習内容を深められるように配慮されている。 ・ 「他教科マーク」が示されており、教科等横断的な視点で学習を進めることができるように関連した題材が取り上げられている。	(1) ・ 1年「体の発達・発育」 (pp. 30－31) (2) ・ 3年「野外活動の安全な行い方を考えよう」 (pp. 69) ・ 1年「食生活と健康」 (pp. 20)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	保 健 体 育
1 年・2 年・3 年			発 行 者 名	
保体 050-72 最新 中学校保健体育			株式会社大修館書店	
大観点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの	特記事項	
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)・ 体育理論の領域では、「運動やスポーツの多様性」、「運動やスポーツの効果・学び方・安全」、「文化としてのスポーツ」について、カラー写真やイラストを多く掲載することで生徒が親しみを感じながら学習できるよう工夫されている。 ・ 「きょうの学習」では、本時の学習で理解してもらいたい内容が明確になっており、生徒が見通しをもちながら取り組んでいけるような工夫がされている。	(1)・ 1 年「運動やスポーツの多様性」 (pp. 4－15) 2 年「運動やスポーツの効果・学び方・安全」(pp. 62－77) 3 年「文化としてのスポーツ」 (pp. 126－137) ①・ 1 年「食事と健康」 (pp. 22－23) ・ 3 年「感染症の予防」 (pp. 144－145)	
	① 健康な生活と疾病の予防	①・ バランスを考えた中学生向けのメニューがイラストで示されており、健康的な食生活を身に付け、毎日の食生活を自分のこととして考えることができるよう工夫されている。 ・ 感染症のリスクを減らす3つの対策として、「発生源をなくす」、「感染経路を断つ」、「体の抵抗力を高める」について具体例を示すことで、日頃から感染症対策に取り組むことができるよう工夫されている。	②・ 1 年「生殖機能の成熟」 (pp. 36－39) ・ 1 年「ストレスへの対処のしかた」 (pp. 54－57)	
	② 心身の機能の発達と心の健康	②・ 生殖機能の成熟では、思春期に起こる体の変化について詳しく説明されており、成長の度合いによって個人差があることを理解することができるよう配慮されている。 ・ ストレスへの対処のしかたについて、気分転換やリラクゼーションの方法がイラストや動画などで挙げられており、心身をストレスから守ることができるよう配慮されている。	③・ 2 年「けがの原因と防止」 (pp. 102－103) ・ 2 年「交通事故によるけがの防止」 (pp. 106－107)	
	③ 傷害の防止	③・ けがの要因や中学生の事故の特徴が具体的に示されているとともに、危険予測や危険回避の能力を身に付けるため、イラストを見て具体的な対策を考えることができるよう工夫されている。 ・ 中学生に多い自転車事故を防ぐために、自転車安全利用五則を通じて交通規則を遵守することができるよう配慮されている。	④・ 3 年「気象情報の適切な利用」 (pp. 166－167) ・ 3 年「災害と環境」 (pp. 176－177)	
	④ 健康と環境	④・ 熱中症警戒アラートや暑さ指数 (WBGT) についての資料が提示されており、日頃から気象情報に注意を払うことで未然に防ぐことができる健康被害について生徒が理解しやすいよう工夫されている。 ・ 災害と環境では、被災地での主な健康問題について、健康被害を最小限に抑えるために、衛生面の配慮と併せて、信頼できる情報を得るために必要なことについて理解できるよう工夫されている。	(2)・ 2 年「交通事故の実態 原因」 (pp. 104－105) ・ 2 年「心肺蘇生法」 (pp. 116－117)	
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 「課題をつかむ」ではこれまでの経験を基に振り返ったり、これからの学習を見通したりすることで、主体的に学ぶことができるよう配慮されている。 ・ 「学習のまとめ」では、生徒同士で話し合ったり考えたりする課題が設定されており、対話的な活動を行うことにより生徒の深い学びが実現できるよう工夫されている。	(3)・ 1 年「性への関心と性情報への対処」 (pp. 42－43)	
	(3) 社会の変化に伴う諸課題について配慮されているか。	(3)・ 性についての考え方では、「性的マイノリティ」の人々が抱える悩みや、学生服の選択肢を増やすといった「性の多様性」についての資料を掲載することで、様々な考え方を理解し、幅広い視野をもって性について考えていけるよう配慮されている。 ・ 環境問題では、「マイクロプラスチック」について取り上げられており、持続可能な循環型社会の実現を図ることができるようにするために、今自分たちができることを具体的にイメージできるよう工夫されている。	・ 3 年「私たちの生活と環境問題」 (p. 179)	

大観点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 多様な導入発問を掲載することで、学習課題に繋がる気付きや思考を促し、生徒が興味・関心をもって取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 資料では、学習内容について関心を高めることができるよう、グラフを読み取るためのポイントや補足の記述があり、課題について意欲的に取り組むことができるよう配慮されている。 (2) ・ 「ほり下げる」では、本文中に出てきた言葉を詳しく解説したり、学習内容に関連した情報を紹介したりするなど、自らの興味・関心に合わせて発展的に取り組むことができるよう工夫されている。 ・ 各単元の「コラム」では、学習内容に関連したエピソードや実際に起こった事例などが取り上げられており、自分の考えを広げたり、深めたりすることができるよう配慮されている。	(1) ・ 1年「社会性の発達と自立」(pp. 46－47) ・ 3年「医薬品の正しい使い方」(pp. 154－155) ・ 1年「環境の変化への体の適応」(pp. 164－165) (2) ・ 1年「Web保体情報館」(p. 55) 3年「ほり下げる」(p. 143) ・ 1年「藤井聡太さんの自己形成」(p. 49)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 各時間の学習において、「つかむ」、「身に付ける」、「まとめる、振り返る」の構成になっているため、見通しをもって、主体的に学習することができるよう工夫されている。 (2) ・ コラムでは、各領域において実生活に関連する近年問題となっている健康被害などの内容が盛り込まれ、特別活動や他教科と関連して学ぶことができるよう取り上げられている。 ・ 口絵では、実社会の課題を関連付けて学習が進めることができるよう、SDGsの17のゴールが取り上げられている。	(1) ・ 「この教科書の使い方」(口絵9、p. 1) ・ 1年「ストレスへの対処のしかた」(pp. 54－55) (2) ・ 「休養・睡眠と健康」(p. 24) ・ 「よりよい未来に向けて」(口絵7)

教科用図書の記号・番号・名称		種 目	保 健 体 育
1 年・2 年・3 年			発 行 者 名
保体 224-72 新・中学保健体育			株式会社Gakken
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1)・体育理論の分野では、「スポーツの多様性」、「スポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」、「文化としてのスポーツ」が取り扱われており、写真やイラストを掲載することで、生徒が関心や興味をもちやすいよう工夫されている。	(1)・ 1 年「スポーツの多様性」(pp.14-25) 2 年「スポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」(pp.72-83) 3 年「文化としてのスポーツ」(pp.136-149)
	① 健康な生活と疾病の予防	①・ 「1 週間の生活チェック」を活用することで、自身の生活を振り返りながら良い点と改善点を見つけ、今後の生活に生かすことができるよう工夫されている。	①・ 1 年「調和のとれた生活」(pp.36-37)
	② 心身の機能の発達と心の健康	②・ 生殖機能の成熟では、思春期の体の変化や月経、射精、妊娠のメカニズムの資料が示されており、妊娠について理解が深まるよう工夫されている。また、「エクササイズ」を活用することで学習課題の解決に取り組めやすくなっている。 ・ 自分の気持ちを相手に上手に伝える実習場面が取り上げられており、実生活に活用できるようになっている。	②・ 1 年「生殖機能の成熟」(pp.48-51) ・ 1 年「心の発達」(pp.56-57)
	③ 傷害の防止	③・ 交通事故の原因では、特に車両要因についての様々な資料を提示し、自動車の内輪差や死角、停止距離などについて理解することで、身の安全を守ることができるよう配慮されている。 ・ 自然災害について過去の教訓が生かされているとともに、日頃からの備えや避難方法においても内容が充実しており、正しい知識を身に付け、自らの命を守り状況に応じた行動がとることができるよう配慮されている。	③・ 2 年「交通事故の現状とその原因」(pp.110-111) ・ 2 年「自然災害から身を守るために」(pp.118-121)
	④ 健康と環境	④・ 真夏でなくても熱中症になる人が多いことについて取り上げることで、天気予報や熱中症警戒アラートなどの気象に関する情報を活用して、季節に関係なく適切な行動をとることができるよう関連が図られている。	④・ 3 年「環境の変化と適応能力」(pp.170-171)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 「ウォームアップ」では、身近な話題が取り上げられ、本時の課題について見通しをもって主体的に学習することができるよう配慮されている。 ・ 「エクササイズ」では、グラフや資料を読み取る課題を設定し、仲間と意見を交換したり話し合ったりすることで、自ら協働しながら課題を解決できるよう工夫されている。	(2)・ 2 年「傷害の原因と防止」(pp.108-109) ・ 3 年「室内の空気の条件」(pp.174-175)
	(3) 社会の変化に伴う諸課題について配慮されているか。	(3)・ 性情報について、自画撮り被害やインターネットを通じた被害の資料を基に考えることで、正しい情報を選択し適切な行動をとることができるよう配慮されている。 ・ 事例を基にがん患者の気持ちを考えるなどの活動があり、病気に関する知識の理解を深めることができるよう工夫されている。	(3)・ 1 年「性とどう向き合うか」(pp.52-53) ・ 2 年「がんと共に生きる、がん患者と共に生きる」(p.103)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(1) ・ 実習のページでは、リラクゼーションについてイラストで分かりやすく説明している。また、QRコードで腹式呼吸についての動画を紹介おり、知識や技能の定着を図りながら意欲的に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 学んだことを基にした実践的な課題に取り組むことで、身の回りの状況や情報などを判断した上で、自他の生活への生かし方について興味・関心をもって考えることができるよう配慮されている。 (2) ・ 章のはじめと終わりに、自分の考えを自由に記述する空欄が設けられており、学習内容について自分自身で多角的・多面的に内容を深めたり、記述した考えを基に他者と意見交換したりすることができるよう工夫されている。 ・ 章末の「探究しようよ」では、学習内容と関連した資料が掲載されており、自らの学習状況に合わせて、深く調べることができるよう配慮されている。	(1) ・ 1年「リラクゼーションの方法」(p.64) ・ 2年「自然災害に備えて」(pp.116－117) (2) ・ 1年「健康な生活と疾病の予防①」(p.27) 「1年の学習の終わりに」(p.70) ・ 1年「アレルギー」(p.38) 2年「津波」(p.131) 3年「動物由来の感染症」(p.165)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 領域のはじめには「何を学習するか」が示され、小学校での既習内容と高等学校の学習内容のつながりを踏まえて学ぶことができるよう配慮されている。 (2) ・ 巻末には、学習内容がキーワードで分類され、他教科等との関連が取り上げられている。 ・ 口絵では、実社会と関連付けられた写真が取り上げられ、学習内容が生活とどのように関わっているのかなどキャリア教育との関連が図られている。	(1) ・ 1年「健康な生活と病気の予防①」(pp.26－27) (2) ・ キーワードで見る保健体育の学習内容(p.190) ・ 「関わり合って生きる私たち」(口絵)(pp.4－5)

令和 7 (2025) 年度使用中学校教科用図書調査研究資料

教科用図書の記号・番号・名称		種 目	技術・家庭（技術分野）
1 年・2 年・3 年			発 行 者 名
技術 002-72 新編 新しい技術・家庭 技術分野 未来を創るTechnology			東京書籍株式会社
大観点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	巻頭に「SDGs」や「技術の見方・考え方」、「創意工夫」についてのページがあり、技術という教科が社会や環境と密接に関係していることを意識しながら学習を進められるよう工夫されている。また、図やイラストが多く、視覚的に生徒の興味関心を高め、問題解決に向けて主体的に取り組めるよう配慮されている。	・「SDGsとTechnology」p10-p11 ・「工夫・創造の力が技術を支える」p12-p13 ・「技術の見方・考え方」p16-p19
	A 材料と加工の技術	A 学習内容を理解させるために、図やイラストを多く記載し、詳細な説明がされている。学習内容をまとめるページがあり、振り返りや考えを深めることができるよう配慮されている。さらに、デジタルコンテンツが充実しており、実習の際に十分な説明がされているため、個別最適化された学習になるように配慮されている。また、学んだ技術を日本の伝統・文化に活用した実例が紹介されており、日本のものづくりの特長を学ぶことができるよう工夫されている。	・「学習のまとめ」p84-p85 ・「これからの材料と加工の技術」p81
	B 生物育成の技術	B 図やイラスト、グラフ、思考ツールなどが多く記載されており、視覚的に興味関心を高める工夫がされている。さらに、随所にICTやテクノロジーとの関連が示されており、総合的な内容となるように配慮されている。また、「テックラボ」に植物の管理作業についてまとめられており、実習や家庭、これからの生活に活かせるように工夫されている。	・「技術の匠」p99、p101 ・「資料」p102 ・「TECH Lab」p114-p117
	C エネルギー変換の技術	C エネルギー変換の方法や発電方法のプラス面・マイナス面が詳細に記載されており、今日のエネルギー問題について問題点を見だし、解決策を考えることができるように工夫され、対話的な学習活動を通して、問題解決能力が育まれるように配慮されている。	・「技術のとびら」p142-p143
	D 情報の技術	D 「情報セキュリティ」や「情報モラル」について、情報社会を生きていく上で必要な知識や技術を考えることやこれから豊かな社会を構築していくための社会の一員としてのモラルを考えるための工夫がされている。また、プログラミングを行う題材では多くの実習例が記載されており、生徒の実態に即した指導ができるように配慮されている。	・「資料」p209、p211 ・「情報モラル」p214-p216 ・「問題解決例」p232-237、p250-p255
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	・問題解決例があり、各学校の実態に合わせ、話し合い行いながら課題が設定できるよう工夫されている。 ・「やってみよう」、「調べてみよう」、「考えてみよう」などの活動があり、より深い学びになるように工夫されている。 ・「すごいぞ！技術」で「技術の匠」の話が掲載されており、興味関心が高まる工夫がされている。	・「問題解決例」p.72-p.77、p.120-p.125 p.182-p.187、p.250-p.255、p.268-p.271 ・全体 ・「すごいぞ！技術」p.86-p.87、p.134-p.135 p.196-p.197、p.264-p.265
	(3) 現代社会における諸課題について配慮されているか。	・各編の最後に「社会の発展と〇〇」があり、現代社会が抱える課題や新しい技術について考えられるよう配慮されている。 ・環境問題やSDGsに関する内容にはマークが示してあり、これからの社会について考えられるよう配慮されている。	・「社会の発展と〇〇」p.78-p.83、p.126-p.131 p.188 -p.193、p.256-p.261 ・p.3

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取 扱につ いて	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。 (3) 学習を安全に行う上での配慮がされているか。	(1) ・問題解決例があり、生徒の実態に合わせて活動ができるよう配慮されている。 ・「テックラボ」やデジタルコンテンツが充実しており、興味関心が高まる工夫がされている。 (2) ・「すごいぞ技術」、「技術の匠」が設けられており、学習内容を更に深めることができるよう配慮されている。 ・問題解決例のページに「もっと問題解決」を設けており、生徒一人一人の問題発見に活用できるように工夫されている。 (3) ・「安全のための3つの視点」というチェックリストを用いたり、作業時の服装や技術室のイラストを使用したりすることで、実習の作業において安全に配慮することができるよう工夫されている。 ・各作業では、「安全」、「衛生」マークを使用したりするなど随所に注意を喚起し、安全に実習を行うことができるよう工夫されている。	(1) ・「問題解決例」 p. 72-p. 77、p. 120-p. 125、p. 182-p. 187、p. 250-p. 255、p. 268-p. 269 ・「テックラボ」 p. 40-p. 51、p. 114-p. 117、p. 180-p. 181、 (2) ・「学習をふかめるためのページやコラム」 p. 3 「すごいぞ技術」「技術の匠」 p. 86. 87 ・「もっと問題解決」 p. 73、p. 75、p. 77 (3) ・「作業を楽しく安全に進めよう」 p. 8-9 ・「教科書の構成と使い方」 p. 2-3 「安全」「衛生」 p. 40、p. 42-43、p. 45
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・「教科書の構成と使い方」では、教科書の構成やマークの意味について説明し、教科書の構成を十分に理解した上で活用することができるよう配慮されている。 ・各編では、「編の導入」→「基本ページ」→「学習のまとめ」の構成で統一されており、問題解決例や資料がその構成の中で適切に取り上げられていることで、学習過程を捉えることができるよう工夫されている。 (2) ・「リンクマーク」を用いることで、他教科との関連を図りながら学習を進めることができるように工夫されている。 ・教科関連を示す「Dマーク」は、他教科や小学校の関連する内容の教科書紙面を見ることができ、校種間のつながりを大切にしながら、学習内容の理解を深めることができるように工夫されている。	(1) ・「教科書の構成と使い方」 p. 2-3 ・各編全体 (2) ・「教科書に使われているマークの意味」 p. 2-3 「他教科理科1年 物の調べ方」 p. 28 ・「デジタルコンテンツを活用しよう」 p. 4-5 「Dマーク」 p. 28

令和 7 (2025) 年度使用中学校用教科用図書調査研究資料

教科用図書の記号・番号・名称		種 目	技術・家庭（技術分野）
1年・2年・3年			発 行 者 名
技術 006-73 新 技術・家庭 技術分野 明日を創造する		技術 006-74 技術・家庭 技術分野 明日を創造する スキルアシスト	教育図書株式会社
大観点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
内容について	1	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。 どの領域においても問題を解決する流れが示されており、技術を活用して社会の課題や問題を解決を目指す構成になっている。それにより技術を通して問題解決能力を育むことができるよう配慮されている。別冊のスキルアシストでは、体験的な学習についてのより詳細な知識や技能が紙面と動画教材で示されており、生徒が主体的に取り組むことができるように工夫されている。 A 材料と加工の技術 A 文字が大きく、イラストや図を使用し、視覚的に生徒の興味・関心を高める工夫がされている。また、技術がどのように社会に貢献しているのか「技ビト」や「スゴ技」で紹介することで、学んだ事が生活に生かされていると実感できる内容になるように配慮されている。 B 生物育成の技術 B 文字が大きく、イラストや図を使用し、視覚的に生徒の興味・関心を高める工夫がされている。「1章で学んだことをまとめよう」のページがあり、学んだ知識を振り返り、これからの体験的な学習に知識が生かせるように工夫されている。また、生物育成についての身近な問題を見つけ、解決するなど問題解決能力を育むことができるように工夫されている。 C エネルギー変換の技術 C 機械内部や部品内部の図やイラストを使用し、実際に見る機会が少ない内部の構造を知ること、生徒の興味・関心が高まる工夫がされている。また、「プチ問題解決にチャレンジ」で身近な問題を解決することを考えることで、問題を発見する力や問題を解決する力を育むことができるよう工夫されている。 D 情報の技術 D 巻頭で最新のテクノロジーの図やイラストが紹介されていることで、社会に目を向けるとともに情報技術への興味・関心を高める工夫がされている。「やってみよう」でプログラム作成ソフトやレポートをまとめる資料を利用することができ、手軽にプログラミングにふれることができるように配慮されている。また、身近な問題例や題材例から問題の解決を行うことで、問題解決能力が育まれる工夫がされている。 (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。 ・どの単元でも、「見つける」→「学ぶ」→「ふり返る」と明確に示されおり、生徒が考えやすいように工夫されている。また、「見つける」では、実生活の中で起こるものを提示しており、イメージしやすく主体的に取り組んだり、話し合いをしたりしやすくなっている。 ・「技術をいかそう」では、漫画で説明をしてあり、主体的に取り組めるよう配慮されている。 ・「先輩に聞いてみよう」があり、同年代の経験者の声を聞けることで、意欲に繋がり主体的な学びができるよう工夫されている。 (3) 現代社会における諸課題について配慮されているか。 ・SDGs に関する内容には、SDGs のマークが示してあり、現代社会における問題について考えられるよう工夫してある。 ・各編の最後に技術の進歩により、生活のプラス面、マイナス面を考えることで、新しい考えで現代社会が抱える課題を解決できるよう工夫してある。	・全体 ・別冊スキルアシスト ・「技ビト」 p22等 ・「スゴ技」 p29等 ・「学んだことをまとめよう」 p82-p83 ・「電気に関する技術を知ろう」 p116-p117 ・「やってみよう」 p53、p110、p170、p244 ・全体 ・「技術をいかそう」 p. 36-p. 37、p. 38-p. 39 p. 138-p. 139、p196-p. 197 ・「先輩に聞いてみよう」 p. 61、p. 101、p. 163 p. 215 ・ p. 3 ・ p. 68、p. 110、p. 170、p. 244

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取扱 について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。 (3) 学習を安全に行う上での配慮がされているか。	(1) ・「見つける」では、問題提起を対話形式で行っており、興味関心が高まるような工夫がされている。 ・「技ビト」では、専門家の話が掲載されていたり、デジタルコンテンツでインタビューがあったりと興味関心が高まる工夫がされている。 (2) ・「もっと知ろう」や「先輩に聞いてみよう」のコラムを設けることで、生徒の理解度に応じて、積極的に学習を進められることができるように工夫されている。 ・基礎的・基本的な学習内容を中心に構成されており、生徒が学習に取り組みやすいように工夫されている。 (3) ・ガイダンスにおいて、作業時の服装や技術室のイラストや写真を使用したり、「楽しく安全に作業をする3つの心得」というチェックリストを用いたりすることで、実習の作業では安全に配慮することが大切であることを意識することができるように工夫されている。 ・各作業では、安全に配慮すべき箇所に「安全」、「衛生」マークを示すことで作業に合わせて適切に安全指導ができるように工夫されている。	・全体 ・「技ビト」 p.64-p.65、p.107、p.109、p.167 p.169、 p.219、p.241、p.243 ・「もっと知ろう」 p.33、p.93 「先輩に聞いてみよう」 p.91、p.101 ・全体 ・「学習を楽しく安全に進めるために」 p.12-13 ・「実習の安全な進め方を知ろう」 pp.34-35
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・各編の1章、2章（D編は2章3章）、3章（D編は4章）が学習指導要領の（1）（2）（3）、（D編は4）に対応していることで、系統的な内容の配列で、評価の行いやすい構成になるように工夫されている。 ・「見つける・学ぶ・ふり返る」を基本配列として、「見つける」で学習意欲を喚起、「学ぶ」で自主的に学習、「ふり返る」で学習理解の確認ができるように工夫されている。 (2) ・ガイダンスの「技術ではどんなことを学ぶのかな？」では、技術と小学校での学習の関連を示しており、発展的、系統的に学習することができるように工夫されている。 ・要所要所で、小学校や他教科との学習の関連を示しており、発展的、系統的に学習する意識を高めることができるように工夫されている。	・「学習内容への道案内」 p.2-3 ・p.16-33など ・「技術ではどんなことを学ぶのかな？」 p.③ ・「関連」（p.72、p.114、p.174）

令和 7 (2025) 年度使用中学校教科用図書調査研究資料

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	技術・家庭（技術分野）
1年・2年・3年			発 行 者 名	
技術 009－72 技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて			開隆堂出版株式会社	
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	巻頭に企業の製品開発の流れやSDGsについて示すことで、技術と社会、環境が密接に関わっていることを意識させる工夫がされている。また、技術に関わる人へのインタビューが掲載されており、生徒の興味・関心を高めるとともに、ものづくりを職業とするキャリア形成の観点でも配慮もなされている。		・ p1 ・ p4 ・ p104-p105、p156-p157、p210-p211、p284-p285
	A 材料と加工の技術	A 題材ごとに学「学習課題」があり、生徒は見通しをもって学習に取り組める工夫がなされ、科学的な根拠や仕組みを理解しやすい内容構成となっている。また、実習例が豊富で生徒の問題解決の幅を広げる工夫がされている。さらに、学んだ技術が実生活にどう生かされているのか示されているため、技術と社会を結びつける工夫がされている。		・ 「実習例」 p62-p73 ・ 「参考」 p41等
	B 生物育成の技術	B 図や文字が見やすく配置されており、生徒の興味・関心が高まる工夫がされている。さらに、作物や動物の管理作業ごとに写真があるため、視覚的に学習しやすいように配慮されている。また、実習例が多く、それぞれの特徴を理解しながら、生物育成の実習に生かすことができるように工夫されている。		・ 「実習例」 p136-p147
	C エネルギー変換の技術	C 機器や発電の仕組みの図やイラスト、発電量などのグラフを記載し、視覚的に学習内容を理解できるように配慮されている。身近な電気機器の仕組みや特徴が取り上げられており、実生活に基づいた技術の見方・考え方が意識されるように工夫されている。		・ 「さまざまな発電方法」 p164-p165 ・ 「トラッキング現象」 p168等
	D 情報の技術	D プログラミングについては、言語の仕組みや構造が図やイラストなどを用いて詳しく記載されており、学習内容が把握しやすいよう配慮されている。また、プログラミングの実習例を多く記載し、問題発見、問題解決の手立てなど問題解決能力が育まれるように工夫されている。		・ 「実習例」 p256-p263、p270-p275
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	・ ガイダンスでは、ハサミやボールペンが取り上げられており、初めて技術を習う生徒にとって興味がでるよう工夫されていいる。 ・ 専門家のインタビュー記事や豆知識が掲載されており、それぞれの分野について深い学びになるよう工夫されている。		・ p. 10-p. 13 ・ 「インタビュー」 p. 104-p. 105、p. 156、p. 210-p. 211、 p. 284-p. 285 ・ 「豆知識」 偶数ページ
	(3) 現代社会における諸課題について配慮されているか。	・ 開発者、製造者と利用者それぞれの視点から現代社会における課題について考えるよう配慮されている。 ・ 環境に関わる内容には、「環境」マークが付いており、現代社会の問題について考えるよう工夫されている。		・ p. 100-p. 101、p. 152-p. 153、p. 206-p. 207、p. 280-p. 281 ・ 「環境」 p. 2

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。 (3) 学習を安全に行う上での配慮がされているか。	(1) ・実習例が多く掲載されており、創作意欲を高めるよう工夫されている。 (2) ・「豆知識」、「参考」を設けることで、補充的な学習内容を示し、学習内容の理解を深めることができるよう配慮されている。 ・技術に関わる人のインタビューを掲載することで、技術と人をつなげ、生徒が将来をイメージできるように工夫されている。 (3) ・安全確認のためのチェックリストを用いたり、作業時の服装や技術室のイラストを使用し、作業時の具体的な注意点を示したりすることで、安全への意識を高めることができるよう工夫されている。 ・「安全」マークを用いて、それぞれの作業工程とを関連付けて取り上げることで、安全の意識を高めることができるよう工夫されている。	(1) ・ p. 62-p. 73、p. 136-p. 147、p. 194-p. 201 p. 270-p. 275 (2) ・「豆知識」偶数ページ下部、「参考」 p. 31、p. 33 ・「やってみよう」 p. 101 「参考」 p. 171 (3) ・「作業の安全」 p. 18-19 ・「マークを活用して学習しよう」 p2-3 「安全」マーク p. 79-80
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・技術分野の4つの内容は、「生活や社会の技術を読み取る」、「身の回りの問題に目を向け、自分なりに問題を解決するための課題を考え、技術によって課題に取り組む」、「学習したことを社会に生かす」の順番で系統的に学習することができるように工夫されている。 ・各題材では「学習の目標・学習課題」、「学習内容（本文）」、「CHECK」の順序で構成されており、それぞれの要素が関連し合っていることで、学習の流れを捉えることができるように工夫されている。 (2) ・各内容の扉ページにて「小学校や他教科とのつながり」という項目があり、小学校や他教科との関連を確認することができるよう工夫されている。 ・「他教科」、「小学校」マークを用いることで、関連を図りながら学習を進めることができるように工夫されている。	(1) ・「技術分野の学習の流れ」 p. 14-15 ・教科書全体 (2) ・「小学校や他教科とのつながり」 p. 27、p. 107、 p. 159 p. 212 ・「マークを活用して学習しよう」 p. 2-3 「他教科」，「小学校」マーク p. 114、p. 120、 p. 131

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	技術・家庭（家庭分野）
1 年・2 年・3 年			発 行 者 名	
2 東書 家庭002－72 新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して			東京書籍株式会社	
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1) 家庭分野の学習が、「自ら生活をつくる」「消費者として意思決定する」「共に生きる」の流れで1つにつながるように構成されている。また各節には学習内容を具体的にイメージしやすいタイトルや「学習課題」が示され、学習内容を明確にすることで、生徒が見通しをもってよりよい生活の実現に向けて課題を主体的に捉えることができるよう工夫されている。		(1) 「自立と共生を目指そう」(p.12－13)
	A 家族・家庭生活	A 1編「未来につながる家庭分野」ではガイダンスに加えて、「多様な家族構成」、「中学生と家族のかかわり」に触れ、家族や地域の人々とのかかわりから協力・協働する大切さを実感した上でそれぞれの内容に入れるよう工夫されている。		A 「私たちの家族と家庭生活」 (p.20-25)
	B 衣食住の生活	B ・食生活では、調理実習の手順を見開き2ページで流れを示し、時間配分や調理のポイントなどを丁寧示すことで、調理に関する知識及び技能を身に付け、実践的な態度を育成することができるよう工夫されている。また1食分の献立を意識できる写真を掲載している。 ・衣生活では、衣服計画や必要な衣服の選択について記載され、目的に応じて計画的に衣服を購入することを考える活動を通して課題を解決する力を養い、衣生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することができるよう工夫されている。 ・住生活では、住まいの中の災害対策について考えさせるとともに、災害への備えについても詳しく掲載しており、日頃から必要な食料品や物品を備えることの重要性について主体的に学習することができるよう配慮されている。		B ・ 「野菜・いもの調理 肉じゃが」(p.76－77) ・ 「衣服計画と必要な衣服の選択」(p.138－141) ・ 「災害に備える」(p.286－287)
	C 消費生活・環境	C 身近になったコード決済やクレジットカード等キャッシュレスの仕組みなどについて具体的に取り上げること、中学生も広い視野をもって学習に取り組み、消費者として意思決定をすることができるよう工夫されている。		C 「購入方法と支払方法」(p.196－197)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) 活動例や「生活の課題と実践」など自分の考えを図式化したりグラフ化したりなど思考ツールを活用できるようにし、主体的・対話的な学習を促し、深い学びにつながるよう工夫されている。		(2) 「衣服の役割」 (p.118-119)
	(3) 地域の実態に合った配慮がされているか。	(3) 地域の食材や食文化など、自分の住む地域の文化について理解を深めることができるよう地域に伝わる伝統文化の継承を重視した内容が記載されることで、文化を大切にしていこうとする心を育むことができるよう工夫されている。		(3) 「日本の食文化と和食の調理」(pp.98－103)
	(4) 社会の変化に対応できるよう配慮されているか。	(4) 巻末に「プロの聞く！」をまとめた「学んだことを社会に生かす」を設け、内容別に職業人からのメッセージが紹介されており、働いている方の声を聞くことで、現代の社会の変化を踏まえて学習した内容をより深めることができるよう配慮されている。		(4) 「学んだことを社会に生かす」(p.284－285)

大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程 度 ・ 選 択 ・ 取 扱 に つ い て	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。 (3) 学習を安全に行う上での配慮がされているか。	(1) ・ 家庭分野ガイダンスでは、これまでの家庭生活や小学校家庭科での学びを振り返り、中学校3年間の家庭科学習の見通しをもつことができるようになっている。表紙裏、中表紙にはつながりがあり、自分の生活から未来を切り拓こうというメッセージが込められている。 ・ 各節の導入には、「始めの活動（レッツスタート）」を設け、生徒の興味・関心や意欲を高めるように工夫されている。 (2) ・ 発展的な学習内容に「発展」マークを付け、基礎的・基本的な学習内容を踏まえ、生徒の興味・関心に応じて深めていくことができるよう配慮されている。 ・ 調理・製作実習例はさまざまな難易度の題材を取り揃え、幼児との触れ合い体験はさまざまな形式の体験方法を提示し、生徒や学校の実態に応じて選択できるように工夫されている。 ・ レポート例などが充実しており、生徒が自ら学習をする際の参考として扱うことができるよう工夫されている。 (3) ・ 巻頭に、実習時の安全に関する資料を掲載し、一般的な注意事項を実習の流れに沿ってわかりやすくまとめている。 ・ 実習や技能、触れ合い体験などにおける安全や衛生のポイントには「安全」マーク、「衛生」マークを付して、生徒の意識を高めるように工夫されている。 ・ 調理実習例のページでは、食物アレルギーの原因となる食品にマークを付け、注意喚起を促している。 ・ 様々な加熱機器の種類と特徴が資料にまとめられており、学校・家庭でも安全に調理できるよう配慮されている。	(1) ・ 「p.14-17 p①②⑤⑥」 ・ 「p.30, 118, 168 他」 (2) ・ 「p.73 他」 ・ 「p.38, 121, 137 他」 (3) ・ 「p.8-9 実習を安全に進めよう」 ・ 「p.64-65 他」 ・ 「p.84 実習例」 ・ 「p.71 (資料) 加熱機器の種類と特徴」
3 組 織 ・ 配 列 等 に つ い て	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 全体の構成がA「家族・家庭生活」の一部を学習し、B「衣食住の生活」、C「消費生活・環境」、A「家族・家庭生活」の順で構成されることで、「自ら生活をつくる」から「消費者として意思決定する」、「ともに生きる」へと学びを広げ、自立から共生へ向かうストーリーを展開することができるよう配列が工夫されている。 ・ 配列を3年間の指導計画に合うよう「自立から共生」へのストーリーで展開し、教科書を頭から順に進めることで系統的に学習できるように配慮されている。 ・ タイトルと学習課題が大きくて見やすい。生活課題についての発問のあとに学習課題が提示されているため実生活に結びつけて考えることができる。活動、まとめが見開き1ページで完結しているため先を見通して学習することができる。 (2) 「リンク」マークを用いて教科間・学校種間の連携が図られ、教科関連を示す「リンク」にDマークが付いているものはQRコンテンツとして「他教科」「小学校」の関連する内容の教科書紙面をみるように工夫されている。	(1) ・ 目次 (P.③-1) ・ 「教科書の構成と使い方」 (P.2-3) (2) ・ 「p.30 食事の役割」

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	技術・家庭（家庭分野）
1年・2年・3年			発 行 者 名	
6 教図 家庭006-72 技術・家庭 家庭分野 暮らしを創造する			教育図書	
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの	特記事項	
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1) 家庭分野の学習が、「つながり」をキーワードに構成され、「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化」「持続可能な社会」の学習を積み重ねることで、将来の生活を展望して課題を解決する力を育むことができるよう工夫されている。		(1) 「つなぐ、つながる家庭分野」（口絵11-p.7）
	A 家族・家庭生活	A 家族や地域の人々とののかかわり方に関する補助的な写真やイラスト、資料などが付されることにより、生徒が家族や地域の人々とののかかわり方を重視し、よりよい家庭生活を営むことができるよう工夫されている。		A 「家族とはどんな存在だろう？」（p.14－15）
	B 衣食住の生活	B・ 食生活では、調理実習の献立例が記載され、組み合わせで調理することをできるようにしたり、調理の失敗例を提示して、調理のポイントを明確にしたりすることにより、調理の基礎的・基本的な技能を習得することができるよう配慮されている。		B・ 「いわしのかば焼き」（p.122－123）
		・ 衣生活では、衣服の手入れ方法について、手入れの一連の流れが図やイラスト、写真などで示されていることで、衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについての知識及び技能を習得することができるよう工夫されている。		・ 「洗濯機による洗濯の流れ」（p.168－169）
		・ 住生活では、日本各地の住まい方など写真やイラストを使用し、和式と洋式の住まい方を比較しながら住居の基本的な機能について学習することにより、住生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育むことができるよう配慮されている。		・ 「住まい方の変化」（p.202－203）
	C 消費生活・環境	C 生徒が自立した消費者として対応できるよう、販売方法や支払い方法では、支払い方法の多様化に触れるとともに、キャッシュレス決済についても触れることで消費者として必要な知識を習得することができるよう工夫されている。		C 「いろいろな支払い方法」（pp.234－235）
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) 「やってみよう」、「話し合ってみよう」など、実践的・体験的な活動を通して学習することができるようにするとともに、「見つめる」、「学ぶ」、「振り返る」という流れで学習を深めていくことによって、主体的・対話的で深い学びの実現を図ることができるよう工夫されている。		(2) 「健康を守る室内環境の整え方を考えよう」（p.208－209）
	(3) 地域の実態に応じる配慮がされているか。	(3) 日本の伝統的な食文化では、和食の基本だしを写真やイラストなどを用いて記載することで、生徒が自分たちの住む地域の文化を継承していくことの大切さについて考えることができるよう工夫されている。		(3) 「和食の調理をしてみよう」（p.144－147）
	(4) 社会の変化に対応できるよう配慮されているか。	(4) S D G s の目標アイコンや現代社会の課題となっている資料を掲載することで、持続可能な社会への配慮を意識しながら学習することができるよう工夫されている。		(4) 「フェアトレードのチョコレートで児童労働をなくす」（p.256）

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。 (3) 学習を安全に行う上での配慮がされているか。	(1) ・ 各編の導入ページに、自身の生活を見つめることができる「自立度チェック」が付され、生徒が普段の生活の中から課題を見つけることができるよう工夫されている。 ・ 幼児の心身の発達を学習するページでは、幼児の様子がイメージしやすいよう複数の写真が掲載されており、生徒が幼児の生活に興味・関心をもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。 (2) ・ 発展的な学習内容には、「発展」マークが付され、生徒の興味・関心や学校の実態等に応じて学習することができるよう配慮されている。 ・ 衣食住それぞれの内容で防災教育と関連させ、災害時の対策を扱うことで、発展的に学習することができるよう工夫されている。 (3) ・ 調理実習や製作実習のページでは、事故防止や衛生のために気を付けるべきことがマークで示されている。 ・ ガスコンロだけではなく、IH調理器を扱う際の主な注意点の記載があり、様々な加熱機器に対応して調理をすることができるよう配慮されている。 食物アレルギーについて、特定原材料を示すだけでなく、代替食品の例を示すなど、配慮されている。	(1) ・ 「自立度チェック」 (p. 71) ・ 「幼児の体の発達と心の発達の例」 (pp. 42－43) (2) ・ 「子どものすこやかな成長のために」 (pp. 64－65) ・ 「災害時の食生活を考えよう」 (p. 139) (3) 安全・衛生マーク p 59, 101 他 ・ 「IH調理器を扱うときの注意点」 (p. 109) ・ アレルギーへの配慮 p 99, 139, 調理実習全体
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 家族、衣食住、消費生活の3つの分野で構成されていて、それぞれの内容を相互に関連させて学ぶことができる。 ・ 知識として学ぶところは「学ぶ」などのマークがついていることで知識の習得への意識が高まる。 (2) ・ 各章導入に小学校での学びと関連付けて学習が進められるよう「関連マーク」と小学校での学習内容が記載されている。	(1) ・ 「家庭分野の学習と社会のつながり」 (P. 6-7) ・ 「栄養素の種類と働きを知ろう」 (P. 80-81) (2) 「この教科書の使い方」 (P. 8-9)

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	技術・家庭（家庭分野）
1 年・2 年・3 年			発 行 者 名	
家庭009－72 技術・家庭 家庭分野 自立しともに支え合う生活へ			開隆堂出版株式会社	
大観点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの	特記事項	
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標・内容について配慮されているか。	(1) 生活の中の課題を、中学生の目線で「自分のこと」として考えられるような構成となっており、よりよい生活の実現のために生活を工夫し創造する資質・能力を育むことができるよう工夫されている。		(1) 「家庭分野の学び方と身につけたい力」 (p. 6－7)
	A 家族・家庭生活	A 学習内容を「参考」で補足することで、多様な家族構成、中学生の時期にある自分と家族・家庭生活とのかかわりについて、家族や家庭生活にかかわる地域の人々によって自分の成長や生活が支えられていることに気付くことができるよう配慮されている。		A 「多様な家族」(p. 26－33)
	B 衣食住の生活	B・食生活では、食事の重要性や心身の成長、健康の保持増進のために望ましい栄養や食習慣等について、図表等を使って具体的に示されている。また生鮮食品の学習後に肉と魚の調理実習が取り上げられているなど、得られた知識を活用できる流れになっている。 ・衣生活では、衣服の計画的な活用において、衣服の選択や購入、手入れを取り上げ、購入から廃棄までを見通し、資源や環境を大切に、生活を豊かにしていこうとする態度を育成することができるよう工夫されている。 ・住生活では、災害に備えた住まいだけでなく、日本が自然災害が多い国であることを考慮して、日頃の備えや災害発生時の対応、災害時の生活について、災害後の生活など実例をもとに図や写真で示すとともに、具体的で詳細な記述によって、生活を見直し改善していくことができるよう工夫されている。		B・「毎日の食習慣と健康の基本」 (p. 92－93) 「生鮮食品の選択と保存」 (p. 124-149) ・「新たに衣服が必要になったとき」 (p. 200－201) ・「災害に備えた空間」(p246－255)
	C 消費生活・環境	C 消費生活の仕組みを示し、購入する際のポイントを生徒に意識させた上で、契約や販売方法、様々な支払方法について考えさせることで、計画的な金銭管理の必要性について理解を深めることができるよう工夫されている。		C 「現金以外の支払い方法」 (p. 272－273)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) 「考えてみよう」「話し合ってみよう」「やってみよう」「発表しよう」など適宜設けてあり、学習したことを生かしながら主体的・対話的・深い学びを実践することができるよう配慮されている。		(2) 「幼児期生活と家庭」 (p. 51-59)
	(3) 地域の実態にに応じる配慮がされているか。	(3) 幼児とのふれあい体験については、幼児との関わりの実習例が紹介され、地域の実情に合った体験活動を展開することができるよう工夫されている。		(3) 「ドキドキワクワクふれ合い体験」 (p. 62－67)
	(4) 社会の変化に対応できるよう配慮されているか。	(4) 「多様な家族」では、多様性を重視した家族の構成を取り上げることで、それぞれを認め合い尊重し合うことを考えさせ、様々な視点から他者を理解することができるよう工夫されている。		(4) 「様々な暮らし方」(p. 26－27)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。 (3) 学習を安全に行う上での配慮がされているか。	(1) 中学生キャラクターや、学習案内キャラクターを活用して、学習に取り組みやすいよう工夫している。基礎的・基本的な知識・技能を適切に習得できるよう配列が工夫され、発達段階、地域や学校事情等によって順序の組み替えがしやすくなるように工夫している。 (2) 防災について、本文での記述に加えて特設ページを設けている。日常的な備えの重要性などについての記述がされており、防災意識が高まるよう工夫されている。 (3) 食物アレルギーに対する正確な理解が得られる記述が本文にあり、食物アレルギーを含む食材についての情報を、調理実習例に具体的に記述している。	(1) p 20, 21、24他 p. 18-84 他 (2) 「p 156, 157, 220, 246-255」 (3) 「p 118, 128-149、155」
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 全体を通して問題解決→課題発見→計画→実践→評価・改善の順で学習を進めることによって、問題解決的な学習に取り組めるつくりが一貫している。 ・ 資料や写真が配置がわかりやすい。また、大きく載っているため見やすく、興味を惹く。 (2) 他教科や技術分野と関連するページは、「他教科・他分野との関連マーク」をつけて具体的事項が示されている。	(1) ・ 「教科書を活用しながら学習しよう」 (P. 2-3) ・ 「p. 59, p. 185, p. 276」他 「食品の名前を知っていますか」 p. 96-97 (2) 「多様な人々が暮らす地域」 (P. 80-81) 他

英 語			
英 語			
種 目			
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称			
発 行 者 名			
1 年		2 年	3 年
英語 002-72 NEW HORIZON English Course 1		英語 002-82 NEW HORIZON English Course 2	英語 002-92 NEW HORIZON English Course 3
東京書籍株式会社			
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1)	
	① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、実際のコミュニケーションの中で活用できる技能を身に付けること ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、表現し、伝え合う力を養うこと ③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うこと。	①・新出文法「Key Sentences」の後にある「Practice」では、ペアで話す活動や自分の考えを書く活動を通して、新出文法の定着を図ることができるよう配慮されている。 ・コミュニケーション能力を育成するための段階的な活動が仕組まれており、「Activity」で少しずつ積み重ねてきた内容を「Unit Activity」の自己表現活動につなげていくよう工夫されている。 ②・各学年に3回ずつ設定されている「Stage Activity」では、目的や場面、状況に応じて英語で意思や情報を伝え合う活動や、自分の考えを深めて表現につなげるようなコミュニケーション活動が仕組まれている。 ・各単元末にある「Real Life English」では、生徒の興味を引くような具体的な場面が設定がなされており、「聞く」、「話す」、「書く」の技能を高めることができるよう工夫されている。 ③・登場人物の出身国や特徴をはじめ、世界の多様な実態について題材として取り上げられており、異文化や多様性への理解を深めることができるよう工夫されている。 ・「Unit Activity」や「Real Life English」の中でペアでの活動が設定されており、生徒が自分の思いや考えを積極的に伝えることができるよう配慮されている。	
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)	
		(2)・各単元末の「Unit Activity」では、ペアで発表原稿を読み合ったりアドバイスをしたり、お互いの意見や考えを伝え合ったりする活動が設定されており、他者と考えや表現を共有した後、自分の考えを再構築することができるよう配慮されている。 ・巻末の「学習をふり返ろうCAN-DOリスト」では、領域ごとに学年末に何ができるようになるかが示されており、学習の見通しを立てたり、「Stage」ごとに学習したことを振り返ったりすることができるよう工夫されている。 ・各「Part」に、音読した回数を確認できるような記載があり、主体的な学習意欲を引き出す工夫がされている。	
		①・全学年 全「Unit」 ②・全学年 全「Stage Activity」 ・全学年 全「Unit」 ③・各「ダイバーシティメモ」や「Column」 <	

大観点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1)・ 小中の円滑な接続を意識し、1年次夏休み前までの単元をしぼり、余裕をもって学習に取り組めるよう配慮されている。「Sounds and Letters」ではフォニックス、「Enjoy Communication」では小学校で慣れ親しんだ表現が取り上げられており、既習内容を再確認しながら中学校での学習を進めることができるよう工夫されている。 ・ 今日的な課題を多く取り上げ、多様な文化や価値観への気付きを促すために、国際交流やSDGsに関する題材などを用いて、様々な事柄を自分の事として捉えることができるよう工夫されている。	(1)・ 1年「Sounds and Letters」 「Enjoy Communication」(pp.12－13) ・ 1年「Friends in New Zealand」(pp.43－49) 2年「What is important in a homestay?」 (pp.49－57) 3年「Power Your Future」(pp.92－95)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2)・ 各学年の「学び方コーナー」では、英語学習のコツがまとめられており、生徒が主体的に学習できるようQRコードから解説動画も見られるよう工夫されている。 ・ 「Grammar for Communication」や、巻末にある「帯活動用 Small Talk」では、学習した文や表現を使って、即興で自分のことを伝えることができるよう配慮されている。	(2)・ 全学年 「学び方コーナー」 ・ 全学年 「Small Talk」(巻末付録)
	(3) 学習者用デジタル教科書について、機能などは適切か。	(3)・ 「Key Sentences」の解説動画や、アニメによる導入、「Small Talk」の練習用など、動画コンテンツが充実しており、学習支援の充実が図られている。 ・ 本文や新出語句だけではなく、授業の導入や復習で活用できる「クイズ」や「Unit Activity Plus」などの資料が映像で搭載されており、生徒が興味をもって英語を学べるよう工夫されている。	(3)・ 全学年
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1)・ 各Unitの構成が、「扉」で導入、概要を把握する「Part」、考えを深めるための「Read and Think」、ゴール活動「Unit Activity」の順となっており、「扉」には単元を貫く「Unit Question」が提示され、問いを基に学習を進めることで、「Unit Activity」で自分の考えをまとめて書く活動へとつながり、段階的に学びを深めることができるよう工夫されている。 ・ 各学年3回の「Stage Activity」が設定されており、それに向けて各Unitでの活動が系統的に行うことができるよう工夫されている。	(1)・ 全学年 全Unit 2、3年 全Unit Unit Question ・ 全学年 全「Unit Activity」
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2)・ 生徒にとって身近な問題から、社会的な問題やSDGsに関連した問題まで、多岐に渡った題材が取り上げられており、多様な社会、異文化への理解を深めることができるよう工夫されている。 ・ 美術、社会、技術・家庭などの教科を、3年間で7回、英語で学ぶCLILの視点が取り入れられており、他教科との関連が図られている。	(2)・ 1年「Think Globally, Act Locally」 (pp.91－98) 2年「What is local food?」(pp.19－26) 3年「How can we help each other in a disaster?」 (pp.51－58) ・ 2年「Learning Social Studies in English」 (p.68) 3年「Learning Art in English」(p.60)

令和 7 (2025) 年度使用中学校用教科用図書調査研究資料

教科用図書の記号・番号・名称			種 目	英 語
1 年		2 年	3 年	発 行 者 名
英語 009-72 Sunshine English Course 1		英語 009-82 Sunshine English Course 2	英語 009-92 Sunshine English Course 3	開隆堂出版株式会社
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。 ① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、実際のコミュニケーションの中で活用できる技能を身に付けること ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、表現し、伝え合う力を養うこと ③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うこと。	(1) ①・ 各PROGRAMの始めにある「Scenes for Basic Dialogs」ではマンガ形式による新出表現の導入により、その使用目的や場面、状況が視覚的に理解することができるよう配慮されている。 ・ 各PROGRAMの後半に「Review」や「Review & Retell」が位置付けられており、習熟度に応じて本文の内容を自分の言葉で伝えることができるよう配慮されている。 ②・ 各単元の「Action」では、本文の内容に関連した話題が取り上げられており、その話題に関連した自己表現活動を行うことで、既習事項の定着度を確かめられるよう工夫されている。 ・ 「Speak & Write」「Power-Up」「Our Project」では、4 技能を使って実際の使用場面を想定したコミュニケーション活動が行うことができるよう工夫されている。 ③・ 題材の背景知識が必要な単元では「Tuning in」が設定されており、動画や音声を使って生徒の興味関心を引きながら、無理なく本文導入ができるよう工夫されている。また、題材も生徒の興味関心を引くものとなっており、生徒のコミュニケーション意欲をかき立てるものとなっている。 ・ 各単元の「Review & Retell」では、様々な文化を理解した上で本文内容について話し、自分の考えを付け加えながら相手に伝えられるように工夫されている。また、1年生から3年生まで段階的に自分の考えが付け加えられるよう配慮されている。		1 ①・ 全学年 全「PROGRAM」 ・ 全学年 全「PROGRAM」 ②・ 全学年 全「Action」 ・ 全学年 全「Speak & Write」「Power-Up」「Our Project」 ③・ 1年「Pajama Day」(pp.64－66) 2年「Koshien Project in Africa」(pp.22－25) 3年「Robots Can Improve Quality of LIfе.」(pp.98－101) ・ 3年 全「Review & Retell」
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 巻末の「CAN-DOリスト」では、1年間の学習を通して何ができるようになるかが示され、学習の見通しを立てたり、PROGRAMごとに学習したことを振り返ったりすることができるよう工夫されている。 ・ 単元末の「Step for Our Project」の学習を積み重ねていくことで、「Our Project」の活動で役に立つ技能を身に付けることができるよう工夫されている。また、「Our Project」では、ペアやグループで発表練習を行い助言し合うことで、英語の正確性をあげるとともに協働的な学びができるよう配慮されている。		(2)・ 巻末「CAN-DOリスト」 ・ 全学年 全「Step for Our Project」 ・ 1年「私が選んだ1枚」(pp.135－139) 2年「日本のおすすめスポットを紹介しよう」(pp.87－91) 3年「パラスポーツについて知ろう」(pp.43－47)

大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程 度 ・ 選 択 ・ 取 扱 に つ い て	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1)・ 「Scenes」の重要表現についてマンガ形式で赤字表記されていることにより、生徒が興味・関心を高め、学習することができるよう工夫されている。 ・ 「とびら」の写真が一枚大きく掲載されており、生徒の想像力をかきたて、興味・関心を喚起することができるよう工夫されている。	(1)・ 1年「Happy New Year」 (p.100) 2年「Taste of Culture」 (p.32) 3年「Japanese Bentos Are Interesting!」 (p.8) ・ 全学年 全「PROGRAM」
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2)・ 各単元末の「英語早わかり」のコーナーでは、既習の文法事項が整理されており、自らの学習を振り返ることができるよう工夫されている。 ・ 各単元末の「Review & Retell」では、段階を踏みながら思考を深めることができるよう工夫されている。	(2)・ 全学年 全「PROGRAM」 ・ 2年「New Start」 (p.14) 3年「Robots Can Improve Quality of Life」 (p.102)
	(3) 学習者用デジタル教科書について、機能などは適切か。	(3)・ ふせん機能、リンク貼付機能、速度調整機能、音声・動画視聴ボタンの配置の工夫により、自分に合った学びを選択することができるよう配慮されている。 ・ ルビ表示、文字や背景色の変更、読み上げ、文字拡大など様々な支援機能があり、生徒が主体的に学習することができるよう配慮されている。 ・ 各単元末の「英語早わかり」のコーナーでは、動きや音声をつけて文法を説明されており、個別学習においても理解しやすくなるよう工夫されている。	
3 組 織 ・ 配 列 等 に つ い て	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1)・ 4技能5領域の言語活動がバランスよく配置されており、自己表現活動においては、複数の技能・領域を統合的に行う活動が組み込まれている。 ・ 各学年で目標が示されており、3年間で8回設定されている「Our Project」では、身近な話題から社会的な話題へと段階的に視野を広げながら最終到達目標に向かうよう配慮されている。	(1)・ 全学年 全「PROGRAM」 ・ 全学年 全「Our Project」
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2)・ 各単元の「とびら」に、題材と関連のあるSDGsのアイコンが掲示されており、SDGsの17項目ほぼ全てをバランスよく取り上げることで、各課題について考えることができるよう工夫されている。 ・ 人権問題、防災教育、スポーツ教育、キャリア教育などの題材が取り上げられており、幅広く考えることができるよう配慮されている。	(2)・ 1年「The Way to School」 (pp.71－78) 2年「A Hope for Lasting Peace」 (pp.107－115) 3年「The Great Pacific Garbage Patch」 (pp.79－87) ・ 1年「Research for Australia」 (pp.81－88) 2年「Work Experience」 (pp.65－73) 3年「Hot Sport Today」 (pp.29－37)

令和 7 (2025) 年度使用中学校用教科用図書調査研究資料

英 語			
種 目			
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称			
発 行 者 名			
1 年		2 年	3 年
英語 015－72 NEW CROWN English Series 1		英語 015－82 NEW CROWN English Series 2	英語 015－92 NEW CROWN English Series 3
株式会社 三省堂			
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内容について	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。 ① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、実際のコミュニケーションの中で活用できる技能を身に付けること ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、表現し、伝え合う力を養うこと ③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うこと。	(1) ①・ 各単元の「Exercise」では、聞く、話す、書く活動を通して基本文の定着を図ることができるよう配慮されている。 ・ 各パートの始めの「check」には新出文法が取り上げられており、「Listen」でその文法事項を用いた話を聞いて概要を捉えたり、「Speak」や「Talk」で自分の考えを表現したりすることができるよう配慮されている。 ②・ 「Small Talk」では、やりとりの進め方を参考にしながら、題材と関連したトピックについてペアで思いや考えを伝え合うことができるよう配慮されている。また、各単元末にある「Goal Activity」では、既習の言語材料を用いて、書いたり話したりする活動を通して、自分の思いや考えを伝える力を育成することができるよう工夫されている。 ・ 各単元後にある「Take Action」では、様々な目的や場面、状況に応じて4技能の力を高め、生徒同士が協力して活動することができるよう工夫されている。 ③・ 生徒にとって身近な問題や、世界平和、社会的な問題など、多岐に渡った題材が取り上げられており、歴史や文化を理解することができるよう工夫されている。 ・ 社会的なトピックに対して、自分の思いや考えを書いたり、発表したりする活動が設定されており、積極的に人や社会と関わろうとする態度を養うことができるよう配慮されている。	(1) ①・ 全学年 全「Lesson」 ・ 全学年 全「check」 ②・ 全学年 全「Lesson」 ・ 全学年 全「Take Action」 ③・ 1年「School in the U.S.A.」 (pp.79－87) ・ 2年「Safe Clean Water」 (pp.45－53)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) ・ 巻末の「What Can I Do?」では、3年間の学習を通して何ができるようになるかが示されており、学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりすることができるよう工夫されている。 ・ 「Small Talk Plus+」では、会話を継続するポイントや会話を深めるときに役立つ表現が例示されており、会話を続けるための方法を考えることができるよう工夫されている。 ・ 「Project」では、インタビューやスピーチ等の準備段階で、発表をより良くするためお互いに意見を伝え合う活動が設定されており、自分の考えを広げたり、深めたりすることができるよう配慮されている。	(2)・ 巻末資料「What Can I Do?」 ・ 全学年 全「Small Talk Plus+」 ・ 1年「理想のロボット選手権」(pp.100－101) 2年「人気のあるもの調査」(pp.80－81) 3年「旅行プランの提案」(pp.36－37)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1) ・ 小学校からの学習の橋渡しとなるよう1年の最初に「Starter」のページが12ページに渡り取り上げられており、小学校で学んだ表現をイラストとともに楽しく振り返ることができるよう工夫されている。 ・ 中学生にとって身近な生活、異文化理解に関する題材を取り上げることで、生徒の知的好奇心を刺激し、学習意欲を高めることができるよう工夫されている。	(1) ・ 1年「Starter」 (pp.7-23) ・ 3年「Translating Culture」 (pp.55-63)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2) ・ 単元末にある「Language Focus」で文構造の定着を図り、「For Self Study」で自分に合った学び方を見付けることができるよう配慮されている。 ・ 「Reading Lesson」、「Further Reading」では、世界の文化への興味・関心を高める題材が扱われており、学年間及び中・高等学校間の関連を意識した、より発展的な学習につながるよう工夫されている。	(2) ・ 全学年 全「Language Focus」 全学年 全「For Self Study」 ・ 1年「Alice and Humpty Dumpty」 (pp.102-103) 2年「The Tale of Peter Rabbit」 (pp.40-43) 3年「INDIA-A Country of Diversity」 (資料pp.8-9)
3 組織・配列等について	(3) 学習者用デジタル教科書について、機能などは適切か。	(3) ・ デジタルコンテンツへのアクセス機能、フリーハンドペンやふせん機能、発音チェック機能、家庭学習モードによる音読や単語練習機能、英和辞典機能があり、学習支援の充実を図ることができるよう工夫されている。 ・ 総ルビ表示、色反転、明るさやコントラスト調整などの支援機能があり、学習環境を整えることができるよう工夫されている。	
	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1) ・ 各「Lesson」は「扉」、複数の「Scene」から成る「Part」、「Side Story」、「Goal Activity」の順で構成されており、「Part」内の「Scene」では、音声導入から本文理解へと段階的に学習を深めることができるよう配慮されている。 ・ 各学年に3回、複数の技能を統合した活動「Project」が設定され、習得した知識や技能を活用して表現活動につなげることができるよう工夫されている。	(1) ・ 全学年 全「Lesson」 ・ 1年「What Am I? クイズ」 (pp.64-65) 2年「人気のあるもの調査」 (pp.80-81) 3年「10年後の自分へのメッセージ」 (pp.106-107)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) ・ フードロス、防災、キャリア教育、環境問題、平和教育など、身近にある問題について深く考えることができるよう配慮されている。 ・ 英語を通して人権問題について考えることができるような題材が取り上げられている。	(2) ・ 1年「Emergency Food」 (pp.117-123) 2年「Water from Air」 (資料pp.2-3) 3年「A Vulture and a Child」 (資料pp.6-7) ・ 3年「Being Fair」 (pp.67-73)

令和 7 (2025) 年度使用中学校用教科用図書調査研究資料

英 語			
種 目			
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称			
発 行 者 名			
1 年		2 年	3 年
英語 017-72 ONE WORLD English Course 1		英語 017-82 ONE WORLD English Course 2	英語 017-92 ONE WORLD English Course 3
教育出版株式会社			
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。 ① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、実際のコミュニケーションの中で活用できる技能を身に付けること ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、表現し、伝え合う力を養うこと ③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うこと。	(1) ①・ 各単元の「Part」では、聞いたり話したりする活動を通して、段階を踏んで新出文法の定着を図ることができるよう配慮されている。 ・ 「Think & Try」では、本文内容の理解をもとに自分の思いや考えを伝えられるよう配慮されている。また、巻末には活動例がありそれを参考にして自分の知識や技能を高められるよう工夫されている。 ②・ 「Useful Expression」では日常的な場面が設定され、その場面で活用できる単語や表現が複数提示されており、実際の場面で対話することができるよう配慮されている。 ・ 単元後にある「Tips」では、各技能を高めるためのポイントが紹介されており、それを参考にしながら「Activities Plus」では即興的なやり取りの力を伸ばせるよう工夫されている。 ③・ 日本と外国の学校生活やジェスチャーの違い、外国の歴史や文化について考える題材が設定されており、外国語の背景にある文化に対する理解を深めることができるよう配慮されている。 ・ 単元の「扉ページ」には「Goal」、その単元末には「Task」が設定されており、生徒が見通しをもって各「Part」を学習することができ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができるよう工夫されている。	(1) ①・ 全学年 全「Lesson」 ・ 全学年 全「Lesson」 ②・ 1年「体調不良」(p.139) 2年「飲食店」(p.46) 3年「交通機関の乗り換え」(p.33) ・ 1年「Tips for Speaking④」(p.141) ・ 2年「Tips for Listening②」(p.95) ・ 3年「Tips for Writing①」(p.62) ③・ 1年「School Life in Two Countries」(pp.77-85) 2年「Gestures and Sign Language」(pp.117-125) 3年「Aya's Homestay in Vancouver」(pp.11-19) ・ 全学年 全「Lesson」
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 巻末の「Can-Do自己チェックリスト」では、技能ごとに学習到達目標が教科書内の関連箇所とともに示され、学習の見通しを立てたり、学習したことを振り返ったりすることができるよう工夫されている。 ・ 「Project」では、図や表を使うなど段階を踏んで、自分の考えを引き出し、深め、まとめられるよう工夫されている。	(2)・ 全学年「Can-Do自己チェックリスト」(巻末) ・ 1年「My Favorite Person」(pp.70-73) 2年「Ideas for Change」(pp.44-45) 3年「Let's Try Debating」(pp.103-106)

大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程 度 ・ 選 択 ・ 取 扱 に つ い て	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1) ・ 1 年「Springboard」では小学校の学習内容を確認することできるとともに、「Lesson1」と「Lesson2」ではマンガのレイアウトになっており、無理なく中学校での学習に進んでいけるように配慮されている。 ・ 1 年では身近な話題、2 年では多様な社会や文化の理解、3 年では進路や将来のを中心、自分の考えを広げることができる題材となるよう工夫されている。	(1) ・ 1 年「Springboard」(pp.6－19) 1 年「Lesson1」(pp.22－27) 1 年「Lesson2」(pp.34－38) ・ 1 年「Club Activities」(pp.47－57) 2 年「How to Celebrate Halloween」(pp.61－70) 3 年「Be Yourself」(pp.63－72)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2) ・ 各単元に「Grammar」のページが設けられており、文法事項の復習をすることができるよう配慮されている。 ・ 巻末には、「不規則動詞変化表」や「分野別用語集」、「語形変化のまとめ」などがまとまってあり、学習者はその都度、振り返ることができるように配慮されている。	(2) ・ 全学年 全「Lesson」 ・ 1 学年「不規則動詞変化表」(p.156) ・ 2 学年「分野別用語集」(p.157) ・ 3 学年「語形変化のまとめ」(p.136)
3 組 織 ・ 配 列 等 に つ い て	(3) 学習者用デジタル教科書について、機能などは適切か。	(3) ・ 音声再生、カラオケ表示、速度調整、録音・再生、動画や学習シートへのアクセスなどの機能があり、自ら学習を調整しながら習得することができるよう配慮されている。 ・ 「Key Sentence」の音声認識機能があり、基本文型の定着のため、自分の発した英語が文字化され、発音や文型の確認をすることができるよう工夫されている。	
	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1) ・ 各「Lesson」は「扉」、「Part」、「Task」の順で構成されており、段階的に学ぶことができるよう配慮されている。 ・ 各学年に 3 回、複数の技能を統合した活動「Project」が設定されており、身に付けた知識や技能を活用して表現活動につなげることができるよう工夫されている。	(1) ・ 全学年 全「Lesson」 ・ 全学年 全「Project」
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) ・ 身近な話題を中心に、日本と外国の地理や文化、食品ロスと食品衛生、偉人についてなどの話題が取り上げられている。 ・ 理科、社会、道徳など他教科と関連した題材が取り上げられ、教科横断的な学びができるよう配慮されている。	(2) ・ 1 年「School Life in Two Countries」(pp.77－85) 2 年「Rakugo in English」(pp.107－115) 3 年「Lighting Up A Corner」(pp.48－52) ・ 1 年「A Better World for Everybody」(pp.129－137) 2 年「Assistance Dogs」(pp.11－19) 3 年「The Eagles of Hokkaido」(pp.23－31)

令和 7 (2025) 年度使用中学校用教科用図書調査研究資料

英 語			
種 目			
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称			
発 行 者 名			
1 年		2 年	3 年
英語 038－72 Here We Go! ENGLISH COURSE 1		英語 038－82 Here We Go! ENGLISH COURSE 2	英語 038－92 Here We Go! ENGLISH COURSE 3
光村図書出版株式会社			
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。 ① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、実際のコミュニケーションの中で活用できる技能を身に付けること	(1) ①・ 小学5年から中学3年の5年間を通して学習する内容にストーリー性があり、身近な日常の場面や状況の中で描かれている4人の中学生のストーリーを通して、実際に活用できる知識として習得することができるよう工夫されている。 ・ 各Partの「Speak」では、ストーリー内にある表現を使ってペアで対話活動を行うことで、使用場面と働きが一致するよう工夫されている。	(1) ①・ 全学年 全「Unit」 ・ 全学年 全「Part」 ②・ 全学年 全「Unit」 ・ 全学年「Daily Life」 ③・ 1年「Hi, David!」(pp.72－81) 2年「Plans for the Summer」(pp.31－39) 3年「Virtual Safari Tour」(pp.8－17) ・ 全学年 全「Speak」 全学年 全「Let’s Talk!」
	② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、表現し、伝え合う力を養うこと ③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うこと。 (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	②・ 各単元の最後にある「Goal」では、本文の内容を基に、語句や適切な表現を参考にしながら自分の考えを表現することができるよう工夫されている。 ・ 「Daily Life」では、「注文」や「道案内」など言語使用目的・場面・状況が明確になっており、実社会の言語使用場面での対応力が身につくよう工夫されている。 ③・ 海外の中学生と「学校生活」をテーマに意見交換をしたり、シンガポールへ旅をしたりするなどの題材を通して、外国語の背景にある文化に対する理解を深めることができるよう配慮されている。 ・ 各パートの「Speak」及び巻末の「Let’s Talk!」を帯活動として継続的に活用し、即興的なやり取りをすることで、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができるよう工夫されている。	(2)・ 全学年 巻末「CAN-DO List」 ・ 全学年 巻末「Let’s Talk!」 ・ 全学年「You can do it!」

大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程 度 ・ 選 択 ・ 取 扱 に つ い て	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1)・ 小学校での学習内容を踏まえた「Let's Be Friends!」では、コミュニケーション活動を中心とした復習を通して、中学校への学習に入りやすいよう配慮されている。 ・ 生徒にとって、身近な題材を扱うことで、興味をもって読むことができるよう工夫されている。そして、自分の事として捉え、自己表現につなげることができるよう配慮されている。	(1)・ 1年「Let's Be Friends!」(pp.6－23) ・ 1年「Cheer Up, Tina」(pp.84－93) 2年「Working Together」(pp.91－99) 3年「The Chorus Contest」(pp.71－79)
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2)・ 文法事項のまとまりごとに、「Active Grammar」が設定されており、既習事項の復習ができるようになっている。さらに、補充的学習につなげることができるよう配慮されている。 ・ 巻末帯教材として、全学年に「Story Retelling」のページがあり、発展的な学習につなげることができるよう工夫されている。	(2)・ 全学年「Active Grammar」 ・ 全学年「Story Retelling」(巻末帯教材)
	(3) 学習者用デジタル教科書について、機能などは適切か。	(3)・ 色の反転、読み上げ、ふりがな表示、文字拡大、明るさ調節などの機能により、個別の学習支援に対応することができるよう配慮されている。 ・ 本文の再生動画が実写でも作成されており、会話の設定場面が想像しやすく興味関心を引けるよう配慮されている。	
3 組 織 ・ 配 列 等 に つ い て	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1)・ 各「Unit」は「扉」、「Part」、「Goal」の順で構成されており、単元末の活動が明確になっており、単元を貫く活動ができるよう配慮されている。 ・ 各学年に3回、複数の単元で学んだことを生かして取り組むことができる「You Can Do It!」が設定され、習得した知識や技能を活用して表現活動につなげることができるよう工夫されている。また、学年をおって話題が広がるよう工夫されている。	(1)・ 全学年 全「Unit」 ・ 全学年 全「Unit」 全学年「You Can Do It!」
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2)・ SDGsに関する題材を幅広く取り上げられ、持続可能な社会について考え、行動を起こすきっかけとなるように、工夫されている。 ・ 人権、情報、防災・安全などの題材が扱われており、世界における課題に気付くとともに、世界各国の地理や文化、美術館などの題材を通して、社会や美術等の他教科との関連が図られるよう工夫されている。	(2)・ 2年「How Do We Stay Safe?」(pp.59－67) 3年「Virtual Safari Tour」(pp.8－18) ・ 2年「Daily Life Scene 7」(p.88) 3年「My Dreams for the Future」 (pp.61－70)

令和 7 (2025) 年度使用中学校用教科用図書調査研究資料

英 語			種 目	
発 行 者 名			教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称	
1 年		2 年		3 年
英 語 061-72 BLUE SKY English Course 1		英 語 061-82 BLUE SKY English Course 2		英 語 061-92 BLUE SKY English Course 3
株式会社新興出版社啓林館				
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果		
		小観点及び全体的なもの		特記事項
1	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。 ① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解し、実際のコミュニケーションの中で活用できる技能を身に付けること ② コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、表現し、伝え合う力を養うこと ③ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うこと。 (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(1) ① ・ 全Unitにおいて、「Listen」、「Speak」、「Write」が順番に設定されており、単元のTargetで身につけるべき表現の使用場面や状況を確認したり、反復練習をしたりすることで4技能がバランス良く習得できるよう工夫されている。 ・ 新出語句のうち、重要度が高い英単語は太字で示されており、語彙指導に軽重がつけられるよう工夫されている。また、小学校で「聞く」「話す」で慣れ親しんだ語彙を「小Words」として掲載し、小中連携が意識できるよう配慮されている。 ② ・ 「Let's Talk」では、コミュニケーションの目的・場面・状況が明確になっており、実生活に即した身近な題材を通して、場面特有の表現も身に付けられるよう工夫されている。 ・ 各単元にある「Think & Speak」、「Think & Write」では、Unitで学んだ言語材料を活用して、自分の考えを書いたり発表したりすることを通して、表現する力を高めることができるよう配慮されている。 ③ ・ S D G sに関連した題材が取り上げられており、社会や異文化への理解を深めるとともに、持続可能な社会を目指そうとする態度を養うことができるよう工夫されている。 ・ 各Unitにある「Enjoy Chatting」では、本文内容に関連した問いが設定されており、異文化に対する理解を深めた上で、即興的なやり取りができるよう工夫されている。 (2) ・ 巻末の「CAN-DOリスト」では、1年間の学習を通して何ができるようになるかが示され、学習の見通しを立てたり、PROGRAMごとに学習したことを振り返ったりすることができるよう工夫されている。 ・ 「英語の学び方」では、音読・やり取り・長文読解など、語彙・音声・表現の観点から学習に役に立つコツを紹介しており、生徒が自分自身で英語学習を薦められるよう工夫されている。 ・ 「Project（技能統合型の言語活動）」では、既習事項を活用して段階的に自分が伝えたい内容を整理する活動が設定されている。また、スピーチの発表を聞いたり原稿を読んだりして、互いに質問や改善点を助言し合うことで、自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう工夫されている		(1) ① ・ 全学年 全「Unit」 ・ 全学年 全「Unit」 ② ・ 1年 「お願い」 (p.121) 2年 「道案内」 (pp.60-61) 3年 「投稿文への意見を書こう」 (p.100) ・ 全学年 「Think & Speak」 「Think & Write」 ③ ・ 1年 「Plastic Waste」 (pp.113-122) 2年 「Food Diversity」 (pp.109-118) 3年 「Working in the World」 (pp.77-87) ・ 全学年 全Part (2) ・ 巻末「CAN-DO List」 ・ 全学年 「英語の学び方」 ・ 1年 「好きな人や尊敬する人を紹介しよう」 (pp.96-97) 2年 「 Sharing Japanese Culture with the World」 (pp.44-45) 3年 「This Is All About Me -Autobiography-」 (pp.90-91)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1)・ 1年「Let's Start」では、小学校の学びを振り返ることができるようまとめられているとともに、中学校での学習内容にスムーズにつなげることができるよう配慮されている。 ・ 学習段階に応じて、聞く・読む分量を増やしたり、興味・関心を引きつける多様な題材を扱うことで、深い学びを実現できるよう配慮されている。	(1)・ 1年「Let's Start」(pp.4-10) ・ 1年「Club Activities」 2年「Food Diversity」 3年「Working in the World」
	(2) 補充的な学習、発展的な学習について配慮されているか。	(2)・ 各技能を伸ばすために、「Let's Listen」、「Let's Read」、「Let's Speak」、「Let's Write」が設定されており、各技能領域の力・実生活に即した発展的な学習につなげることができるよう工夫されている。 ・ 「Focus on Form」では、文法事項が系統的に整理されており、さらに「Your Turn」のコーナーでは、それらを活用して自分のことについて書いたり伝えたりすることで、より発展的な学習につなげることができるよう工夫されている。	(2)・ 1年「校舎の案内」(p.63) 2年「週末の天気予報」(p.16) 3年「中学校生活で打ち込んできたことを書こう」(p.62) ・ 1年「動名詞/to+動詞の原形」(pp.99) 2年「助動詞」(pp.130-131) 3年「現在完了形/現在完了進行形」(p.28)
3 組織・配列等について	(3) 学習者用デジタル教科書について、機能などは適切か。	(3)・ 再生速度調整機能、字幕切替機能、書き込み機能、タイマー、フラッシュカードなどがあり、主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ Target(新出文構造・文法)の解説動画では、既習事項との繋がりが明確に説明されており、授業の復習や自学自習に活用できるよう設定されている。	
	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1)・ 1年では、各Unitが「とびら」、「Part」、「Think & Speak / Write」の順で、2、3年では、「とびら」、「Part」、「Read / Listen & Think」、「Think & Speak / Write」の順で構成されており、知識及び技能を活用して表現活動につなげることができるよう配慮されている。 ・ 3年間8回で構成されているProject（技能統合型の言語活動）では、それまでに身に付けた知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を活用して取り組む内容となっており、活動の目的・場面・状況を理解した上で自分の考えなどを表現できるよう工夫されている。	(1)・ 全学年 全「Unit」 ・ 全学年 全「Project」
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2)・ S D G s と関連のある話題を豊富に取り入れ、その題材を通して日本や世界が抱える課題を正しく知り、自分のこととして捉えながら「自分ならどうするか」などを考えることができるよう、工夫されている。 ・ 防災教育やキャリア教育のほか、今日的な課題等が取り上げられており、それらに対する意識を高めることができるよう工夫されている。	(2)・ 1年「Plastic Waste」(pp.113-119) 2年「What is Your Dream?」(pp.63-72) 3年「Living Side by Side」(pp.31-40) 2年「Preparing for Natural Disasters」(pp.49-58) 3年「Working in the World」(pp.77-87)

道 徳			
発 行 者 名			
東京書籍株式会社			
種 目			
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称			
1 年			
2 年			
3 年			
道徳 002-72			
道徳 002-82			
道徳 002-92			
新編 新しい道徳 1			
新編 新しい道徳 2			
新編 新しい道徳 3			
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1) 全学年を通して、A 21、B 21、C 42、D 21の教材で構成され、各学年における観点ごとの教材数が統一されている。	(1) 内容項目の観点別教材数 1 年 (35) A 7 B 7 C 14 D 7 2 年 (35) A 7 B 7 C 14 D 7 3 年 (35) A 7 B 7 C 14 D 7
	A 主として自分自身に関すること	A 全学年の〔自主、自律、自由と責任〕において、いじめ問題を直接的に扱う教材が取り上げられている。また、教材文やイラスト、漫画などの教材を通して善悪を判断し、自分の行動に責任をもつことの重要性について考えることができるよう配慮されている。	A 1 年「傍観者でいいのか」(pp. 25－27) 2 年「あの子のランドセル」(pp. 28－30) 3 年「いじめから目をそむけない」(pp. 33－35)
	B 主として人との関わりに関すること	B 〔友情、信頼〕において、「学年間連携教材」があり、3 年間を通して、発達の段階に応じた友人との関わり方について、考えを深めることができる教材が取り上げられている。また、著名な作家が中学生に向けて書いた物語では、登場人物が友情を育んでいく様子を自分のこととして捉えることができるよう配慮されている。	B 1 年「出会い－アンドロイドと不気味の谷」(pp. 90－93) 2 年「気づき－ドッジボールと僕らの温度差」(pp. 169－172) 3 年「語らい－私たちが会おう新しい私たち」(pp. 98－101)
内 容 に つ い て	C 主として集団や社会との関わりに関すること	C 全学年で、〔遵法精神、公德心〕、〔公正、公平、社会正義〕、〔社会参画、公共の精神〕、〔勤労〕などにおいて、二つ以上の教材を取り上げ、重点化している。他の内容項目については、学年ごとに別の内容を重点化するなど、集団や社会との関わりについてさらに考えを深めて学ぶことができるよう工夫されている。	C 1 年「新しいプライド」(pp. 45－48) 2 年「『いいね』のために」(pp. 54－56) 3 年「たんぼぼ作業所」(pp. 59－63)
	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	D 全学年で〔生命の尊さ〕の項目に関する教材が三つずつ掲載されており、複数教材をユニット化し、「生と死」、「生命の誕生」や「臓器移植」などの教材を連続して掲載することで、命の大切さについて多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。	D 1 年「決断！ 骨髄バンク 移植第一号」(pp. 68－72) 2 年「妹に」(pp. 78－81) 3 年「人間の命とは」(pp. 71－72)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) ・ 「Plus (プラス)」では、教材の内容に関する資料が掲載されており、生徒の視野を広げたり、道徳的な問題を自分のこととして捉えたりすることで、主体的に学ぶことができるよう工夫されている。 ・ 全学年で、話合いの手順やルールが示されており、生徒が手順やルールに則って、互いに対話をしながら学習を進めることで、学びを深めることができるよう工夫されている。	(2) ・ 1 年「あなたがとるべき避難行動は？」(p. 76) 2 年「あいさつ体験をしよう」(pp. 122－123) 3 年「十七歳、選挙について考えてみた」(p. 91)
	(3) 多様な題材を教材とすることについて配慮されているか。	(3) 「いのちを考える」というユニットが、全学年に設けられているとともに、現代的な課題として新たに「防災教育」の教材がユニット内に設けられ、豪雨、地震、津波等の災害について、対話文や体験文、論説文を通して、登場人物が葛藤する場面について議論をすることで、命を守るための判断力を育成することができるよう工夫されている。	・ 1 年「探究の対話p4c (ピーフォーシー)」(pp. 106) 2 年「探究の対話p4c (ピーフォーシー)」(pp. 92) 3 年「探究の対話p4c (ピーフォーシー)」(pp. 110)
			(3) 1 年「夕暮れどきの避難」(pp. 73－75) 2 年「水辻村の決断」(pp. 83－85) 3 年「避難所での出来事」(pp. 73－75)

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取扱 について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習の取扱いについて配慮されているか。	(1) ・ 全学年を通して、共通した内容(道徳×情報モラル)、(道徳×防災)が配列されており、3年間を通して継続して学習をすることで、生徒が自分の生活と関連付けながら考えることができるよう工夫されている。 ・ 3年間を通じて情報モラルを題材とした教材やコラムが掲載され、身近に起こる今日的な問題を取り扱うことで、生徒が興味・関心をもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。 (2) 役割演技等の体験的な学習ができるような教材が、全学年において設定されており、生徒が登場人物の立場に立って考えることで、教材を自分のこととして捉え、考えを深め、話し合うことができるよう工夫されている。	(1) ・ 1年「よごれた教科書」(pp. 85－89) 2年「ゴール」(pp. 134－138) 3年「合格通知」(pp. 36－40) ・ 1年 p. 44 2年 p. 57 3年 p. 40 (2) 1年「山に来る資格がない」(pp. 34－39) 2年「一冊のノート」(pp. 34－41) 3年「缶コーヒー」(pp. 138－143)
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ いじめ問題と生命尊重の教材をそれぞれ一つのテーマとして扱うとともに、いじめ問題、生命尊重、情報モラルなど自己肯定感を育む教材は、時期を考慮し、全学年同時期に配列されており、道徳性を養うことができるよう工夫されている。 ・ 各学年の教科書は、本編教材、「Plus(プラス)」(コラム)、付録教材の三つで構成されており、コラムや付録教材を活用することで、生徒が考えをさらに深めたり、広げたりするきっかけとなり、道徳性を養うことができるよう配慮されている。 (2) ・ 教材の冒頭に他教科等との関連を示すマークや、巻末の「教材一覧表」に、他教科との関連が明示されており、他教科との関連を意識しながら学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 特別活動(学級活動・生徒会活動・学校行事)等の学校生活と関連させることで、生徒が学校生活を振り返りながら深く考えることができるよう配慮されている。	(1) ・ いじめ問題 (1年pp. 22－33、2年pp. 24－33、3年pp. 24－35) 生命尊重 (1年pp. 64－79、2年pp. 72－86、3年pp. 66－76) ・ 1年「いじめの構造」(p. 28) 2年「怒りの感情との付き合い方」(p. 138) 3年「ぶつかった？ぶつかってきた？」 (p. 128) (2) ・ 1年「火の鳥」(pp. 144－149) 2年「和食のこころ」(pp. 19－22) 3年「伝えたいことがある」(pp. 111－115) ・ 1年「金賞を目指して」(pp. 77－79) 2年「みんなでとんだ！」(pp. 87－91) 3年「熱球の軌跡」(pp. 41－44)

道 徳			種 目		
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称			発 行 者 名		
1 年		2 年		3 年	
道徳 017-72 中学道徳 1 とびだそう未来へ		道徳 017-82 中学道徳 2 とびだそう未来へ		道徳 017-92 中学道徳 3 とびだそう未来へ	
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果			
		小観点及び全体的なもの		特記事項	
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1) 全学年を通して、A 23、B 21、C 39、D 22の教材で構成されている。		(1) 内容項目の観点別教材数 1 年 (35) A 8 B 8 C 12 D 7 2 年 (35) A 8 B 7 C 14 D 6 3 年 (35) A 7 B 6 C 13 D 9	
	A 主として自分自身に関すること	A [節度，節制]において、中学生の日常生活での出来事を取り上げた教材が掲載されており、安全に配慮して生活することや望ましい生活習慣について、自分のこととして考えることができるよう工夫されている。		A 1 年「古びた目覚まし時計」(pp.172－176) 2 年「SNSとどうつき合う？」(pp.66－69) 3 年「歩きスマホをどうするか」(pp.72－74)	
	B 主として人との関わりに関すること	B [相互理解，寛容]の教材が各学年で二つずつ掲載されており、特に「いじめ問題」を取り扱った教材が年度当初に配置され、入学後や進級後などの早い段階でいじめ問題について触れることで、対人関係について深く考えることができるよう配慮されている。		B 1 年「二人の言い分」(pp.22－25) 2 年「最優秀」(pp.28－33) 3 年「あなたは顔で差別しますか」(pp.38－43)	
	C 主として集団や社会との関わりに関すること	C [社会参画，公共の精神]について1年で一つ、2年で二つ、3年で三つの教材が取り上げられており、3年間を通じて集団や社会との関わりや、現代的な課題について重層的に学ぶことで、主体的に社会に参画しようとする態度を涵養することができるよう工夫されている。		C 1 年「選ぶということ」(pp.104－107) 2 年「まだ食べられるのに」(pp.88－91) 3 年「平和をつなぐ」(pp.92－97)	
	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	D 各学年とも〔生命の尊さ〕に関する教材が複数配置されており、特に自他の生命を尊重し、自分らしく生きることに関心をもち、生命尊重への考えを深めていくことができるよう配慮されている。		D 1 年「よく生きること、よく死ぬこと」(pp.146－149) 2 年「たったひとつのたからもの」(pp.144－149) 3 年「家族の思いと意思表示カード」(pp.140－141)	
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 各教材で「学びの道しるべ」が構造化された三つの問いで構成されており、教材を通して自分なりの問題意識をもち、主体的に考え、これからの生き方について考えを深めることができるよう工夫されている。		(2)・ 1 年「『ちがいがい』について考えよう」(pp.96－101) 2 年「わたしのせいじゃない」(pp.114－119) 3 年「僕は友達を裏切ったのか」(pp.18－25)	
	(3) 多様な題材を教材とすることについて配慮されているか。	・ 「ひろば」というコラムでは、葛藤や問題を自分のこととして考え、話し合いたくなるような教材を掲載し、話し合い活動を通して、多様な見方や意見に触れ多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。		・ 1 年「自分も相手も大切にしたい伝え方をしよう」(pp.26－27) 2 年「SNSについて考えよう」(pp.70－71) 3 年「歩きスマホについての意識調査」(p.75)	
				(3) 1 年「ショートパンツ初体験in America」(pp.92－95) 2 年「『べつの道』へ～レイチェル＝カーソンのメッセージ～」(pp.94－99) 3 年「変わりゆく地球」(pp.98－101)	

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取扱 について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習の取扱いについて配慮されているか。	(1) ・ 人とのつながりや社会参画など、発達の段階に応じた悩みや課題について考える教材が配列されており、よりよい人間としての生き方や自分の生活について考えたりすることができるよう工夫されている。 ・ 中学生にとって身近な課題であるいじめを題材にした資料に、漫画が取り入れられており、生徒が内容を理解しやすくしたり、自分のこととして考えたりすることができるよう工夫されている。 (2) 「やってみよう」では、役割演技、リフレーミング、ケーススタディ的に演じる活動などが設定されており、登場人物の立場に立って考えることで、問題を自分のこととして捉え、解決方法を見いだすことができるよう工夫されている。	(1) ・ 1年「自分で決める」(pp. 38－41) 2年「由紀のいら立ち」(pp. 120－123) 3年「若者議会」(pp. 118－121) ・ 1年 p. 24 2年 p. 49 3年 p. 44 (2) 1年「裏庭のできごと」(pp. 58－63) 2年「地下鉄で」(pp. 132－137) 3年「校長先生の模擬面接」(pp. 104－107)
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 重要課題であるいじめ問題への対応については、複数教材とコラムからなるユニットが設定されており、多様な視点から学ぶことで、いじめに対する考えを深めることができるよう配慮されている。 ・ 各学年の教材が、生徒の発達の段階に即した内容と文章量で構成されており、考え、議論する時間を十分に確保することができるよう配慮されている。 (2) ・ 巻末の「内容項目別一覧表」で他教科等との関連が示されており、学校教育全体を通じて行う道徳教育の要として、他教科と連携を図ることができるよう配慮されている。 ・ 各学年に設けられているコラムでは、人権やSDGs、特別活動等とのつながりが深い内容が取り上げられており、今日的な課題や学校生活と関連した学びを充実させることができるよう配慮されている。	(1) ・ いじめ等の人権問題 1年「あなたならどうしますか」(pp. 28－31) 2年「あなたの声、心に届け」(pp. 22－25) 3年「卒業文集最後の二行」(p30－35) ・ 1年「ともだち」(pp. 8－11) 2年「『金のおの』その後」(pp. 128－131) 3年「足袋の季節」(pp. 150－153) (2) ・ 1年「ヤクーバとライオン」(pp. 54－57) 2年「サッカーの種をまく」(pp. 176－179) 3年「無限の道」(pp. 62－65) ・ 1年「幸せな仕事って」(pp. 118－123) 2年「先輩」(pp. 18－21) 3年「旅立ちの日に」(pp. 154－159)

道 徳			
種 目			
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称			
発 行 者 名			
1 年		2 年	3 年
道徳 038-72 中学道徳 1 きみが いちばん ひかる とき		道徳 038-82 中学道徳 2 きみが いちばん ひかる とき	道徳038-92 中学道徳 3 きみが いちばん ひかる とき
光村図書出版株式会社			
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。 A 主として自分自身に関すること B 主として人との関わりに関すること C 主として集団や社会との関わりに関すること D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	(1) 全学年を通して、A 23、B 19、C 35、D 22の教材と内容項目を限定しない六つの教材（オリエンテーションと1年間の学びの振り返り）で構成されている。 A 全学年で〔自主、自律、自由と責任〕の教材が複数回取り上げられ、確かな学習経験となるよう重点化が図られている。また、自主的に判断、行動し、その結果に責任をもつことの大切さについて考えることができるよう配慮されている。 B 1、2年では〔友情、信頼〕の教材が、3年では〔相互理解、寛容〕の教材が取り扱われており、「いじめ問題」について、全学年でユニットによる学習を行うことで、生徒が自分のこととして考えることができるよう工夫されている。 C 全学年で〔遵法精神、公德心〕において付録も含め、二つ以上教材が配置されており、重点的に学ぶことができるよう配慮されている。また、1、2年では〔遵法精神、公德心〕を扱った教材が連続して配置されており、考えを深めることができるよう工夫されている。 D 各学年とも〔生命の尊さ〕に関する教材が三つずつ掲載されており、重点化が図られている。それらの教材を通して生命の連続性、有限性、偶発性に触れながら、様々な視点から生命について考えることができるよう配慮されている。	(1) 内容項目の観点別教材数 1 年 (33) A 7 B 6 C 12 D 8 2 年 (33) A 7 B 7 C 12 D 7 3 年 (33) A 9 B 6 C 11 D 7 オリエンテーション 各学年1 ずつ 振り返り 各学年1 ずつ A 1 年「自分で決めるって？」 (pp.16－18) 2 年「二番目の悪者」 (pp.158－163) 3 年「インターネットの中の社会で」 (pp.91－93) B 1 年「親友」(pp.34－37)〕 2 年「『いじり』って」 (pp.43－45) 3 年「アイツとオレ」 (pp.45－50) C 1 年「仏の銀蔵」 (pp.104－108) 2 年「民主主義と多数決の近くて遠い関係」 (pp.101－104) 3 年「漫画泥棒」 (pp.87－90) D 1 年「エルマおばあさんからの『最後の贈り物』」 (pp.140－144) 2 年「つながる命」 (pp.93－95) 3 年「命と向き合う」 (pp.164－169)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) ・ 「考えよう」では、問題を解決するための3ステップに沿って話し合いをすることで、互いの対話を通して、主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 各学年の巻末資料「まなびの道具箱」では、イメージマップを用いて問いに対する考えを整理したり、PMIシートを用いて話し合いを活性化させたりすることができるよう工夫されている。	(2) ・ 1 年「みんなで成功させよう」 (pp.51－55) 2 年「テニス部の危機」 (pp.46－50) 3 年「私たちの合唱祭」 (pp.51－55) ・ 1 年「まなびの道具箱」 (pp.180－181) 2 年「まなびの道具箱」 (pp.188－189) 3 年「まなびの道具箱」 (pp.188－189)
	(3) 多様な題材を教材とすることについて配慮されているか。	(3) 全ての学年に〔生命の尊さ〕をテーマにした教材が三つずつ位置付けられており、人の生命のみならず、動物の生命についても扱われている。また、多くの写真や詩、グラフ等が資料として提示されており、生徒が自他の生命の大切さについて深く考えることができるよう配慮されている。	(3) 1 年「動物の命」(pp.100－103) 2 年「命が生まれるその時に」 (pp.25－28) 3 年「『リクエスト食』に込められた思い」 (pp.30－33)

大観点	小観点	調査の結果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1) ・ 全学年に「本質を探ろう」のページが設けられており、3年間を通して、考え、議論し、「対話を通した合意形成」を図る力を育むことができるよう配慮されている。 ・ 3年間の中で、発達の段階に応じて、勤労観を養い、社会の一員としてどう生きるべきかを考えたり、自己を見つめ、進路選択や自己実現に向けて、考えたりすることができるよう工夫されている。	(1) ・ 1年「感動の本質を探ろう」(pp. 160－163) 2年「尊重の本質を探ろう」(pp. 128－131) 3年「学びの本質を探ろう」(pp. 160－163) ・ 1年「私が働く理由」(pp. 112－116) 2年「段ボールベッドへの思い」(pp. 66－69) 3年「働く姿から見えるのは？」(pp. 72－75)
	(2) 問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習の取扱いについて配慮されているか。	(2) 「チャレンジ」の「問いを立てよう」や「演じて考えよう」では、問題解決的な学習の具体的な手順が示されており、役割を決めて演じることで、道徳的価値について考えを深め、自ら問いを立てて話し合いを進めることができるよう工夫されている。	(2) 1年「裏庭での出来事」(pp. 70－75) 2年「松葉づえ」(pp. 51－57) 3年「私がピンク色のキャップをかぶるわけ」(pp. 21－25)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1) ・ 「いじめ問題」については、複数時間で取り組む「ユニット」のテーマとして掲載されており、様々な内容項目から「いじめ問題」について考えることで、「いじめ」をしない、させない、見過ごさないという意識を継続して高めることができるよう工夫されている。 ・ 学校生活の実態と生徒の成長を踏まえて、ユニットが構成されており、ユニットのテーマに沿って教材を通じて学ぶ内容項目がつながるよう配列が工夫されている。	(1) ・ いじめ問題 1年「魚の涙」(pp. 40－43) 2年「明日、みんなで着よう」(pp. 39－42) 3年「小さな出来事」(pp. 36－39) ・ 1年「中学生として、どんな自分でありたい？」(pp. 6－31) 2年「上級生として、どんな自分でありたい？」(pp. 6－33) 3年「最上級生として、行動していくためには？」(pp. 6－33)
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) ・ 巻末の「内容項目別一覧」において、他教科との関連を意識した教材が取り上げられており、道徳的価値の理解を深めることができるよう配慮されている。 ・ 教材末にある「つなげよう」では、各教科や特別活動、学校行事との関連、関連図書の紹介などが示されており、道徳科での学びが他教科や日常生活とつながりがあることを実感できるよう配慮されている。	(2) ・ 1年「レタス博士」(pp. 47－50) 2年「人って、本当は？」(pp. 58－61) 3年「好いとっちゃん、博多」(pp. 98－101) ・ 1年「ひまわり」(pp. 56－59) 2年「スカイツリーにかけた夢」(pp. 139－143) 3年「一票を投じることの意味」(pp. 108－112)

道 徳			
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称			発 行 者 名
1 年		2 年	3 年
道徳 116-73 中学道徳 あすを生きる 1 道徳 116-74 中学道徳 あすを生きる 1 道徳ノート		道徳 116-83 中学道徳 あすを生きる 2 道徳 116-84 中学道徳 あすを生きる 2 道徳ノート	道徳 116-93 中学道徳 あすを生きる 3 道徳 116-74 中学道徳 あすを生きる 3 道徳ノート
日本文教出版株式会社			
大 観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内 容 に 関 し て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1) 全学年を通して、A 20、B 20、C 43、D 22の教材で構成されている。	(1) 内容項目の観点別教材数 1 年 (35) A 7 B 7 C 14 D 7 2 年 (35) A 6 B 7 C 14 D 8 3 年 (35) A 7 B 6 C 15 D 7
	A 主として自分自身に関すること B 主として人との関わりに関すること C 主として集団や社会との関わりに関すること D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	A [向上心、個性の伸長]において、多様な生き方や考え方について扱った教材が取り上げられており、自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、自分自身のよさを伸ばして充実した生き方について考えることができるよう配慮されている。 B 「いじめ」をテーマにしたユニットがあり、[友情、信頼]の教材が各学年にそのユニットの中で取り上げられている。また、教材の終わりに、コラム「視野を広げて」では、生徒の実生活に即した内容が記載されており、各教材での学びをさらに深めることができるよう工夫されている。 C 全学年で複数の内容項目において、二つ以上の教材が取り上げられている。特に〔社会参画、公共の精神〕については1、2年で二つ、3年で三つの教材が取り上げられ、重点化が図られており、よりよい社会の実現に努めようとする心情を育てることができるよう配慮されている。 D 各学年とも〔自然愛護〕に関する教材では、SDGsに関わる教材が掲載されており、自然環境や環境保全についての諸問題や、社会の持続可能な発展について生徒が自分に関わりのあることとして深く考えることができるよう配慮されている。また、〔生命の尊さ〕においては、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、他の生命を尊重する態度を身に付けることができるよう工夫されている。	A 1年「葉っぱ切り絵で見えた道」(pp.42－47) 2年「おじさん役と私」(pp.8－11) 3年「カラフルな世界で」(pp.90－93) B 1年「ソウタとミオ」(pp.72－75) 2年「五月の風－ミカー」(pp.34－37) 3年「違うんだよ、健司」(pp.28－31) C 1年「あったほうがいい？」(pp.112－113) 2年「マークはなんのために？」(pp.136－138) 3年「No Charity, but a Chance!」(pp.68－71) D 1年「あらゆるものに神は宿っている」(pp.106－108) 2年「上勝から世界を変える」(pp.96－99) 3年「『川端』のある暮らし」(pp.122－125)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 道徳的な問題に気付き、その解決に向けて主体的に考えることを促すような発問や、話し合いの手法や整理方法が提示されており、生徒同士の対話が活性化され、深い学びに繋げることができるよう工夫されている。 ・ 別冊「道徳ノート」が付いており、学期末に学習の過程や成果などの記録を集積し、生徒が自らの考えの変容を確認することで、深い学びにつながるよう配慮されている。	(2)・ 1年「どうして？」(pp.88－89) 2年「ヨシト」(pp.74－75) 3年「卒業文集最後の二行」(pp.40－41) ・ 別冊「道徳ノート」
(3) 多様な題材を教材とすることについて配慮されているか。	(3) 日本の47都道府県及び世界の伝記、歴史の実話、論説文や物語などが教材やコラムに織り込まれている。また、地域教材が活用され、その中で写真や地図を多く取り入れることで、地域のよさや魅力に気付くことができるよう配慮されている。	(3) 1年「木の声を聞く」(pp.52－55) 2年「樹齢七千年の杉」(pp.82－87) 3年「稲むらの火」(pp.78－81)	

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取扱 について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1)・ 「いじめと向き合う」、「よりよい社会を考える」など、発達の段階に応じた教材が全学年で取り扱われており、「視野を広げて」のページでは、個々の興味・関心をさらに広げて深め、いじめ防止のスキルや知識を身に付けることができるよう配慮されている。 ・ 資料の挿絵や、「学びを深めよう」のページでは、多様な背景をもつ生徒のイラストが描かれており、ジェンダーの多様性などの互いの違いを認めていくことで、人権意識を高めることができるよう配慮されている。 ・ 身近な生活場面やスポーツ選手の教材、漫画形式やグラフ、QRコンテンツなどが充実しており、生徒が興味・関心を持ち、個別最適な学びができるよう工夫されている。	(1)・ 1年「お互いを認め合うために」(pp.76－77) 2年「自分の考え方を見つめよう」 (pp.38－39) 3年「いじめのない社会へ」(pp.42－43) ・ 1年 (p.156) 2年 (p.4) 3年 (p.4)
	(2) 問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習の取扱いについて配慮されているか。	(2) 役割演技を通して道徳的価値についての考えを多面的・多角的に深めるために、シンキングツールが示されており、体験的に学ぶことができるよう工夫がされている。	(2) 1年「裏庭での出来事」(p.145) 2年「他人の靴を履いてみる」(pp.68－69) 3年「電車の中で」(pp.112－113)
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1)・ いじめやよりよい社会に関わる内容について、異なる内容項目に属する複数の教材やコラムがユニット化されており、多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。 ・ 学年ごとにテーマが設定されており、発達の段階に応じて教材や配列を工夫することで、段階的に自己肯定感を育むことができるよう配慮されている。	(1)・ 1年「さかなのなみだ」(pp.30－33) 2年「五月の風－カナ－」(pp.30－33) 3年「ゴリラのまねをした彼女を好きになった」(pp.86－89) ・ 1年テーマ「新しい自分と『であう』」 2年テーマ「人との関係を『みつめる』」 3年テーマ「よりよい人生を『ひらく』」
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2)・ 学校行事や伝統的な行事、他教科等の内容および実施時期との関係を踏まえ、各教科等における道徳教育の内容について、道徳科において深めることができるよう他教科との関連が図られている。 ・ 2年では職場体験に関する教材やコラムが複数配置されるなど、特別活動などでの多様な体験活動を生かした授業を実践することができるよう工夫されている。	(2)・ 1年「いつわりのバイオリン」 (pp.166－169) 2年「夜のくだもの屋」(pp.110－113) 3年「サトシの一票」(pp.178－181) ・ 2年「おばちゃんのくれた“おまじない”」 (pp.14－17) 2年「挨拶は言葉のスキンシップ」 (pp.18－21) 2年「小さな工場の大きな仕事」 (pp.92－95)

道 徳			
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称			発 行 者 名
1 年		2 年	3 年
道徳 224-72 新版 中学生の道徳 明日への扉 1		道徳 224-82 新版 中学生の道徳 明日への扉 2	道徳 224-92 新版 中学生の道徳 明日への扉 3
株式会社Gakken			
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1) 全学年を通して、A 24、B 21、C 38、D 22の教材で構成されている。	(1) 内容項目の観点別教材数 1 年 (35) A 8 B 7 C 13 D 7 2 年 (35) A 8 B 7 C 12 D 8 3 年 (35) A 8 B 7 C 13 D 7
	A 主として自分自身に関すること	A 全学年の「向上心、個性の伸長」や「希望と勇気、克己と強い意志」において、キャリア教育に関する教材が取り上げられている。多様な人々の生き方から、困難を乗り越え自分のよさを伸ばしていこうとするなどの自分の生き方について考えを深めることができるよう配慮されている。	A 1 年「イチローの軌跡」 (pp. 142－145) 2 年「ジャッジとチャレンジ」 (pp. 54－57) 3 年「スポーツの力」 (pp. 166－170)
	B 主として人との関わりに関すること	B 各学年に「多様性」のユニットがあり、「相互理解、寛容」の教材がそのユニットの中に配置されている。「LGBTQ」などの現代的な課題が取り上げられており、多様な価値観に触れ、共に生きていくことの大切さについて考えることができるよう配慮されている。	B 1 年「らしさってなんだろう」(pp. 118－123) 2 年「先輩がくれたひと言」(pp. 74－77) 3 年「電車の中で」(pp. 82－85)
	C 主として集団や社会との関わりに関すること	C 全学年で「遵法精神、公德心」、1 年では「国際理解、国際親善」、2 年では「よりよい学校生活、集団生活の充実」、3 年では「公正、公平、社会正義」などに関する教材が取り上げられており、集団や社会との関わりについて、バランスよく学ぶことができるよう配慮されている。	C 1 年「エルトゥールル号の遭難」 (pp. 32－36) 2 年「未来に響け“復興と太鼓”」 (pp. 138－141) 3 年「アップロード ダウンロード」 (pp. 26－28)
	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	D 「いのち」を最重要テーマとして掲げ、全学年で「生命の尊さ」について、三つずつ教材が掲載されており、生命の根源に触れ、生きていることの不思議さや尊さについて、発達の段階を考慮して深く考えていくことができるよう配慮されている。	D 1 年「妹が生まれて」 (pp. 18－20) 2 年「そこにいるだけでいい」 (pp. 64－67) 3 年「余命ゼロ 命のメッセージ」 (pp. 22－24)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2) ・ 「クローズアップ」では、教材内容に即した資料を示すことで、教材を軸に多面的・多角的に問題を捉え、自分自身を見つめ直し、考えを深めることができるよう工夫されている。 ・ 「メモ欄」にその時の考えや思いを書き止め、「深めよう」で「メモ欄」に記入した内容や他者の考えを基に、段階的に考えを深めていくことで、自己決定することができるよう工夫されている。	(2) ・ 1 年「知ることから始めよう～人数から見える世界～」 (p. 89) 2 年「家族に思いを伝えていますか」 (pp. 116－117) 3 年「見方を変えようと」 (p. 55) ・ 1 年「バスと赤ちゃん」 (pp. 10－13) 2 年「ごみ収集場所をどこに」 (pp. 20－23) 3 年「領民を愛した名君上杉鷹山」 (pp. 96－101)
	(3) 多様な題材を教材とすることについて配慮されているか。	(3) 生徒になじみのある有名な人物の論説文や、漫画を基にした情報モラルに関する教材を通し、直接的、間接的により良いSNSとの関わり方を考えることができるよう工夫されている。また、同じテーマを次の学年に引き継ぎ、生徒の学びを継続することができるよう配慮されている。	(3) 1 年「うわさで決めるの？」(pp. 22－24) 2 年「つい言い過ぎて」(pp. 108－110) 3 年「〇〇流デジタルライフ」(pp. 10－13)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。 (2) 問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習の取扱いについて配慮されているか。	(1) ・ 全学年に三つのユニット学習の項目が設けられており、発達の段階に合わせ、段階的に学びを深化し、3年間で統合することができるよう教材間の関連が図られている。 ・ 資料に登場した人物等からのメッセージが掲載されており、学びを日常生活に生かそうとする意欲を高めることができるよう工夫されている。 (2) 「深めよう」では、話合いの手順や視点が具体的に示されており、役割演技や話合いを通して、問題点を焦点化し、問題解決に向けて主体的に考えることができるよう配慮されている。	(1) ・ 1年 (pp. 46－61) 2年 (pp. 46－61) 3年 (pp. 30－43) ・ 1年 (p. 59) 2年 (p. 87) 3年 (p. 95) (2) 1年「裏庭での出来事」(p. 45) 2年「キャッチボール」(p. 71) 3年「笛」(p. 61)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。 (2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(1) ・ 「多様性」と「いじめ防止」について、教材間の連携が図られており、年間を通じていじめのない社会づくりに取り組もうとする意欲を育むことができるよう工夫されている。全学年において「SDGs」、「多様性」、「キャリア」のユニットが配置され、広い視野をもって多面的・多角的に考えを深めることができるよう配慮されている。 ・ 「いのちの教育」では、他者と共によりよく生きることについて考え、自分の成長を実感しながら、未来に向かって歩んでいこうとする意欲を系統立てて育むことができるよう配慮されている。 (2) ・ 全教材において、各教科との関連が図られており、生徒たちにとって大きなテーマである現代的な課題との関連が明確になるよう配慮されている。 ・ 全学年複数の教材において、環境問題を始めとして、自然そのものへの愛情や畏敬の念にあらためて気付くことができる内容が取り上げられ、SDGsとの関連が図られている。	(1) ・ 1年「日曜日の朝」(pp. 104－105) 2年「サキとタク」(pp. 38－41) 3年「卒業文集最後の二行」(pp. 130－133) ・ 1年「黒い弁当」(pp. 38－40) 2年「美しい母の顔」(pp. 112－115) 3年「亡き母のトランペット」(pp. 182－187) (2) ・ 1年「金色の稲穂」(pp. 90－93) 2年「旗」(pp. 14－18) 3年「百年たっても」(pp. 18－21) ・ 1年「トキのいる里をもう一度」(pp. 52－55) 2年「コスモスR計画」(pp. 28－31) 3年「ルリボカシカミキリの青」(pp. 122－125)

道 徳			
種 目			
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称			
発 行 者 名			
1 年		2 年	3 年
道徳 232-73 中学生の道徳 1		道徳 232-83 中学生の道徳 2	道徳 232-93 中学生の道徳
あかつき教育図書株式会社			
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1) 全学年を通して、A 24、B 21、C 36、D 24の教材で構成され、各視点の教材数が統一されている。	(1) 内容項目の観点別教材数 1 年 (35) A 8 B 7 C 12 D 8 2 年 (35) A 8 B 7 C 12 D 8 3 年 (35) A 8 B 7 C 12 D 8
	A 主として自分自身に関すること	A [自主、自律、自由と責任]が各学年三つずつ取り上げられ重点化されており、自らを律し、自分や社会に対して常に誠実でなければならないことを自覚し、人間としての誇りをもち責任ある行動について考えることができるよう配慮されている。また、[希望と勇気、克己と強い意志]は各学年で二つずつ取り上げられており、自分の弱さに打ち勝ち、一つの目標に向けて、計画的に実行することについて考えることができるよう工夫されている。	A 1 年「ネット将棋」 (pp. 54－57) 2 年「ジョイス」 (pp. 20－23) 3 年「小さな手鏡」 (pp. 176－178)
	B 主として人との関わりに関すること	B 各学年、[友情、信頼]の内容の教材が二つずつ取り扱われており、それぞれの学年で「いじめ」や「共生」、「キャリア」など、現代的な課題と関連付けることで、課題を自分のこととして捉え、望ましい人間関係を築いていこうとする態度を養うことができるよう配慮されている。	B 1 年「パラリンピックを駆け抜けた『きずな』 一道下美里」 (pp. 84－88) 2 年「嵐のあとに」 (pp. 96－101) 3 年「二人の進路選択」 (pp. 108－113)
	C 主として集団や社会との関わりに関すること	C 全学年で[遵法精神、公德心]、[公正、公平、社会正義]、[家族愛、家庭生活の充実]において、二つずつ教材が取り上げられており、系統的に学ぶことで、理解を深めることができるよう工夫されている。	C 1 年「ライオンが逃げた」 (pp. 64－66) 2 年「迷惑とは何ぞ」 (pp. 154－157) 3 年「おひだまり」 (pp. 14－18)
	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	D 全学年において[生命の尊さ]、[よりよく生きる喜び]の項目について三つずつ教材が掲載されており、重点化されている。また、複数の教材から命を見つめ、生命の大切さや繋がりについて、考えを深めていくことができるよう工夫されている。	D 1 年「自分の番 いのちのバトン」 (pp. 50－52) 2 年「あなたの『生きようとする力』」 (pp. 24－26) 3 年「十五分後の奇跡」 (pp. 20－22)
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・「MY PLUS」では、話し合いの手順が示されることで、生徒同士の議論が促され、道徳的な問題を多面的・多角的に捉え、自らを見つめ直し、自己の生き方について対話を通して考えることができるよう配慮されている。 ・教材ごとに「自分との対話」が設定されており、自分自身や道徳的価値について問い直し、深い学びにつながるよう工夫されている。 ・各教材の最後には、二つずつの発問が設定されており、道徳的な問題を自分のこととして捉えたり、対話的に学んだりすることができるよう工夫されている。	(2) 1 年「島耕作 ある朝の出来事」 (pp. 90－93) 2 年「北の大地から野生の猛禽を守る」 (pp. 90－95) 3 年「挨拶のちから」 (pp. 24－27) 全学年・全教材 1 年「ヨシト」 (pp. 24－27) 2 年「消えない落書き」 (pp. 30－33) 3 年「二通の手紙」 (pp. 98－102)
	(3) 多様な題材を教材とすることについて配慮されているか。	(3) 昨今のオリンピック等で活躍しているスポーツ選手の生き方や競技に向かう姿が扱われており、本人の話や写真等の教材を通して失敗や困難をどのように乗り越えればよいか、様々な考えに触れることができるよう工夫されている。	(3) 1 年「挑戦することに生きる一羽生結弦」 (pp. 18－22) 2 年「第二の水泳人生一池江璃花子」 (pp. 12－15) 3 年「夢へのステップー大谷翔平」 (pp. 10－13)

大観点	小観点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選択・取扱について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1) ・ 学年別に発達の段階に合わせて自分を見つめることができるテーマが設定されており、生徒が興味・関心をもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ アスリートや科学者、食品の開発者などの著名人に関する資料が取り上げられており、それらの人物の生き方や実績などに触れ、関心を高めながら、より具体的に考え、道徳的価値に迫ることができるよう工夫されている。 ・ 教材に関する補助資料が充実しており、教材に対する関心を高め、主題に対して多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。	(1)道徳 はじまりの時間 1年「小さな勇気」(pp. 6－10) 2年「自分の人生って。」(pp. 6－10) 3年「自分と向き合う」(pp. 6－9) 1年「初めての実験―山中伸弥」(pp. 110－113) 2年「ミスター・ヌードル―安藤百福」(pp. 64－69) 3年「ネルソン・マンデラ」(pp. 146－151) 1年「アップルロード大作戦」(pp. 72－77) 2年「イチロー選手のグローブ」(pp. 70－73) 3年「分身ロボットカフェへようこそ」(pp. 78－81)
	(2) 問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習の取扱いについて配慮されているか。	(2) 役割演技等の体験的な学習や、問題解決的な話し合い活動が取り入れられており、生徒が様々な視点から具体的な場面を想像したり考えたりすることができるよう配慮されている。	(2) 1年「おかしな礼儀」(pp. 16－17) 2年「いつでも・どこでも・SNS」(pp. 46－47) 3年「白鳥さんとのアート鑑賞を考えよう」(pp. 76－77)
3 組織・配列等について	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1) ・ 「いじめ防止」と「生命尊重」を重要課題として教材を配列し、特にいじめ防止については、学年ごとに複数の教材を設けるなど、重点的に学ぶことができるよう配慮されている。 ・ 現代的課題（情報モラル、キャリア教育等）などの一部のテーマについては、学年の中で連続的に学習できるようユニット化され、生徒が考えを深めることができるよう工夫されている。	(1) 1年「ある日のバターボックス」(pp. 28－31) 2年「君、想像したことある？」(pp. 28－29) 3年「君たちはどう考え、どう生きるか」(pp. 38－41) ・ 第1学年学習ユニット 情報モラル… 7・9月、キャリア形成… 11月 第2学年学習ユニット 情報モラル… 6・7月、キャリア形成… 9月 第3学年学習ユニット 情報モラル… 7月、キャリア形成… 11月
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) ・ 「内容一覧」が巻末に示され、他教科等や教育活動、年中行事との関連を踏まえ、教材が配列されており、それらと関連を図りながら学習に取り組むことができるよう配慮されている。 ・ 教材のあとの補助資料「Thinking」が配列されており、各教材の内容項目と他教科等と関連させることで、さらに考えを深めることができるよう配慮されている。	(2) ・ 1年「夜のくだもの屋」(pp. 128－133) 2年「ネパールのビール」(pp. 174－178) 3年「風にたつライオン」(pp. 104－107) ・ 1年「勇気が湧く言葉」(p. 11) 2年「人生を巡る名言」(p. 11) 3年「『友達』限定？」(p. 55)

道 徳			
教 科 用 図 書 の 記 号 ・ 番 号 ・ 名 称			発 行 者 名
1 年		2 年	3 年
道徳 233-72 道徳 中学校 1 生き方から学ぶ		道徳 233-82 道徳 中学校 2 生き方を見つめる	道徳 233-92 道徳 中学校 3 生き方を創造する
大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
1 内 容 に つ い て	(1) 学習指導要領に示された目標や内容について配慮されているか。	(1) 全学年を通して、A 24、B 20、C 42、D 16の教材とガイダンス 3 で構成されている。	
	A 主として自分自身に関すること	A 「真理の探究，創造」において、人間としてどう生きるかということを探求していくための「哲学」的視点について考える教材が、各学年で取り上げられている。真理や真実を求めつつ、新しいものを創造していこうとする態度を育むことができるよう配慮されている。	
	B 主として人との関わりに関する こと	B 各学年で、「いじめ、人権」をテーマにした教材が取り上げられ、発達の段階に応じてより深く考えることができるよう配慮されている。1、2 年では〔友情，信頼〕の教材で、友人との関わり方から「いじめ，人権」を考え、3 年では〔相互理解，寛容〕の教材で、より客観的に「いじめ，人権」について考えることができるよう工夫されている。	
	C 主として集団や社会との関わり に関すること	C 全学年で複数の内容項目において二つ以上の教材が取り上げられており、集団や社会との関わりについて学ぶことができるよう配慮されている。また〔勤労〕については、各学年の発達の段階に合わせた教材が配置され、発展的に学ぶことができるよう工夫されている。	
	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わり に関すること	D 各学年とも〔生命の尊さ〕に関する教材では、人間の生命だけでなく、動物の生命についても取り上げられている。また、生命倫理や自らのあり方とも関連が図られ、生命の尊厳について考えを深めていくことができるよう配慮されている。	
	(2) 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習及び指導ができるよう配慮されているか。	(2)・ 「考えよう」、「深めよう」では、掲載されている発問について深く考えることで、自分の見方や考え方が変容したり、深まったりしていることを実感することができるよう配慮されている。 ・ A「自分自身とのかかわり」、B「人とかかわり」、C「集団や社会とのかかわり」、D「自然や崇高なものとかかわり」の四つの視点ごとに、身の回りの人たちとの関わりの中にある関係が四コマ漫画で表現されており、生徒同士の対話や議論を促すことができるよう工夫されている。	
	(3) 多様な題材を教材とすることについて配慮されているか。	(3) 「人権」をテーマとした教材では、国連でのスピーチや、児童労働についての論説文、性同一性障害の高校生の実話や公害による被害者の実話をもとに、「人権とは何か」について考えたり、認識を深めたりすることができるよう工夫されている。	
		(1) 内容項目の観点別教材数 1 年 (34) A 8 B 7 C 13 D 6 2 年 (34) A 7 B 6 C 15 D 6 3 年 (34) A 9 B 7 C 14 D 4 ガイダンス 各学年 1 ずつ A 1 年「自由ってなあに」 (pp. 36－40) 2 年「幸福ってなあに」 (pp. 34－38) 3 年「愛ってなあに」 (pp. 44－48) B 1 年「いつも一緒に」 (pp. 58－64) 2 年「一通のメッセージから始まる物語」 (pp. 57－59) 3 年「外見で決めないで」 (pp. 71－74) C 1 年「中央市場は働いている」 (pp. 96－99) 2 年「劔岳に魅せられて」 (pp. 92－95) 3 年「惣菜屋のおばちゃんと私」 (pp. 100－105) D 1 年「どうにかできない？～ペットの殺処分～ (pp. 132－135) 2 年「語りかける目」 (pp. 136－139) 3 年「命をつなぐ」 (pp. 142－145) (2)・ 1 年「秋の実力テスト」 (pp. 12－15) 2 年「マナーとルール」 (pp. 66－69) 3 年「領民を幸福にすることこそ」 (pp. 12－15) ・ 1 年 視点ごと (pp. 7、41、73、127) 2 年 視点ごと (pp. 7、39、65、131) 3 年 視点ごと (pp. 7、49、79、141) (3) 1 年「未来を創るために～マララ・ユサフザイ『国連スピーチ』」 (pp. 84－87) 2 年「“生きづらさ”と向き合う」 (pp. 76－79) 3 年「豊かなれ阿賀の流れよ」 (pp. 88－91)	

大観 点	小 観 点	調 査 の 結 果	
		小観点及び全体的なもの	特記事項
2 程度・選 択・取扱 について	(1) 発達の段階、興味・関心について考慮されているか。	(1) ・ 全学年で「リョウとマキ」という同一主人公の教材が扱われており、生徒が自分自身の悩みや葛藤と比較したり、重ねたりすることで、興味・関心を高めることができるよう配慮されている。 ・ [自主, 自律, 自由と責任]、[真理の探究, 創造]、[遵法精神, 公德心]といった多岐にわたる内容項目を「情報モラルを学ぶ」という現代的な課題と関連付けることで、興味・関心を高めることができるよう配慮されている。	(1) ・ 1 年「リョウとマキ～First Love～」 (pp. 52－57) 2 年「リョウとマキ～TriangleZone～」 (pp. 51－56) 3 年「リョウとマキ～Stand by me～」 (pp. 66－70) ・ 1 年「情報の光と闇～ファクトチェック～」 (pp. 32－35) 2 年「言葉の向こうに」 (pp. 60－64) 3 年「SNSでの誹謗中傷」 (pp. 84－87)
	(2) 問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習の取扱いについて配慮されているか。	(2) 話し合い活動で自分が大切にしている価値を「ウェルビーイングカード」を用いて認識することで、教材に対して自分や他者のもつイメージを把握し、それぞれの価値観を尊重しながら議論することができるよう配慮されている。	(2) 1 年「稲村さんの苦悩」 (pp. 8－11) 2 年「『用具係』、動くか」 (pp. 107－110) 3 年「Flower Bus Stop」 (pp. 8－11)
3 組織・配 列等につ いて	(1) 構成、配列、系統性について配慮されているか。	(1) ・ 全学年にわたり「いじめ」の問題を直接的に扱う教材と、「いじめ」につながりかねない日常のあり方について注目する間接的な教材が掲載されており、いじめにつながる問題を多面的・多角的に考えることができるように配慮されている。 ・ 視点別内容項目順に教材がまとめて配列されることで、「啓発月間・週間の行事に沿った配列」や「学校行事に沿った配列」等、各学校の年間指導計画に拠ったカリキュラム編成をすることができるよう配慮されている。	(1) ・ 1 年「いじめ問題と向き合う」 (pp. 82－83) 2 年「いつかは言いたい二度目のごめん」 (pp. 152－155) 3 年「彼と私のありがとう」 (pp. 75－78) ・ A 自分自身と向き合う B 人とのかかわり C 集団や社会とのかかわり D 自然や崇高なものとのかかわり
	(2) 他教科等との関連について配慮されているか。	(2) ・ 巻末に道徳の内容項目の「四つの視点」と関連する26枚の「ウェルビーイングカード」があり、道徳の授業を通して、よりよく生きていくことについて考えることができるよう工夫されている。 ・ 発達の段階を踏まえ、学年を追って、生徒が興味・関心やイメージをもって課題に向かうことができるよう、他教科等との関連が図られている。	(2) ・ 巻末付録 ・ 1 年「ネパールのビール」 (pp. 148－152) 2 年「伝統のケーキ」 (pp. 119－120) 3 年「気候変動で私たちができること」 (pp. 16－19)